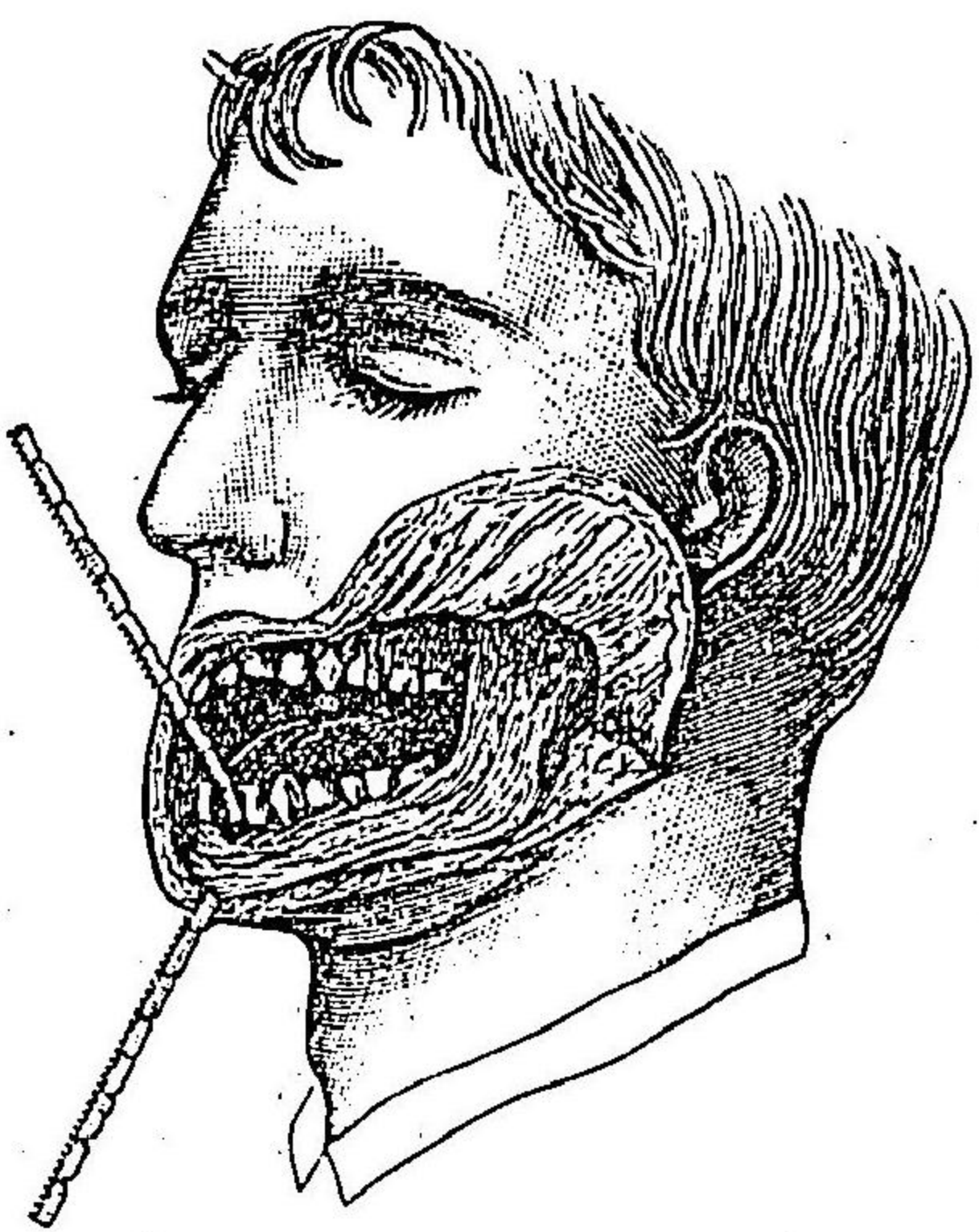


軟部ノ切離對側半部トノ連續切離及ビ後處置ヨリナル  
 (一)軟部ノ切離

先ツ下顎骨下緣ニ沿フテ頤部中線ヨリ隅角或ハ其僅ニ後方ニ達スル橫切開  
 ト中線ニ於テ下唇ヲ兩斷スル縱切開トヲ施コス切開ニ方リテハ隅角後方ニ於  
 テステノン氏管及ヒ顔面神經ヲ毀傷セサル様ニ注意スベシ外顎動脈ノ分斷セ  
 ラレタルキハ直ニ結紮スベシ

是ニ於テ骨面ヨリ軟組織ヲ  
 剝離ス即初メ先ツ骨膜起子ヲ  
 以テ下顎骨前面ヨリ咬筋及ビ  
 骨膜ヲ剝離シ次テ後面ヨリ諸  
 種ノ筋肉及ビ骨膜ヲ剝離シ齒  
 槽緣ニ沿フテ軟組織ヲ明確ニ  
 截斷シ凡テ後上方ニ遠サク  
 レバ顎骨ノ大部ヲ充分露出セ  
 シムルヲ得ベシ

圖 六 十 百 第



(氏 ヒ ル マ ス エ)

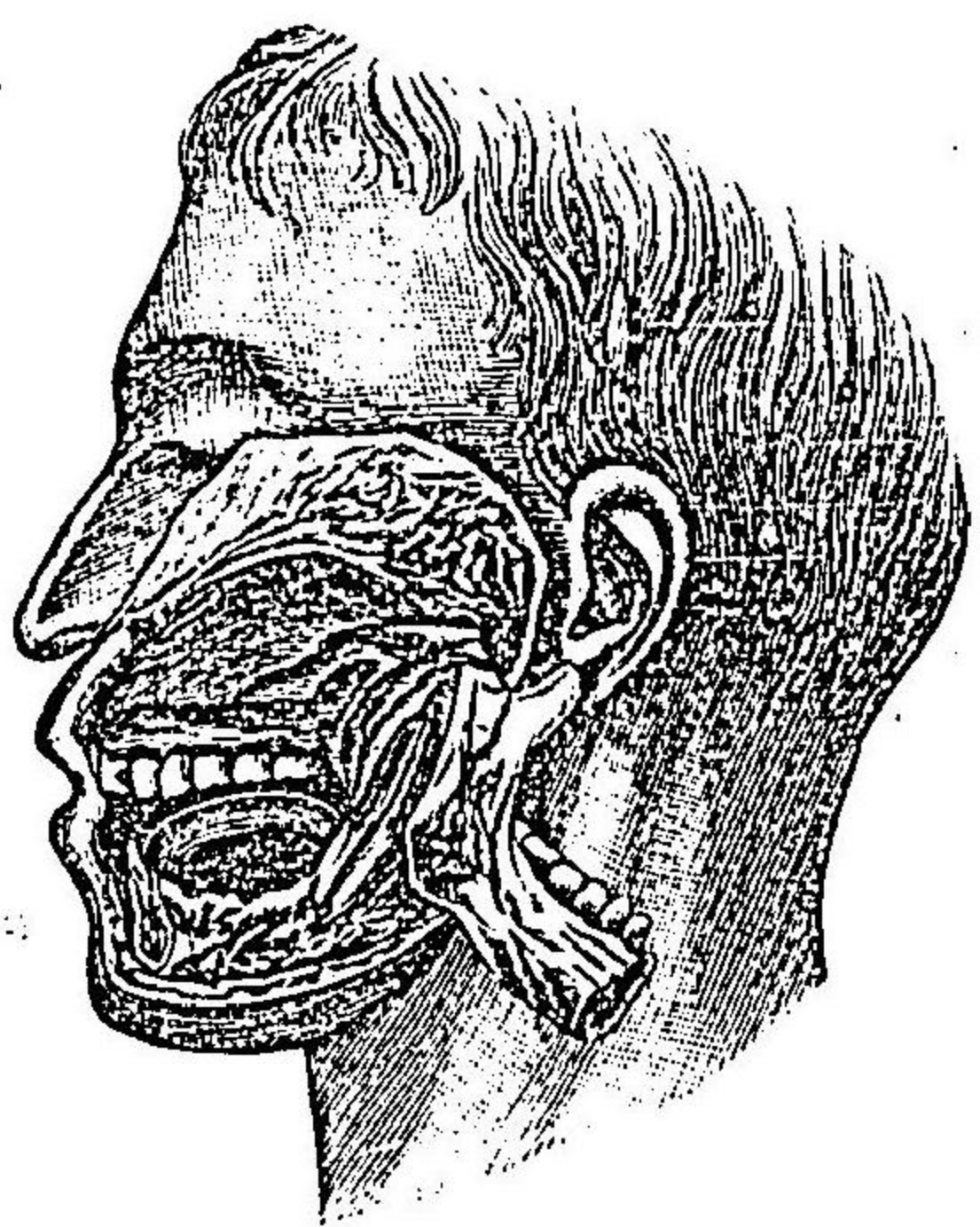
(二)骨連續ノ切離

一、先ツ頤部中線ニ於テ對側半部ヨリ切離スルヲ要ス即チ鏈鋸ヲ後面ヨリ  
 繞ラシテ鋸斷スルヲ便トス(第百十六圖)刺鋸旋盤用平圓板鋸又用ユベシ

二次テ關節端ヲ離斷ス即チ軟組織ヲ後上方ニ遠サケ露出シタル顎骨體ヲ強  
 ク下方ニ牽引シテ摘出スベシ此

際骨枝ニ附着セル軟部及筋肉ハ  
 便宜起子或ハ刀ヲ以テ挺起或ハ  
 切斷スルヲ要ス(第百十七圖)關節  
 囊ハ顎骨ヲ廻轉移動スルニヨリ  
 テ容易ニ斷裂セシメ得ルモノト  
 ス但シ關節ノ内側ヲ走ル内顎動  
 脈ヲ毀傷セサル様注意スベシ  
 (三)後處置

圖 七 十 百 第



(氏 ヒ ル マ ス エ)

下齒槽動脈其他ノ結紮止血ニ注意シ粘膜緣ニ腸線縫合ヲ施コシタル後通法  
 ノ如ク皮膚ヲ縫合スベシ時トシテ排膿管ヲ挿入ス

口腔ノ清潔ヲ怠ルコトナク食餌ハ數日間食道消息子ニヨリテ攝取セシムベシ  
後○療○法○

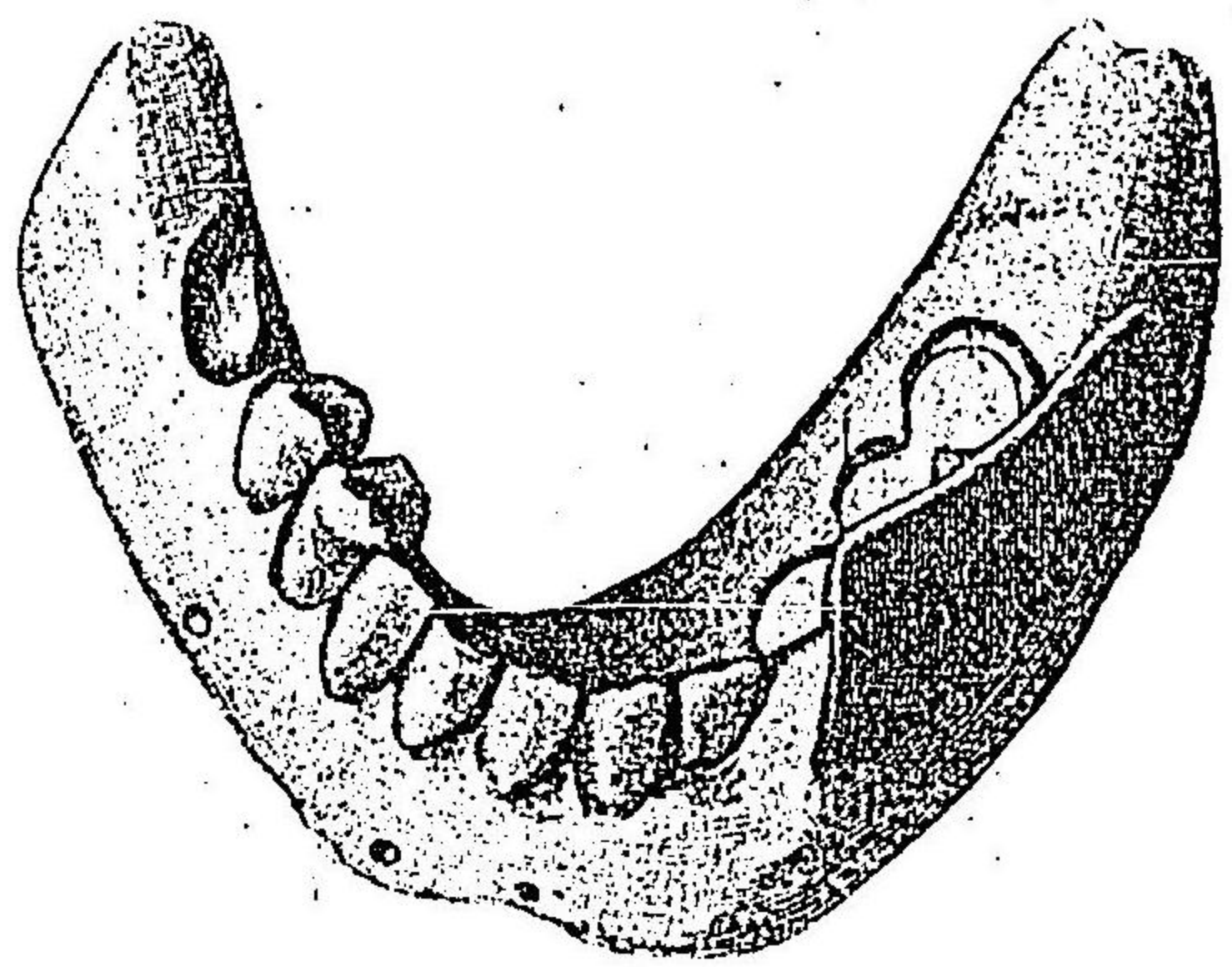
偏側全部切除術ヲ施コスキハ常ニ必ラズ斷端位置ノ變當ヲ生起シ咀嚼困難  
或ハ不能トナリ外貌醜惡見ルニ忍ヒサルモノアリ又口腔ハ狹小トナリ舌モ亦  
後方ニ沈下スルコトアルベシ

故ニ此惡結果ヲ防止シ口腔ノ機能ヲ營爲シ得ル様或種ノ方法ヲ講セザルベ  
カラズ補綴器ノ着用ヲ其普通ナルモノトス顎骨偏側ノ全部ヲ切除スルキハ其  
後方ニ補綴器ノ支持トナルヘキモノ存在セサルヲ以テ之レヲ保持着用セシム  
ルコト極メテ困難ニシテ其結果又極メテ完全ナル能ハズ故ニ下顎骨切除ニ方リ  
テハ能フベクンバ偏側全部ノ切除ヲ避ケ後方ニ顎骨枝或ハ隅角附近迄ヲ殘存  
セシムルヲ以テ佳ナリトナス

偏側全部切除術ニ方リテハ一部連續切除術ト異ナリテ切除後直チニ補綴器  
ヲ着用セシムルニ及バズ創縁ノ略癒合シタル時ヨリ之レヲ初ムレハ足レリ偏  
側切除ヲナシタルモノニ要スル補綴器ハ他側ノ齒牙ヲ堅ク圍繞スル鈎或ハ鑲  
帶ヲ以テ維持セシム巴拉イト式ノ如キ之ナリ(第百十八圖)

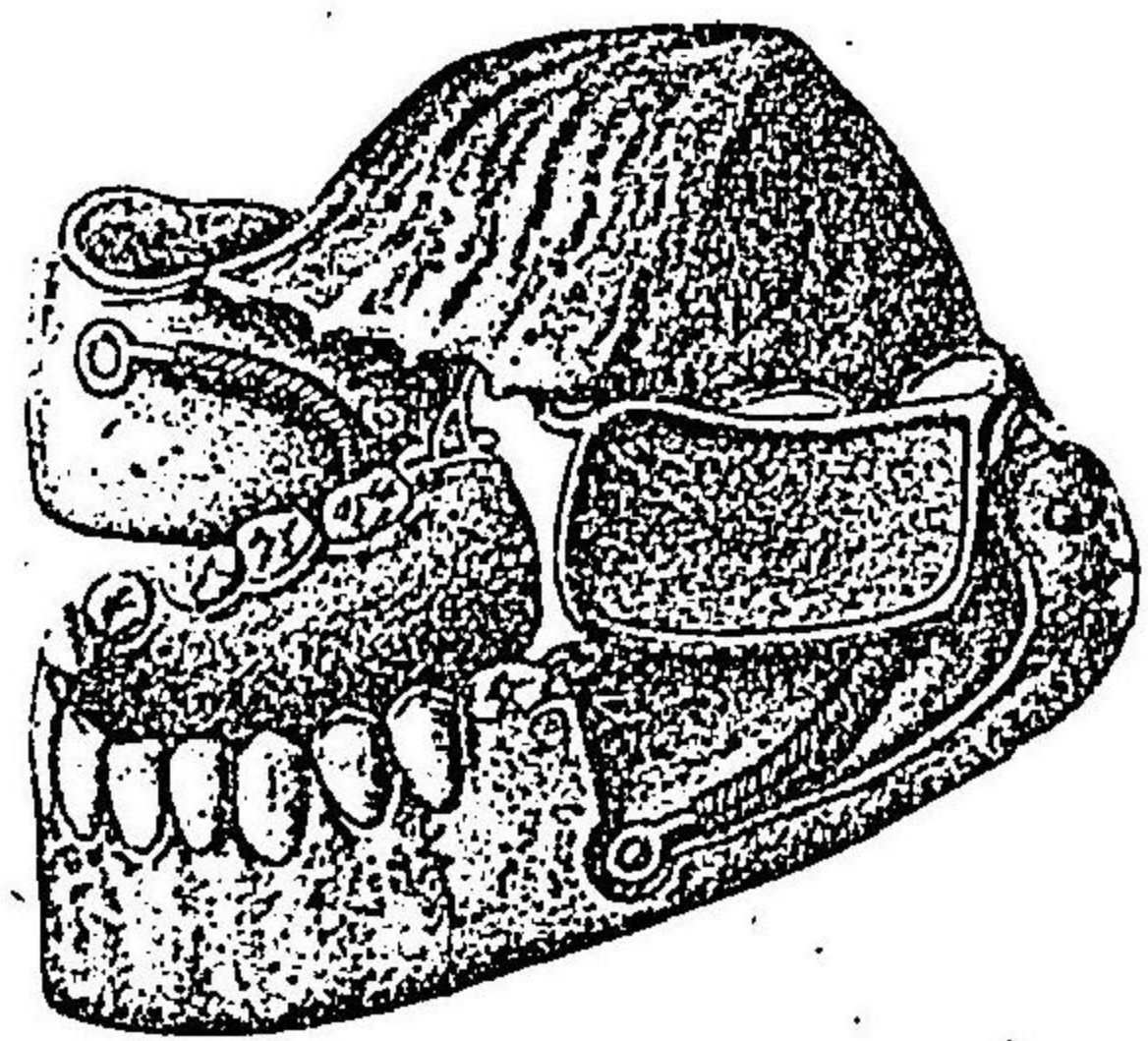
第百十八圖

巴拉イト式



第百十九圖

ウヰエ式



下○顎○骨○全○摘○出○術○

磷毒腐骨疽骨髓炎ニヨル腐骨疽等ノタメニ顎全部ノ疾患ニ罹リタルキ僅ニ  
行ハル、コアルノミ極メテ稀ナリ

術式ハ偏側全切除術ニ於テ行ヒタルモノヲ兩側ニ於テ反覆スレバ足レリト  
ナス舌ノ沈下從テ嚥下困難及ビ呼吸困難ヲ生ズルノ患大ナリ

早期ヨリ補綴器ヲ着用セシムルヲ要ス然レモ其維持極メテ困難ニシテ上顎ヨリ螺旋發條等ヲ緊張セシメテ僅ニ其位置ニ固定スウィッツェル式ノ如キ之レナリ(第百十九圖)

### 第二項 下顎骨一部性切除術 Partial Resection of Lower Jaw.

下顎骨切除術中最多ク行ハル、處ニシテ又最豫後ノ佳良ナルモノナリ主トシテ齒齦腫其他ノ良性腫瘍ニ適應ス

術式。

切除セントスル顎骨ノ部分ニヨリテ多少ノ差異アリ  
(一) 下顎齒槽突起切除術、

上顎ニ於ケルモノト全ク相同ジ只隅角附近ニ於ケル齒槽突起ヲ切除スルニハ隅角部ノ皮創ヨリ侵入スルコトアリ

(二) 下顎骨體部連續切除術、

頰內的ニ施コスモノト頰外的ニ施コスモノトアリ

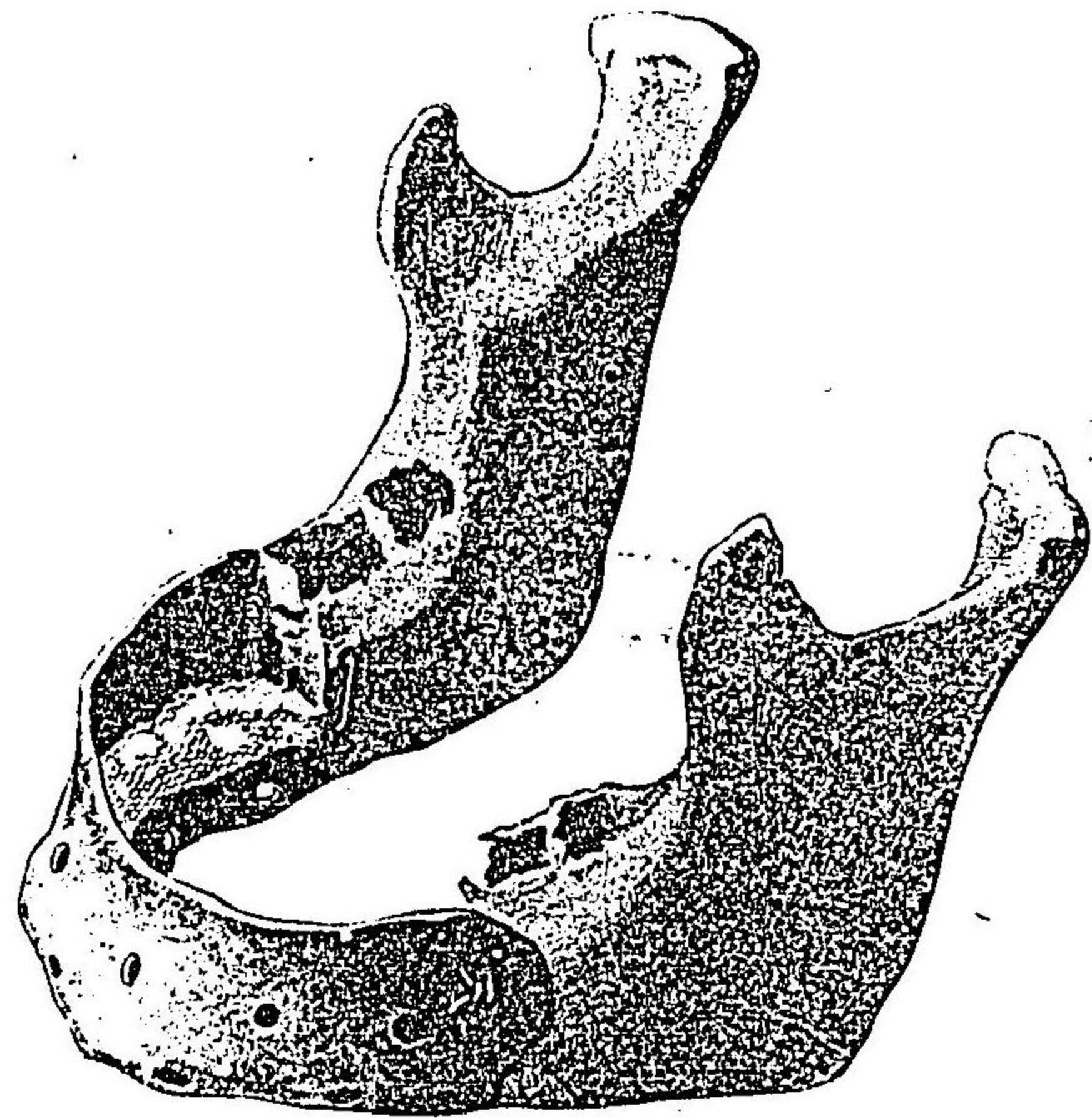
頰內的ニ施術センニハ先ヅ該部ニ於ケル齒牙ヲ拔去シ齒槽線上ニ切開ヲ加エ之レヨリ軟組織ヲ深ク顎骨ノ内外兩面ニ沿フテ剝離シ下顎骨下縁ニ達シ此ニ於テ鋸鋸ヲ一側ヨリ他側ニ繞ラシ鋸斷スルニアリ或ハ注意シテ鑿刮スルモヨシ

頰外的手術ハ夫ノ偏側全部切除法ト同一理ニヨリ下唇ヲ縦切シ下顎骨下縁ニ沿フテ軟組織ヲ切離シ骨體ヲ露出シ兩處ニ於テ鋸斷切除スル方法ナリ

下顎骨連續切除術ヲ施コスキハ其兩斷端ハ筋力ニヨリ忽チ相近邇シテ咬合状態ヲ全然變常セシメ或ハ口腔ノ機能ヲ全然廢絶セシメ或ハ窒息状態ヲ生ズルコト稀ナラズ故ニ連續切除術ヲ施コシタルキハ直ニ所謂暫時的補綴器ヲ兩斷端間ニ介在セシメテ此弊ヲ豫防スルヲ要ス即チ切除ヲ行フニ先ダテ兼テアルミニウム其他ノ材料ヲ以テ切除部ノ長サニ應ジテ副木ヲ調製シ置キ骨質ヲ切除シタル後直ニ副木ノ兩端ヲ顎骨ノ兩斷端ニ結紮或ハ固定シ外部ノ皮創ノミヲ縫合シ創面ノ大略治癒スル迄之レヲ放置ス其方式種々アリ第百二十圖―第百二十三圖ノ如シ創口ノ略ホ治癒シタル後之レヲ除去シテ其ノ缺損部ニ永久補綴器即義齒ヲ調製スルヲ必要トス

第 二 百 二 十 二 圖

ス ト バ ニ 式 暫 時 間 補 綴 器

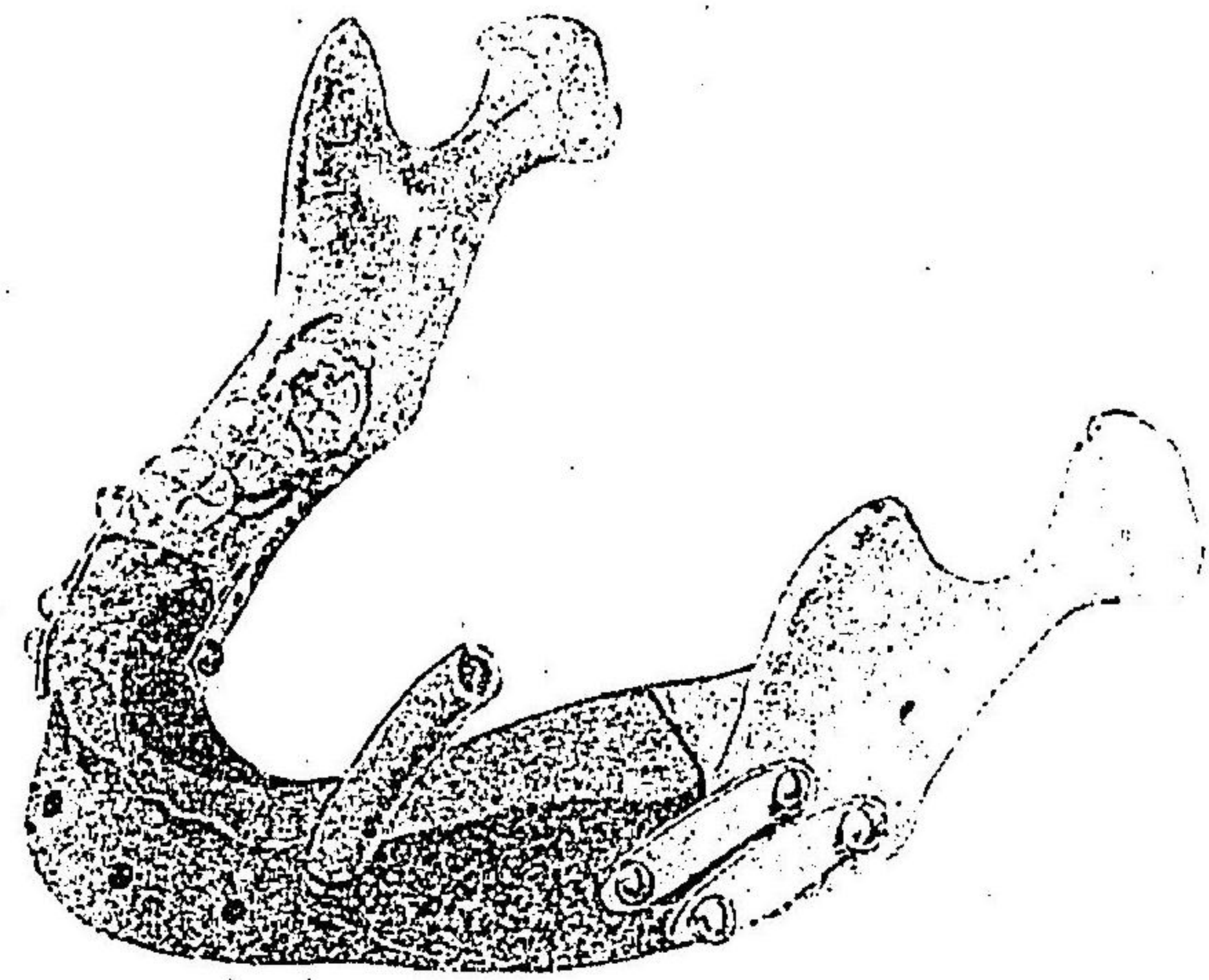


ノ患アルヲ前述ノ如シト雖モ此ノ如ク即時ニ暫時的補綴器ヲ使用セシムレバ大ニ此患ヲ軽減セシムルヲ得ルモノナリ然レモ尙且其ノ患アリタルトキハ舌實質中ニ糸線ヲ穿通シ之レヲ前方皮膚ニ絆創膏ヲ以テ固着シ保持スベシ

(三) 下顎骨枝連續切除術  
隅角部ニ於テ顎骨

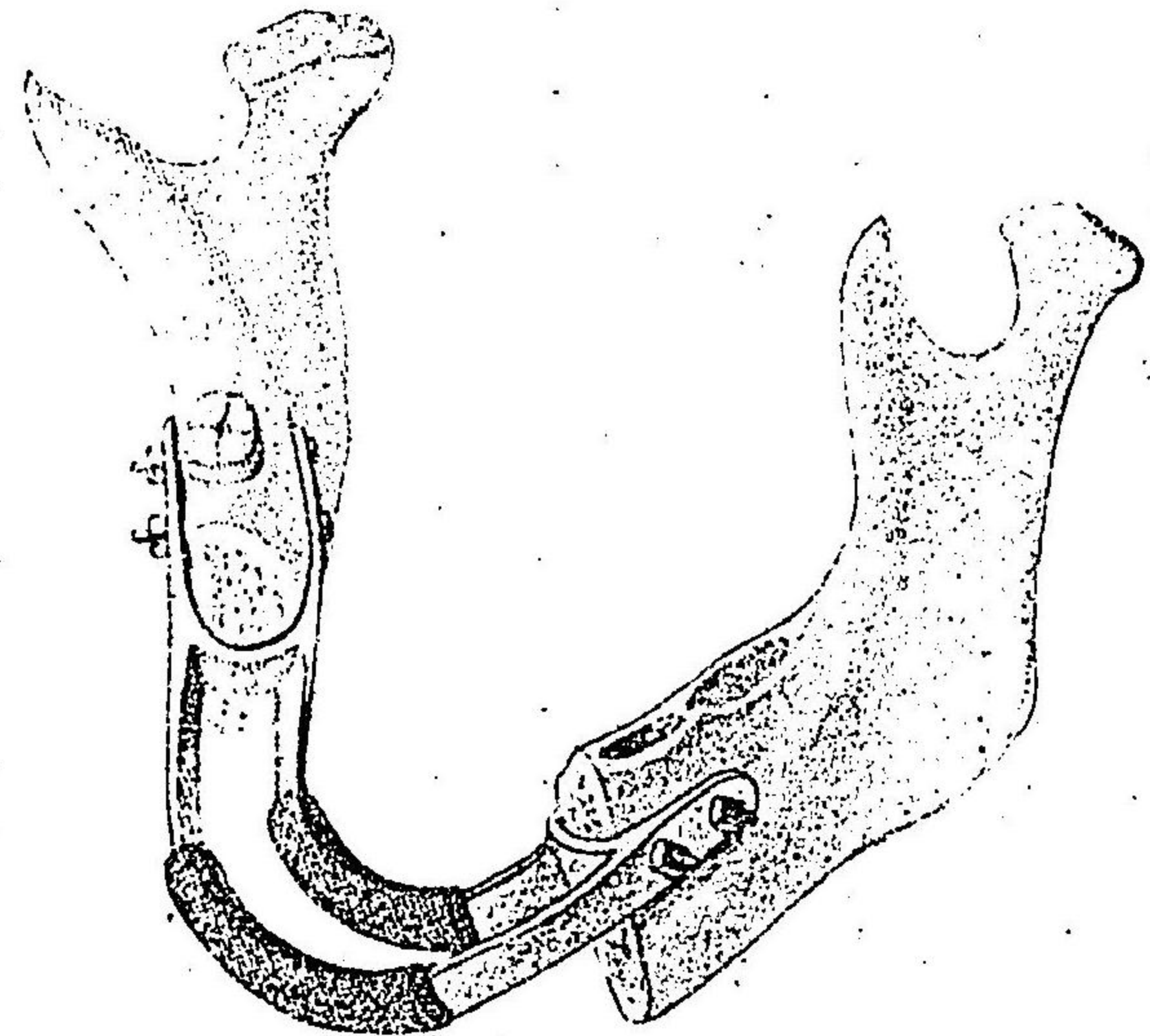
第 二 百 十 二 圖

マ ル タ ン 式 暫 時 間 補 綴 器



第 二 百 十 一 圖

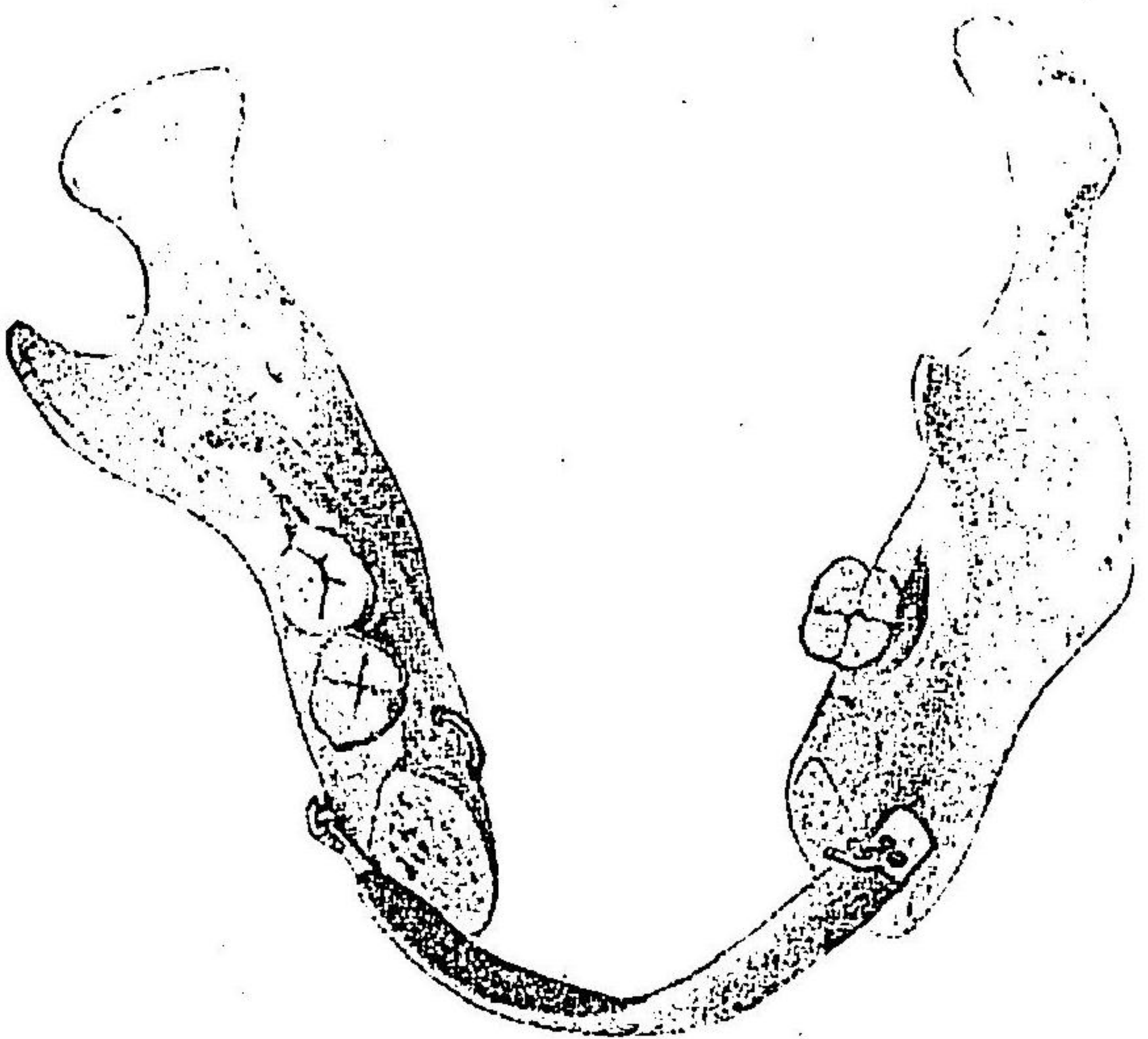
ベ ツ ケ ン 式 暫 時 間 補 綴 器



切除術ヲ施シタルノ後舌ガ顎骨トノ連續ヲ喪失シテ沈降シ窒息ヲ生起スル

第 百 二 十 三 圖

式 ユ ナ ル パ



下縁ニ沿フテ任意長  
ノ切開ヲ加エ骨枝ノ  
内外兩側ニ沿フテ軟  
組織ヲ剝離シ之レヲ  
遠ク壓排シテ骨枝ヲ  
露出シ任意大ノ連續  
ヲ鋸斷切離スルニア  
リ扁桃腺ニ直達スル  
ガタメ之レヲ施コス  
モノアリ

(四) 下顎骨關節突起切  
除術  
下顎關節強直ノ條  
下ニ述ベタリ

第三項 下顎骨一時性切除術 Temporary

Resection of Lower Jaw.

下顎骨骨成形性切除術 Osteoplastic resection.

口底舌扁桃腺等ニ悪性腫瘍又ハ巨大ナル良性腫瘍發生スルヤ口裂ハ以テ之  
レニ自由ニ直達スルニ足ルノ空隙ヲ提供スルヲナシ故ニ下顎骨ヲ一時性ニ切  
除スルヲ極メテ緊要ナリ其法數種アリ

(一) セデーロー正中鋸斷式 Scissor

下唇ヲ正中線ニ於テ縦切シ同方向ニ粘膜及骨膜ヲ通ジテ骨質ニ達スル様軟  
組織ヲ切離シタルノ後一側或ハ兩側ノ中切齒ヲ拔去シ創縁ヲ兩側ニ遠ザケツ  
、下顎骨ヲ正中線ニ於テ鋸鋸或ハ刺鋸ヲ以テ切斷ス  
是ニ於テ縦切開ノ下端ヨリ兩側ニ向ケテ短小ナル皮切ヲ施コシ之レヨリ進  
入シテ下顎ニ附着セル顎舌骨筋顎舌骨筋顎舌筋等ヲ剝離ス  
今ヤ鈍鉤ヲ中線ニ挿入シテ兩側ニ向ケテ強ク顎骨ヲ排開セシムルヲ得ベシ舌  
ノ前方或ハ口底ニ到達スルニハ便利ナル方法ナリ

手術完了後ハ顎骨兩片ヲ復舊シ二三ノ鑢線縫合ヲ施コスヲ安全トス  
(二) ランゲンベック側方鋸斷式 *Langenbeck's*

先ツ刀ヲ口角ヨリ起シテ直下シ甲狀軟骨ノ高サニ達ス而シテ未ダ口腔ヲ開

放セサル前ニ癌性傳染ヲ蒙ムリ

タル顎下淋巴腺ヲ摘出シ且便宜

舌動脈ヲ結紮ス

次デ漸ク進入シテ二腹顎筋及

ヒ顎舌骨筋ヲ切離シ軟組織ヲ兩

側ニ遠ケツ、顎骨ヲ外上方ヨリ

内下方ニ向ケテ斜ニ鋸斷ス

之ニ於テ顎骨ヲ左右ニ強ク排

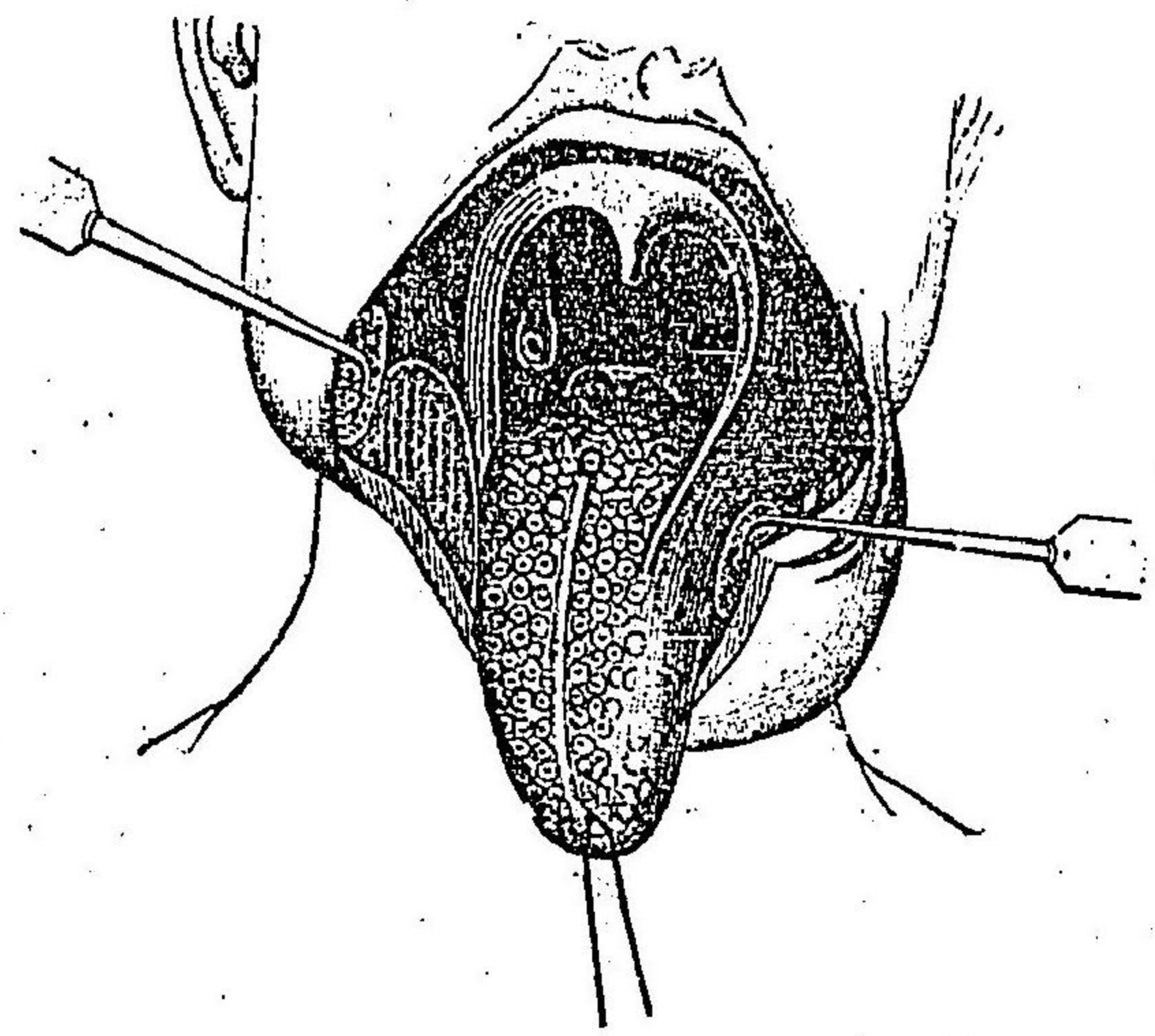
開シ用ニ臨ンテ粘膜附着部ヲ後

方口蓋弓ニ至ルマデ切離スレハ

舌後方扁桃腺ニ直達スル最良ナ

ル空隙ヲ得ベシ之レニ本式ノ稱

第 百 二 十 四 圖  
ラ ン ゲ ン ベ ッ ク 式



用セラル、所以ナリ

兩斷端ヲ復舊シタルキハ鑢線縫合ヲナスコト亦有利ナリ

### 第五章 舌及口底ノ疾患

#### 第一節 舌ノ成形異常

##### (一) 舌缺損、Aglossia

先天性舌缺損ハ極テ稀有ナリジユシウス *Jussicus* (一七一八年)ハ十五歳ノ少女ニ於テスピーレール *Spiller* (一八一六年)ハ初生兒ニ於テ之レヲ見タルヲ報告セリ  
 恐クハ第一頤弓ノ全部及ヒ第二頤弓ノ一部缺損シタルニ據ルモノナルベシ  
 後天性舌缺損ハ癌腫其他ノ悪性腫瘍ニヨル摘出又ハ外傷ノ結果トシテ見ル  
 一アリ

##### (二) 分裂舌、Lingua bifida

先天性分裂舌モ亦極メテ稀有ナリ或ハ舌尖ニ於テ小分裂ヲ生シ或ハ其全長ヲ通シテ離開スベシ *Parise* ハ全長ニ亘レル分裂舌ヲ目撃シ *Poolley* ハ舌尖三仙迷ニ限レル分裂ヲ經驗セリ  
 後天性分裂舌ハ梅毒結核等ノ結果トシテ來ル一アリ或ハ腫瘍摘出ノ結果タ

ル一アリ

分裂ノ度顯著ニシテ其機能ヲ障害スル一アラバ兩縁ニ沿フテ新創面ヲ作り縫合スルヲ要ス

##### (三) 副舌

舌基底部ヨリ生スル良性先天性腫瘍ノ一種ニシテ舌ニ似タル組織ヲ有シ自覺的障害ヲ生起スル一ナシ

##### (四) 舌癒着症、Ankyloglossia

舌縁或ハ其下面ト口底粘膜面ト小部分或ハ大部分ニ亘リテ癒着セルモノヲ云フ或ハ一小索條ニヨリテ連續セラレ或ハ下面ノ大部ガ合一セルモノナル一アリ

先天性舌癒着症ハ主トシテ舌發育不全又ハ子宮内原因ニヨリテ生スルモノニシテ或ハ索條ヲナシ或ハ淺在膜様ヲナス

先天性舌繫帶短小ニヨリテ所謂癒着舌ヲ生スル一アリ  
 後天性舌癒着症ハ舌下面口底ニ於ケル潰瘍外傷化膿等ノ結果トシテ癩痕性癒合ヲナスニ歸因スルモノ多シ

其他舌筋殊ニ願舌筋及願舌骨筋ノ變縮、痕痕收縮等ヲ生起スルモノモ亦後天性舌癒着症ヲ生起スルコアルベシ

療法トシテハ其癒着ヲ剝離スルニアリ然レモ舌運動障害ノ存セザル限リハ敢テ之レヲ急グノ要ナシ

之レヲ剝離スルニ方リ膜様ノモノナレバ指頭ヲ以テ容易ニ分裂セシムルヲ得ベク索條ノモノニアリテハ其大小ニヨリ剪切、燒灼或ハ切離スルヲ得ベシ但シ出血ヲ生起スベキ血管ノ存シタル片ハ便宜之レヲ結紮スベシ

(五) 巨大舌 Macroglossia

舌ガ異常ナル大サヲ有シ象皮病様ノ腫大ヲ呈スルモノヲ云フ時トシテ口外ニ著シク突出スルモノアリ或ハ先天性ニ來リ或ハ晩年ニ於テ顯著ナル發育ヲナス

巨大舌ハ決シテ單一ナル疾患ニアラズ種々ナル病的状態ニヨリ生起セラル其ノ主ナルモノ左ノ如シ

- 一 廣汎性淋巴管腫ニヨルコアリ之レヲ最多ナル巨大舌ノ原因トナス
- 二 筋性巨大舌ト稱スルモノアリ舌ノ筋肉ガ異常ニ肥大セルニ起因スルモノ

ニシテ頻發スルコナク往々先天的ニ來ル

三 葉狀舌 Lingua plica

ト稱スルモノアリ舌ハ全體ニ肥大シ略其概形ヲ保ツト雖モ其表面平坦ナラズ多少對稱的ニ排列スル無數ノ凹溝ヲ顯ハシ其中線ニ相當スルモノ最深大ニシテ概觀葉狀ヲナスヲ以テ此ノ名アリ舌乳頭ハ其突出セル表面ニアリテハ存在スト雖モ凹溝内ニアリテハ缺如スルコト常ナリ

四 全身性疾患ノ一現象トシテ巨大舌ヲ見ルコアリ例之肢端肥大症、屈列陳病、半側肥大症等ニ於ケルガ如シ

五 舌疾患ノ結果トシテ一時性或ハ永久的ノ巨大舌ヲ生スルコアリ例之梅毒性疾患及ビ腫瘍等ノ如シ然レモ之レヲ以テ真正ノ巨大舌ト稱スルコト難シ

療法 原因的療法ヲ第一トナス

其大サ若シ障害ヲ與ヘザルノ程度ナル片ハ敢テ之レニ施術スルノ要ナシト雖モ咀嚼ヲ障害シ或ハ口外ニ突出スルモノニアリテハ廣汎性淋巴管腫ニ於テ述ベタルガ如ク舌實質ヨリ數回ニ分ツテ數ケノ楔狀片ヲ切除スベシ

第二節 舌ノ外傷



(一) 舌器械的損傷

舌ニ生スル原發性ノ刺創、切創及ビ銃創ハ其ニ極メテ稀ナリ、主トシテ上下齒間ニ咬取セラレテ損傷ヲ受ク、頤部ニ暴力ノ加ハル際、癩癩發作ノ際或ハ性急ニ飲食ヲナス際等ノ如シ其他ハ齒牙ノ破壞粗糙縁、尖銳ナル義齒等ノ摩擦ニヨルカ然ラザレバ魚骨、銳器ノ穿入等ニヨル

銃創ニ方リテハ彈丸、齒牙、或ハ顎骨碎片等ガ實質内ニ殘留シテ舌内異物ノ一形態ヲナスコアルベシ

出血ハ創傷ノ深部ニ達シタルキニ於テノミ顯著ナリ腫脹ハ時トシテ著大ナルコアリト雖モ窒息ヲ生スルニ至ルコト寧ロ稀ナリ

出血ヲ制止スルニハ縫合又ハ周圍括約法ヲ以テ足レリトス細キ絹糸或ハ腸線ヲヨントス後方ニアリテ直達容易ナラザルキハ絹糸線ヲ舌ニ穿通シテ之レヲ牽出シ置クヲ要ス制止シ難キ舌出血ニアリテハ舌動脈結紮ヲ要ス

舌動脈結紮法 先ツ頭ヲ反射側ニシテ且後方ニ傾斜セシメタルノ後舌骨上縁ニ並行シテ舌骨大角ヨリ正中線ニ向ヒ約四五仙迷ノ皮膚切開ヲ施シ潤頸筋ヲ切離スルキハ茲ニ顎下腺ヲ露出スベシ顎下腺ヲ周圍組織ヨリ遊離シ上方ニ

遠クレバ下ニ所謂舌下三角部ヲ見ルベシ蓋シ三角部ハ外側ハ二腹頸筋後腹及莖狀舌骨筋ヨリナリ内側ハ顎舌骨筋ノ遊離縁ニシテ上邊ハ舌下神經ヨリナル而シテ其三角ノ底面ニハ舌骨舌筋アリテ舌動脈ヲ被フベシ故ニ其纖維ヲ縱ニ分割スレバ直ニ其下面ニ横走スル動脈ヲ結紮スルヲ得

舌實質ノ腫脹顯著ナルキハ數多ノ亂切ヲ施コシ窒息症狀ノ現ハレタルキハ直ニ氣管切開術ヲ施コサ、ルベカラズ

疼痛ニハ氷片ヲ絶エズ啣マシムルヲヨントス  
後療法トシテ防腐性合嗽料ヲ與ヘテ口腔ヲ清潔ナラシム

(二) 齒齶性潰瘍 Decubital Ulcer

齒牙ノ破壞粗糙縁、充填物ノ銳縁、義齒ノ粗糙部等ノ摩擦ニヨリ舌縁ニ潰瘍並ニ浸潤ヲ生スルコアリ或ハ其舌癌ノ初期ト誤認セララル、ニヨリ或ハ其部ヨリ舌癌ノ發生スルコアルニヨリ極メテ重要視セララル、潰瘍ノ一種ナリ

症候 初メ先刺戟ニ面スル部ニ上皮ノ剝離ヲ生シ次テ其周圍ニ慢性炎性浸潤ヲ起シ幾モナクシテ細小ナル潰瘍ノ形成ヲ現ハスニ至ルモノトス  
潰瘍ハ漸ク増大シテ小豆乃至豌豆大ニ達シ周圍組織ヨリ僅ニ高起シ基底ハ

平坦ナルカ或ハ少シク漏斗狀ヲナス指頭ヲ以テ觸ル、ニ舌實質中ニ埋沒セラレタル軟骨様硬度ノ硬結ヲ感知スベシ

潰瘍面ノ知覺ハ極メテ鋭敏ナラズ咀嚼嚥下ニ方リ多少ノ不快感ヲ生スルノミナリト雖モ稀ニ談話ダモ尙且鋭痛ヲ與フルコアリ附近ノ淋巴腺硬結ヲ認ムルコトハ寧ロ例外ナリ

經過、ハ短小平坦ニシテ原因ノ消失後八乃至十日ニシテ治癒スルコト常ナリ但シ癌腫ノ遺傳ヲ有スル高老老ニアリテハ之レヨリ表皮癌ノ發生ヲ致サシムコト稀ニ之レアリ

診斷、癌腫ノ初期ト鑑別ヲ要スルコトアリト雖モ其ノ 一遺傳及ビ年齡ニ關係ナキト 二出血シ易カラザルト 三附近淋巴腺ノ硬結ナキト 四原因ヲ除ケバ容易ニ治癒スルト 五顯微鏡的検査トニヨリテ明カニ鑑別スルヲ得ベキモノトス

療法、齒牙ノ銳縁ヲ平滑ニシ義齒其他ハ之レヲ研磨シ單純含嗽料ヲ用ヒシムレバ容易ニ治スベシ知覺鋭敏ナルハ一二回硝酸銀ヲ以テ腐蝕スレハ足レリトス

(三) 蟄、創及、咬、創

蜂其他昆蟲ニヨル蟄創及ヒ蛇類ノ咬創ハ其ニ極メテ稀有ナリ然ト雖モ其來ルヤ著大ナル浮腫ヲ呈シ呼吸困難ヲ生スルコト往々之アリ此ノ如キモノハ先ツ速ニ弱安母尼亞溶液ヲ以テ創面ヲ洗滌シ疼痛ニハ氷片ヲ啣マシメ腫脹ニハ亂切ヲ施コスヲ要ス

(四) 火、傷

口腔粘膜火傷ノ條下ヲ參照セヨ

第三節 淺在性舌炎 Glositis Superficialis

多少舌表面ニ限局スル炎症ヲ總稱シテ淺在性舌炎ト云フ更ニ其形態ニヨリ左ノ數種ヲ區別ス

第一項 急性淺在性舌炎

口内炎ノ一部分トシテ舌表面ノ粘膜面ニ淺在性炎ヲ生スルコトハ刺戟性飲食物、高熱食物、酒精飲料過度ノ喫烟等ニ於テ見ル處ニシテ口内炎ノ條ニ明ナリ

淺在性舌炎ハ又舌苔ノ形態ヲ以テ顯出スルコトアリ舌苔ハ舌ノ表面ニ增厚シタル上皮細胞層ノ堆積シテ中ニ粘液其他口内ノ有機質ヲ混在シ之レニ無數ノ細菌ノ繁殖スルニヨリテナル處ノモノナリ或ハ帶黃白色ヲナシ或ハ帶褐黃色ヲナシ或ハ有色性異物ノ侵入ニヨリテ異色ヲ呈ス赤酒、鉄劑、煙草、茶、コーヒー、チョコレート等ノ如シ

舌苔ハ 一、熱性諸病 二、消化器疾患ノ殆ト凡テニ於テ多少生スルモノニシテ其他 三、昏睡性狀態ヲ呈スルキニ特ニ顯著ナルヲ見ル蓋シ此狀態ニアリテハ口腔ノ機能廢絶シ、清掃完全ナル能ハズ、唾液粘稠變性シテ且其量ヲ減シ、口裂多クハ開放セラル、ヲ以テ粘膜面容易ニ乾燥スベシ、從テ粘膜ハ脆弱トナリ輝裂ヲ生シ裂隙ヲ作ルコト頗ル多シ

其他淺在性舌炎ノ少シク瀰久スルヤ其乳頭ニ肥大ヲ生シテ特殊ナル舌ノ狀態ヲ作爲スベシ例之猩紅熱ニ於テ菌狀乳頭ガ發赤腫脹シテ毒舌ヲ生ジ其他或疾患ニ於テ糸狀乳頭ガ非常ニ增長角化シテ毛舌ヲ生スルガ如シ

療法 原因ヲ除去シ口内ヲ清潔ニシ其他口内炎一般ノ療法ヲ施コセバ佳ナリ

## 第二項 地圖狀舌 *Lingua geographica*

(遊走輪 *Annulus nigraus*)

亞急性淺在性舌炎ノ一種ニシテ其蔓延轉位急劇ニシテ遊走スル狀態舌面ニ地圖ヲ劃キタルカ如キヲ以テ此名アリ幼者ニ見ルコト多シ

原因、梅毒ト本症ノ關係ハ數々論争ヲナサレタル處ニシテ或ハ其原因的關係アルヲ説キ (パロー、カボシ、ガウテ、パーナル、キプシ、クランツ) 或ハ之レヲ否定セリ

(カスバリ、ウナナ *Caspary, Ulna*) ト雖モ恐クハ後者ヲ正當ナリト認メラル或ハ單純ナル慢生乳嘴炎ナリト稱スルモノナリ (ファンレール *Vandier*)

生齒機トノ關係ヲ説クモノアレトモ論スルニ足ラズ蓋シ其初生兒ニ於テ生齒期ニ先ダチテ發見セラレタルコト少ナカラサレバナリ

療癒質其他ノ體質不良ノ小兒ハ之レニ對シテ少ナカラサル素因ヲ有ス症候、普通豌豆大圓形或ハ楕圓形鮮赤色ノ斑紋トシテ顯ハレ周圍ノ組織ヨリ稍高起シ其部ノ乳頭ハ著シク腫大セリ斑ハ數々明確ナル灰白色邊縁ヲ有ス之レ糸狀乳頭ノ密集ニヨリテ成ルモノニシテ各乳頭ハ何レモ肥大シ其上皮ニ

顯著ナル増厚ヲ示ス他部ニ於ケル糸狀乳頭モ亦散在性ニ同様ノ變化ヲ呈シ菌狀乳頭モ亦増厚腫大シテ鮮赤ヲ呈シテ高起セルヲ見ルヲアルベシ

斑紋ハ其變化ノ急速ナルヲ以テ特徴トナス二十四時間乃至三十六時間ニシテ其形狀大小ニ著明ノ變化ヲ呈シ或ハ増大シテ數者相合一シ一ヶ所ニ消失シテ他所ニ發顯シ其外觀正ニ地圖面ニ似タリ

自覺的症候ハ殆ト全ク缺如ス時々一般口内炎ノ疾候ヲ呈スルヲアルベシ  
診斷、モーレル氏舌炎トハ 一、疼痛ノ缺如スルヲ並ニ 二、變形ノ急劇ナルトニヨリテ區別スルヲ得ベク

梅毒疹トハ 一、他ニ梅毒症候ノ缺如スルヲト 二、驅梅療法ノ効ナキトニヨリテ區別セラルベシ

療法、營養ヲ恢復シ口腔ヲ清潔ニ維持スレバ漸次消失治癒スベシ用ニ臨ンデハ口内炎ノ療法ヲ施スベシ

### 第三項 慢性淺在性舌炎 Glossitis chronica

superficialis (モーレル氏舌炎 Meier's Glossitis)

一八五一年モーレル氏 Meier ガ初メテ記載シタル處ニシテ一八九五年ミケルソン Michelson 更ニ之レヲ報告シタルニヨリテ漸ク知ラレタル舌炎ノ一種ニシテ依剝昆垤爾性婦人其他營養不良者貧血者等ニ最多ク見ラル

症候、舌背、舌尖、稀ニ舌縁ニ不規則ニ散在シタル鮮紅色ノ斑紋又ハ線條トシテ顯ハル斑ハ極メテ僅ニ周圍ノ健全粘膜面ヨリ高起シ表面ノ上皮ハ極メテ菲薄トナレルカ或ハ剝離セルヲ見ルベシ時トシテ其中ニ微細ナル小點ヲ散見スルヲアリ其他此部ニ於ケル乳頭ハ何レモ顯著ナル肥大ヲ呈ス

自覺的症候ハ解剖的變化ニ比シテ著シキモノアリ即舌ノ表面ニ劇シキ灼クガ如キ疼痛アリ硬固物質辛酸味物ノ攝取或ハ談話等ニヨリテ劇甚ノ度ヲ加ヘ爲メニ口腔ノ機能ニ障害ヲ生スルヲ決シテ鮮少ナラズ

經過極メテ慢性ニシテ數月乃至數年ヲ隔テ、再發スルヲ稀ナラズ  
療法、全身狀態ヲ改善スルヲ以テ第一義トナス病竈ハ之レニ硝酸銀或ハ乳酸等ヲ塗布シテ利アリ他ハ防腐收斂性含嗽ニ依頼スルノミ

### 第四項 毛舌 Hairy Tongue (黑舌 Lingua nigra)

舌背ニ毛様觀ヲ呈セシムル物質ノ顯出ヲ以テ特徴トスル處ノ慢性淺在性舌炎ノ一種ナリ

**原因** 毛髮狀突起ハ糸狀乳頭ノ増大肥厚ニヨルモノニシテ甚シキハ棘狀ヲ呈スベシ其着色ノ如何ニシテ生起セラル、ヤハ頗ル疑問ナリ或ハ芽生菌又ハ醱酵素ノ所爲ニ歸スルモノアリ或ハ着色性飲食物ノ沈着ニ歸スルモノアリ極メテ明瞭ナラズ

**症候** 舌背殊ニ輪廓様乳頭ノ直前ニ於テ三角形或ハ楕圓形ノ病竈ヲナシ此部ニ於ケル糸狀乳頭ハ何レモ著シク肥厚増長シテ毛様ヲナシ甚シキニ至リテハ棘狀ヲナスセンデアク *Sordid* ノ見タル患者ハ自ラ特異ノ器具ヲ作りテ其成長スル毎ニ之レヲ自ラ剃リタリト云フ

毛様體ハ常ニ必ラズ多少ノ異色ヲ呈スルモノニシテ黄色、褐色、綠色乃至黑色ニ至ルノ差アリ

自覺的症候ハ極メテ大ナラズ輕度ノモノハ自覺セサルモノ多シ或ハ口内ニ於ケル不快感ト異臭トヲ訴フルモノアリ多クノモノハ普通胃消化障害、食物攝取障害ヲ有ス

經過ハ不定ナリ或ハ數日ニシテ消失シ或ハ年餘殘留シ或ハ漸ク成長シ或ハ時々發作ヲ呈ス

**療法** 先ツ充分之レヲ剃去シ次クニ強力ナル防腐藥ノ塗布ヲ以テス撒里矢爾酸、石炭酸溶液等之レニ適ス  
他ハ單純ナル口内ノ清掃法ヲ必要トス

#### 第四節 廣汎性舌炎 *Glossitis diffusa*

##### 第一項 急性廣汎性舌炎

(舌蜂窠織炎 *Phlegmon of Tongue*)

舌ハ其外來病原菌ニ對スル抵抗力極メテ旺盛ナルヲ以テ廣汎性炎ヲ生スル極メテ稀有ニ屬ス

**原因** 一、外傷殊ニ刺創、銃創、咬創 二、急性口内炎ノ轉歸トシテ來ルコトアリ (殊ニ赤毒性口内炎) 三、附近組織蜂窠織炎ノ蔓延 (殊ニ口底蜂窠織炎) 四、傳染性熱病例之室扶斯、痘瘡、丹毒等ノ如シ稀ニ脾脫疽ニ於テモ之レヲ見ル

症候 舌ニ強剛ノ感ヲ覺エ一乃至二日ニシテ忽チ原形數倍ノ大サニ達ス表面ノ粘膜ハ暗青色乃至暗紫色ニシテ水腫狀ヲ呈シ舌面全體ハ厚苔ヲ被ムリテ乾燥スベシ疼痛ハ初期ヨリ劇烈ニシテ從テ嚥下談話ノ障害セラレ、大ナリ全身發熱症候ハ缺クルコトナシ其腫脹後方ニ波及シテ喉頭口ニ達スレバ呼吸困難ヲ起シテ生命ヲ危フスルコト亦ナキニアラズ

經過 數日ニシテ緩散スルカ或ハ膿瘍ノ形成ニ終ルコト最多シ然レモ亦其ノ廣汎性漸ク増加シテ窒息ヲ生シ或ハ其毒素血中ニ吸收セラレテ膿毒症ヲ起シ死ニ至ラシムルコトナキニアラズ

療法 輕微ナルモノニハ防腐性含嗽料ヲ與ヘ腸ヲ開通シ氷塊ヲ啣マシメ時々表面ニ沃度丁幾或ハ其合劑ヲ塗布スベシ

高度ノ炎症ヲ起セルモノニハ舌ノ縱徑ニ沿フテ病竈ニ直達スル切開ヲ加フルヲ最良トス之レ疼痛ヲ輕減シ毒素ノ擴布シ或ハ吸收セラル、ヲ防クベケレバナリ茲ニ生ジタル創面ニハ沃度仿謨末ヲ散布シ或ハ其「ガーゼ」ノ小片ヲ挿入シ置クベシ或ハ亂切ヲ喜ブモノアリ

窒息症候ノ顯出スルヤ直ニ氣管切開術ヲ施コスヲ要ス

### 第二項 舌膿瘍 Tongue abscess

舌ニ見出サル處ノ膿瘍二種アリ一ハ深在性膿瘍ニシテ舌蜂窠織炎ノ結果トシテ來ル他ノ一ハ淺在性ニシテ舌粘膜表面ニ於ケル粘液腺ノ病原菌侵入ニヨリテ生ス甲ハ前項ニ述ベタルヲ以テ再說セザルベシ

淺在性舌膿瘍 Superficial Tongue Abscess ハ夫ノ皮膚ノ毛囊及皮脂腺ニ生スル「フ」ルンケル」ト其趣ヲ同フス多クハ飲食物ニ混ジテ侵入シタル顆粒體ニヨリ其粘液腺附近ニ微細ナル損傷ヲ生ジ之レヨリ化膿菌ノ侵入セルニ基因スルモノナリト雖其精確ナル經路ハ常ニ必ラズシモ明白ナラズ

症候 稀ニ劇痛其他顯著ナル急性炎ノ症候ヲ以テ初マルト雖多クハ不明ナル狀態ヲ以テ起ル數時間乃至一日ニシテ急劇ニ波動性腫脹ヲ呈シ拇指頭大乃至其以上ニ達ス處々點狀ニ黃色内容物ヲ透見スルコトアリ腫脹ハ主トシテ舌ノ一側ニ生ジ其位置ト大小トニ應ジテ談話嚥下ニ障害ヲ生ズベシ多クハ淺在性ニシテ長ク淺表ニ止マルト雖モ又舌ノ筋纖維間ヲ穿チテ舌下面ニ流注スルコトアリ

經過急速ニシテ數日ヲ出デズシテ上皮ヲ破リテ自カラ排膿スルカ或ハ人爲的切開排膿ニヨリ容易ニ治癒ス

診斷 一、舌囊腫ハ當初ヨリ疼痛其他急性炎ノ症候ヲ發セザルト、内容物ヲ異ニスルトニヨリテ容易ニ鑑別スルヲ得ベシ

二、軟化梅毒腫ハ他ニ梅毒ノ已往症及現症ヲ有スルト、疼痛ヲ有セザルト、波動ヲ呈出セザルトニヨリテ又區別スルヲ得ベシ

療法 膿瘍ヲ切開シテ防腐性含嗽料ヲ用ヒシムレバ足レリ疼痛ニハ亂刺、氷塊適用ヲ効多シトス

### 第三項 舌結核 Tuberculosis of Tongue

原發性ニ舌ニ結核ノ生ズルコトハ極メテ少ナシ多クハ肺又ハ喉頭ニ原發竈ノ存在スルモノニ於テ之ヲ見ル

症候 舌ニ結核ノ顯ハル、ヤ三種ノ形態ヲ以テス結節、潰瘍及ビ皰裂之ナリ

結核性結節 Tuberculous nodule ハ舌粘膜下ニ細小ナル無痛性硬腫トシテ顯ハ

レ漸ク増大スルヤ榛實大以上トナルベシ其大サニ應ジテ舌ニ強剛ノ感ヲ生ジ

或ハ其運動ヲ障害ス結節上ノ粘膜ハ僅ニ潮紅スルノミナレモ結節ノ内部ニ於テ乾酪變性又ハ化膿ノ起ルヤ容易ニ破潰セラル、モノトス附近ノ組織ハ僅ニ發赤スルコトアリ淋巴腺ノ腫脹ハ殆ド全ク見ザル處ナリ

結核性潰瘍 Tuberculous ulcer 扁豆大乃至菜豆大不正形ノ潰瘍ニシテ底面ハ帶

綠灰白色ニシテ鮮紅色或ハ蒼白色ノ弛緩セル肉芽ヲ以テ被覆セラル僅ニ漿液性又ハ膿様ノ分泌物ノ少量ヲ出ス邊緣ハ菲薄柔軟ニシテ瓣狀ヲナシテ潰瘍面

ヲ被フ潰瘍ノ知覺ハ鋭敏ナラザルコト多シト雖モ稀ニ晚期ニ於テ大ナル刺衝性

ヲ示スコトアルベシ周圍ノ組織ハ多少硬結シ中ニ微細粟粒大ノ結節ヲ觸知スル

コトアリ時トシテ舌粘膜面ニ於テ廣汎性ニ散布セラレタル小潰瘍及ビ粟粒結核ノ多數ヲ目撃スルコトアリ

結核性皰裂 Tuberculous fissure 主トシテ舌背或ハ舌縁ニ生ジ粘膜面ニ擴布ス

ルヨリモ下在組織ニ深入スルノ性大ナルヲ以テ特徴トナス數仙迷ノ長徑ヲ有スル粘膜面皰裂ニシテ舌ノ表面ニ一乃至數ヶ顯出シ基底ハ汚穢ナル帶黃灰白色ノ義膜ヲ以テ被ハレ其附近ニ數多ノ粟粒結節ヲ散布ス其増大ト癒合ニヨリ特異ナル結核性潰瘍ヲ生成スルニ至ルベシ

診断 一、他部ニモ結核病竈ノ存在スルアリ 二、特異ナル粟粒結核ノ散在スルアリ 三、分泌物ヨリ結核菌ヲ分離スルヲ得ベク 四、組織小片ヲ取レバ結核組織ヲ證明シ得ベク 五、ツベルクリン注射ニヨリ反應ヲ得ベク以テ梅毒及ビ癌腫ト鑑別スルヲ得ベシ

豫後 局處疾患ハ難治ナリト雖モ敢テ危険ナル結果ヲ生ズルコトナシ豫後ハ主トシテ原發竈ニ據リテ異ナル

療法 原發竈ノ治療ヲ以テ主眼トナス局處的ニハ病竈ヲ搔掻シ、燒灼シ、防腐的處置ヲ施コシ含嗽料ヲ與ヘテ口腔ヲ清潔ナラシムレバ佳ナリ

#### 第四項 舌梅毒 Tongue Syphilis

舌ヨリ初メテ梅毒ノ侵入シテ舌ニ硬性下疳ヲ顯ハスハ極メテ稀有ナリ舌ニ顯ハル、梅毒ハ身體他部ヨリ感染ヲ受ケタルモノニ於テ續發性疾患トシテ來ルモノトス

症候 扁平疣贅 硬化性舌炎 護膜腫及ビ梅毒性潰瘍トシテ顯ハル

扁平疣贅 Flat condyloma 第二期梅毒患者ニ來ル圓形乃至卵圓形ニシテ多ク

ハ扁平稀ニ少シク隆起セル濕潤面ニシテ舌表面ニ一乃至數ケ一時ニ顯ハレ灰白色義膜様物質ヲ被ムル摩擦等ニヨリ皸裂或ハ潰瘍ヲ形成スルニ至ルベシ多クハ他部ノ粘膜面ニ粘液疹潰瘍其他ノ梅毒性症候ヲ呈スベシ

硬化性舌炎 Glossitis sclerotica ハ二種ノ形態ヲ以テ來ル

淺在硬化性舌炎ハ舌粘膜ノ上層ニ生ジ周圍ノ組織ヨリ僅カニ高起スルノミニシテ其限界明確ナラズト雖モ稍圓形ヲ帶ブルヲ常トシ此部ノ粘膜面ハ極メテ平坦ニシテ殆ト剃刀ヲ以テ剃タルガ如キ外觀ヲ呈ス蓋シ乳頭ノ消失セルニヨルモノナリ舌表面ニ於テ一時ニ此ノ如キ數多ノ斑紋ヲ顯ハスコトナキニアラズ蓋シ稀ナリ

深在基質性硬化性舌炎ハ大體ニ於テ前者ニ似タリト雖モ只其舌實質ノ深部に存在シ厚層ノ潮紅セル舌組織ヲ以テ被覆セラレ周圍組織トノ區劃更ニ不明ナルノ差アリ

硬化性舌炎ハ其何レノ種類タルヲ問ハス同時ニ舌表面ノ他部ニ於テ剝脫面皸裂或ハ胼胝ノ形成ヲ生スルコトアルベシ然ルモ其創面知覺過敏ヲ呈スルコト少ナカラズ



護、腫、Gumma 第三期梅毒患者ニ來ル處ニシテ或ハ舌粘膜ノ表面ニ小結節トシテ顯ハレ或ハ舌ノ實質中ニ深ク筋質中ニ於テ大ナル結節トシテ來ル結節ハ共ニ炎症症候ヲ有セズ強靱ニシテハ多クハ表面ニ破裂ヲ生シテ所謂梅毒性潰瘍ヲ形成スルモ又漸ク深入シ廣汎性ノ結締織新生ヲ致スコトナキニアラズ

梅毒性潰瘍 Syphilitic ulcer ハ主トシテ護、腫ノ崩壞ニヨリテ生スルモノニシテ或ハ粘液疹扁平疣贅ヨリ漸次ニ變化スルコトナキニアラズ多クハ數ヶ一時ニ發生ス圓形又ハ不正形ノ深キ剝ラレタルガ如キ潰瘍ニシテ毫モ炎症症候ヲ有セズ底面ハ汚穢灰白色ノ義膜ヲ以テ被ハレ出血シ易カラズ邊緣ハ頗ル強靱銳利ナリ其治癒後ハ顯著ナル癍痕收縮ヲ致シ舌ニ醜惡ナル變化ヲ生スベシ

診斷 豫後 一般ノ梅毒性疾患ニ於ケルト異ナルコトナシ  
療法 驅梅毒療法ヲ施コシ口内ヲ清潔ニ保チ刺戟性食物ヲ禁止シ潰瘍輝裂面ハ之レヲ腐蝕燒灼シ沃度仿謨末ヲ散布スレバヨシ

### 第五節 舌ノ腫瘍

舌ニ來ル腫瘍ハ良性ノモノ寧ロ少ナクシテ惡性ノモノ殊ニ癌腫ヲ最多シト

ス殊ニ高老者ニ於テ然リトス

### 第一項 舌纖維腫

纖維腫ハ口腔組織中齒齦ヲ除キテハ舌ニ最多ク來ルモノニシテ又舌ノ良性腫瘍中最多ク發スルモノタリ

殆ト凡テノ年齢ニ發見セララル、モノニシテ或ハ初生兒ニ於テ先天性舌纖維腫ヲ見タルモノアリ或ハ六十歳以上ノモノニ於テ初メテ其發生ヲ認メタルモノアリ要スルニ本腫ハ其發生ノ狀態不明ナルヲ以テ發生後數年乃至十數年間認識セラレズシテ潜伏スルコト少ナカラザルベシ

舌ニ來ルモノハ主トシテ硬性纖維腫ニ屬スルモノニシテ細胞ニ乏シク強靱癍痕乃至胼胝様組織ヲナスコト多シ然レモ亦細胞及ビ液體ニ富ミ血管新生ノ著大ナル軟性纖維腫ヲ見ルコトナキニアラズ

症候  
舌ノ表面ニ近ク發生スル淺在性纖維腫アリ又其深部ニ生スル深在性纖維腫アリ多クハ中線ニ於テ舌背ノ後方ニ來ル

此腫瘍ハ時トシテ細小莖ヲ有スル息肉狀ヲナシ時トシテ舌背ニ於ケル強韌扁平ノ隆起ヲナシ又時トシテ胡桃大乃至鶏卵大ノ有莖或ハ無莖ノ強韌ナル腫瘍ヲ形成ス其深部ニ發生スルキハ視疹ニヨリテハ僅ニ舌半側乃至舌根ノ腫脹ヲ認メ之レヲ觸診スルニ方リテ初メテ舌實質中ニ強韌移動性腫瘍ノ存在ヲ知ルベシ

此腫瘍ハ周圍組織ヨリ明確ナル限界ヲ有スルコト常ナリ殊ニ淺在性ノモノニ於テ明瞭ナリ然リト雖モ其極メテ深部ニ占位セルキ或ハ其根底ニ於テ腫瘍ガ周圍組織ニ指狀突起ヲ放出セルキハ限界明確ナラサルコトアルベシ

此腫瘍ハ生長極メテ緩慢ナリ患者ノ注意ヲ惹起スルニ至ルマデニ已ニ數年ヲ經過シタルモノアリ此腫瘍ガ急劇ナル生長ヲナスハ只其發炎シタルカ、囊腫様變性ヲ生シタルカ或ハ悪性腫瘍ニ轉化シタルキナリトス

之ニ伴フ自覺的障害ハ極メテ多カラズ 一時トシテ器械的障害ヲ與フルコトアリ殊ニ大ナル纖維腫ニ於テ然リ舌根ニ生スレバ嚥下及談話ヲ障害シ細莖ヲ有スルモノガ齒間ニ介入スレバ咀嚼運動ヲ妨碍ス 二又時トシテ軟性纖維腫ニアリテハ咀嚼其他ノ器械的刺戟ニヨリ上皮剝脫シテ潰瘍ヲ生ジ其表面ニ觸

ル、毎ニ出血シ少ナカラザル不快乃至疼痛ヲ生起スルコトアリ 三此ノ如キ表面ハ動モスレバ細菌ノ侵入ヲ許シテ周圍ニ炎症ヲ生ズ

豫○後○

經過緩慢ナリト雖モ敢テ甚大ナル障害ヲ生ズルコトナク之レヲ摘出スレバ再發スルノ患ナシ

診○斷○

梅毒腫及梅毒性浸潤ハ 一梅毒ノ已往症ヲ有シ 二他部ニ梅毒性病竈アリ 三周圍トノ限界極メテ明確ナラズ 四驅梅毒療法ニ反應シ 五疑ハシキキニハ組織ノ一片ヲ鏡檢スベシ

癌腫ハ 一遺傳アル高老者ニ多ク 二周圍組織トノ限界明確ナラズ 三頗ル出血シ易ク 四附近淋巴腺ノ腫脹アリ 五鏡檢スレバ基礎膜ノ破壞、癌巢等ヲ證明シ得

肉腫ハ 一生長頗ル急速ニシテ 二深部ニ發スルキニハ疼痛アリ 三容易ニ潰崩シ 四鏡檢スレバ肉腫組織ヲ證明シ得ベシ

療○法○

小ニシテ且淺在性ノモノナレバ便宜莖ヲ切斷スルカV字形小片ヲ切除スルカ焼灼法ニヨリテ除去スルヲ得ベシ古加乙涅注射ノ下ニ口腔ヨリ舌ヲ牽出シテ施コスヲ得ベシ

頗ル大ナルモノニアリテハ上層組織ヲ切開シテ腫瘍塊ヲ摘出スルヲ得時トシテ全身麻酔ノ要アリ

### 第二項 舌脂肪腫

口腔ニ脂肪腫ノ起ルコトハ寧ロ稀ナリ其來ルヤ舌ニ於テスルコト多シコッヘルKoehlerハ三十九例ノ口腔脂肪腫中十二例ハ舌ニ於テ見タリト云ヘリ

症候。

多クハ單獨ニ粘膜ノ直下ニ來リ外部ニ向テ生長スルモノナリト雖モ稀ニ深部筋間ニ發生シ多數ノ時日ヲ經テ初メテ表面ニ顯ハル、コナキニアラズ舌尖ニ來ルコト多ク舌側之レニ次ギ舌根ハ極メテ稀ナリ

主トシテ圓形又ハ卵形ヲナシ表面ハ常ニ平滑ナレモ稀ニ葉狀ヲ呈シ周圍ノ組織ヨリ明確ナル限界ヲ有ス時トシテ雞卵大或ハ其以上ニ達シ之レヲ口内ニ

受容シ能ハザルコトアリ上皮菲薄トナルヤ内容物即脂肪ヲ黃色ニ透見スルコトアルベシ

自覺的障害ハ極メテ少ナク僅ニ其存在ニヨリ器械的障害ヲ生ジテ嚥下談話ニ不便ヲ與フルノミ又時トシテ表面剝脫シテ潰瘍ヲ形成シ出血ヲ致スコトアリ

豫後。

佳良ニシテ摘出後再發スルコトナシ

診斷。

纖維腫ト混同セラル、コトアリト雖モ 一抵抗少ナクシテ或ハ葉狀感アリ或ハ假性波動ヲ感得スルコトアリ 二試ニ切開スレバ脂肪組織ノ特異ナル外觀ヲ呈ス 三鏡檢スレバ更ニ區別明瞭ナルベシ

療法。

舌纖維腫其他ノ良性腫瘍ノ如ク口裂ヨリ舌ヲ牽出シテ容易ニ切除摘出シ得ベシ

### 第三項 舌血管腫

血管腫ノ舌ニ來ルコトハ稀ナリ其來ルヤ單純血管腫又ハ海綿様血管腫トシテ顯ハル前者ハ血管擴張症蔓狀血管腫ト稱シ新生毛細管ノ著シク擴張シタルモノヨリナリ後者ハ内皮細胞ヲ以テ裏裝セラレテ其中ニ血液ヲ充滿スル腔洞ヨリナル

舌ノ前方殊ニ側縁又ハ尖端ニ發生スル帶青紅色乃至鮮紅色柔軟ナル腫瘍ニシテ小指頭大ヨリ拇指頭大乃至拳大ニ至ルノ差アリ

自覺的障害少ナク只上皮ガ容易ニ毀傷セラレテ出血ヲ生ジ容易ニ細菌ノ侵入ヲ許シ炎症ヲ生ズルコトアルノミ

豫後、診斷、療法等ニ關シテハ口唇ノ血管腫ノ條下ヲ參照セヨ

### 第四項 舌淋巴管腫

淋巴管腫ハ口腔組織中比較的舌ニヨク頻發ス殊ニ發育癒合線附近ニ於テ然リトス

多クハ先天性蕩芽ヨリ發生スルモノニシテ初生兒ニ於テ已ニ之レヲ見ルコト少ナカラズ然レモ其顯著ナラザルモノニアリテハ數年ヲ經テ初メテ發見セラ

ル、モノアルベシ

症候

舌ニ顯ハル、淋巴管腫ハ三種ヲ區別ス各者其特異點ヲ具フ

一 結節性淋巴管腫 Nodular Lymphangiom ハ主トシテ舌縁或ハ舌背ニ於テ豌豆大乃至胡桃大稍強韌ノ腫瘍トシテ顯ハレ其表面乳頭狀ニシテ先ヅ其部ニ於ケル舌乳頭肥大ヲ想起セシム然レモ之レヲ注視スルニ糸狀乳頭ノ如キ細毛様ノ外觀ヲ爲サズ又菌狀乳頭ノ如ク帽針頭大ノ紅色結節ヲ致スコトナシ其ノ本態ハ彈丸様ノ小水疱ニシテ其内容ハ透明清澄ナルコトアリ白色乃至黃色ニシテ稍濁濁セルコトアリ或ハ溢血ニヨリ帶青乃至帶赤色ヲナスコトアリ此等小水疱ノ數多簇生スルヤ或ハ斑ヲナシ或ハ腫瘍ヲ形成シ或ハ乳頭様結節ヲナシ舌表面ニ隆起スベシ

ドリングガ Dollinger ハ舌菌狀乳頭ノ囊腫様變性ノ一例ヲ報告シタリ

其他本症ハ其經過中ニ舌炎ヲ生ジ舌ハ腫大發赤シテ疼痛ヲ生シ其機能障害セラレ病毒傳染發熱、淋巴腺腫脹、頸部蜂窠織炎等相續發シテ多大ノ障害ヲ致スコトアルベシ

二廣汎性淋巴管腫 Diffuse Lymphangiom 本症ハ所謂巨大舌ノ一症ヲ形成スル處ノモノニシテ前症ノ如ク粘膜面ニ生シタル數多ノ小水疱ハ集合シテ一團ヲナスコナク舌ノ廣面ニ散布シ且其舌實質中ニ漸ク深入蔓延スルヲ以テ舌ノ大部ヲシテ顯著ナル腫大ヲナサシメ其漸ク増大スルヤ正位ニ之レヲ保有スルコト能ハズ下顎齒穹ハ其壓迫ニヨリ前方ニ壓出セラレ顎骨體モ亦前突スルニ至ルベシ更ニ其増大ノ加ハルヤ遂ニ口腔内ニ舌ヲ容ルコト能ハズ止ムヲ得ズ口外ニ之レヲ突出セシムルニ至ル之レガタメニ舌粘膜ハ乾燥シテ皸裂ヲ生シ又咀嚼運動其他ニヨリテ容易ニ外傷ヲ蒙ムリ病原菌ノ侵入ヲ許シ蜂窠織炎ヲ生シ膿毒症ヲ起スニ至ルコト間々之レアリ

三囊腫性淋巴管腫 Cystic Lymphangiom 極メテ稀有ニシテ淋巴液ヲ含有シ淋巴組織ノ周壁ヲ有スル囊腫トシテ顯ハル豫○後○

一般良性腫瘍ニ異ナラズ只舌ノ大部ヲ犯ス處ノモノハ其ノ摘出極メテ容易ナラサルコトアルベシ診○斷○

廣汎性及ヒ囊腫性ノモノハ鑑別ニ苦シムコト稀ナリ只結節性ノモノガ高老者ニ發スル時ハ惡性腫瘍ノ疑惑ヲ起スコナキニアラズト雖モ注意シテ各水疱ノ本能ヲ見レハ容易ニ之レヲ解クヲ得ベシ療○法○

其種類ト形態トニヨリテ自カラ異ナル  
 結節性淋巴管腫ニシテ舌根附近ニ生シ障害ナク又生長ノ患ナキモノハ之レヲ放置シテ佳ナリ然レモ其舌ノ前方ニ生シテ多少器械的障害ヲナスモノナルハハ刀或ハパッケリシ燒灼器ヲ以テ切除スベシ深入セルモノハ楔狀切開ヲ要ス  
 廣汎性淋巴管腫ニアリテハ一切開ヲ以テ悉ク切除スルコト難シ故ニ舌表面ノ數所ニ於テ數多ノ楔狀切片ヲ除去スルヲヨントス數回ニ分ツテ施術スルモ佳ナリ而シテ炎症傳染ノ存セサルハ施術スレバ其創面ハ直ニ之レヲ腸線縫合ニテ結紮シ第一期癒合ヲナサシムルコトヲ得ベシ  
 若シ其位置或ハ擴布ノ状態ヨリシテ之レヲ切除シ能ハサルハ血管腫ニ於ケルカ如ク火針刺法ヲ施コスヲ得ベシ  
 囊腫性淋巴管腫ニアリテハ便宜之レヲ切開ス

### 第五項 舌囊腫

舌ニ囊腫ノ發生スルハ極メテ少ナシ其發スルヤ殆ト常ニ舌根ニ於テス此種ノ囊腫ハ臨牀上極メテ無意味ノモノナリ

舌根ニ於ケル囊腫ハ或ハ此部ニ密集シテ存在スル表在粘液腺ヨリ發スルアリ或ハ輪廓様乳頭附近ニ開口スル大漿液腺ヨリスルコアリ或ハ舌甲狀腺管ノ上部ナル舌排泄管ヨリ由來スルコアリ

此等ノ囊腫ハ粘液様乃至膠様ノ内容物ヲ有シ榛實大ヲ超ユルコナク他ニ障害ヲ生スルコ少ナシ

之レヲ充分ニ切開シテ其囊壁ヲ搔搔摘出スルヲ佳トス但シ到達容易ナラサル部位ニアリテ而カモ自覺的障害ヲ生スルコナキモノナレバ敢テ施術ヲ急クノ要ナシ

### 第六項 舌肉腫

口腔組織中顎骨ニ肉腫ノ頻發スルコハ已ニ説明シタレモ其軟組織ニ發スル

コハ頗ル稀ナリ然レモ軟組織中最多ク見ラル、ハ舌組織ナリトス

ヤコビー Jacoby ハ先天性舌肉腫ヲ報告シタレモ之レ極メテ稀有ナリ舌肉腫ハ殆ト凡テノ年齢ノモノヲ侵カス而シテ男女兩性ヲ撰バサルモノ、如シ

舌ノ凡テノ部分ニ生スト雖モ殊ニ舌根ニ多ク舌尖及ビ側縁ニモ亦一樣ニ發生ス

症候

外觀ハ一樣ナラズ或ハ莖ヲ以テ舌表面ニ連リ或ハ深ク舌實質中ニ埋没シ扁平乃至半球形ヲナス榛實大ヨリ四百瓦重ノ大サニ至ルノ差アリ其上層ヲナス處ノ粘膜面ハ破潰スルコ極メテ稀有ナリト雖モ時トシテ器械的刺戟ニヨリ却テ増厚シテ乳頭様隆起ヲ呈スルコアリ

硬度モ亦一樣ナラズ或ハ柔軟ニシテ殆ト波動ヲ呈スルカ如キモノアリ或ハ纖維性肉腫ノ如ク堅硬強靱ナルモノアリ

生長ハ或程度マデハ頗ル緩徐ナリト雖モ之レヲ超ユルヤ急劇ニ非常ナル増大ヲナスコアリ多クハ潰瘍ノ形成劇痛ノ發起ト其時期ヲ同フス

周圍組織トノ限界頗ル不明ナリ時トシテ之レヲ摘出スルニ方リ毫モ其境界

ヲ知り能ハザルコアリ

自覺的症候ハ比較的少ナシ只齒間ニ咬取セラレテ不快ヲ生シ其容積ニヨリ談話嚙下ヲ妨ケ時トシテハ患側外耳迄放散スル處ノ劇痛ヲ訴フルコアルノミ

淋巴腺ニ傳播スルコト少ナシ其侵サル、ヤ頸腺ヨリモ顎下腺ヲ多シトナス他ノ臟器ニ轉移スルハ多ク見サル處ナリ

豫後

一程度ニ達スル迄ハ豫後佳良ナリ然レモ再發ノ患頗ル多シ

診斷

硬固ニシテ限界明確ナラズ劇痛アリ、上皮ガ崩潰スルノ傾向少ナク且附近淋巴腺ノ腫脹スルコト少ナキヲ特徴トナス

此特徴ニヨリ容易ニ結核及ビ梅毒ト鑑別スルコトヲ得ベシ然レモ疑ハシキ場合ニハ常ニ必ラズ試験的切開ヲナシ驅梅療法ヲ試ムルヲ要ス

療法

肉腫ノ確診ヲ下スヲ得タルキハ可及的速ニ癌腫ト同様ナル根本的手術ヲ施コスヲ要ス然レモ施術ヲ禁忌スベキモノニアリテハ亞砒酸劑ノ内服ヲナサシ

ムベシ

### 第七項 舌癌腫

原因

一、口腔ハ全身他部ノ組織ニ比シ癌腫ニ罹ルコト比較的多シベルヒマンハ一千ノ全身癌腫中男子ニアリテハ百十一、女子ニアリテハ一三ノ口腔癌ヲ見タリ

舌ハ口腔組織中口唇ニ次テ癌腫ニ罹ルコト多シ上記統計ニテ男子ノ百十一中七七ハ口唇ニ二一ハ舌ニ一三ハ他ノ粘膜面ニ生シ女子ノ一三中八ハ口唇三ハ舌、二ハ他ノ組織ニ發シタリ

舌癌ハ舌ノ側縁ニ生スルコト最多シウエルフェルノ舌癌四十八中二二ハ舌側縁、六ハ舌尖、舌下面並ニ舌繫帶、二ハ舌基底ノ右側、一ハ舌背及舌表面、四ハ其原發竈ヲ口底ニ有シタリ

二、男子ハ女子ヨリモ舌癌ニ罹ルコト遙ニ大ナリ蓋シ其喫烟飲酒等ノタメニ少ナカラザル刺戟ヲ受クレバナリスタイ子ルハ男子ハ八四布仙、女子ハ一六布仙ノ比ヲ以テ之レニ侵サル、ヲ報告セリ

三、舌癌ハ高齢者ノ最多ク侵サル、モノニシテ四十乃至六十歳ヲ最頻發スル時期トナス

ベルヒマンニヨレバ二十五—三十歳二%、三十一—四十歳八%、四十一—四十五歳八%、四十五—五十歳一三%、五十一—五十五歳二〇%、五十五—六十歳二一%、六十一—六十五歳一七%、六十五—七十歳六%、七十歳以上五%ナリ

四、喫烟酒精飲料ハ舌癌ノ發生トハ多大ノ關係アル者ノ如シ之レ男子ニ舌癌ノ頻發スル所以ナリボチニ一ノ舌癌百例ハ何レモ大ナル喫烟家ナリシト云フ

五、白斑ヨリ癌腫ノ發生スルコト多キハ已ニ説述シタルガ如シベルヒマン舌癌一五九例ニヨルニ三十五布仙ハ已ニ長ク白斑ノ存在アリ十九布仙ハ稍不明ナル白斑ヲ見タリト云フ

六、其他器械的刺戟ノ加ハリテ生シタル上皮缺損部或ハ潰瘍ヨリ舌癌ノ發生シ初ムルコト少ナカラズ例之朽傷破壊齒齧充填材ノ刺戟等ノ如シ

舌ニ起ル凡テノ外傷例之火傷創傷梅毒瘻等ハ何レモ舌癌ノ起始點トナルコトアリ

七、遺傳ハ一般癌腫ニ於ケルガ如ク三分二以上ニ於テ本症ノ關係ヲ顯ハス

病理

舌癌ノ多數ハ表面ニ於ケル上皮細胞或ハ舌腺ヨリ發生スル扁平上皮癌ニシテ早期ヨリ崩壊スルノ性ヲ具ヘ深部ニ蔓延スルコト少ナク平面ニ沿フテ擴布ス然レモ之レト異ナリテ所謂深在性腺癌ト稱スルモノアリ粘膜炎下組織中ニ小結節トシテ生シ潰瘍ヲ形成スルノ傾向ニ乏シト雖モ其漸ク上層組織ニ浸潤ヲ生スルヤ容易ニ壞爛シテ前者ト撰フ處ナキ形態ヲ生ズ

兩者トモ悪性ノ劇度ニ相異ナシト雖モ一ハ淺在性ニシテ容易ニ注意セラレテ從テ手術ヲ施コサル、コト早シト雖モ他ハ深在性ナルガ故ニ其表面ニ顯ハレテ注意ヲ惹クニ至ルハ已ニ幾多ノ時日ヲ經過シタルノ後ナラザルベカラズ從テ手術ノ時期ヲ誤マルコト多シ

元來舌癌ハ之レヲ口唇其他ノ口腔組織ニ於ケル癌腫ニ比スルニ其悪性大ナルヲ覺ユ蓋シ其成長迅速ニシテ口底ニ波及スルコト早ク口底ニハ數多ノ淋巴管アリ之レヲ通シテ其傳播擴布スルコト容易ナルベク又其茲ニ蔓延スルヤ之レヲ全ク摘出除去スルコト決シテ容易ナラザルベケレバナリ其他舌ノ摩擦運動ハ腫瘍ノ附近ニ瀰蔓スルヲ助クモノト謂フベシ



症候

初メ先ツ小且扁平ナル無意味ノ潰瘍トシテ顯ハル、カ然ラザレバ多少舌ノ表面ニ隆起スル強靱ナル結節様ノ浸潤トシテ之ヲ見ル此時期ニアリテハ毫モ其ノ悪性ヲ認知スベキ性質ヲ有セズ其潰瘍タルト結節タルトヲ問ハズ周圍ノ組織ヨリ明確ナル限界ヲ以テ區別セラル、モノナリト雖モ其漸ク生長スルヤ癌細胞ハ徐々ニ周圍ニ浸潤ヲ初メ從テ潰瘍ノ邊緣及ビ其周圍ハ堅硬強靱ナル浸潤ヲ顯出スベシ

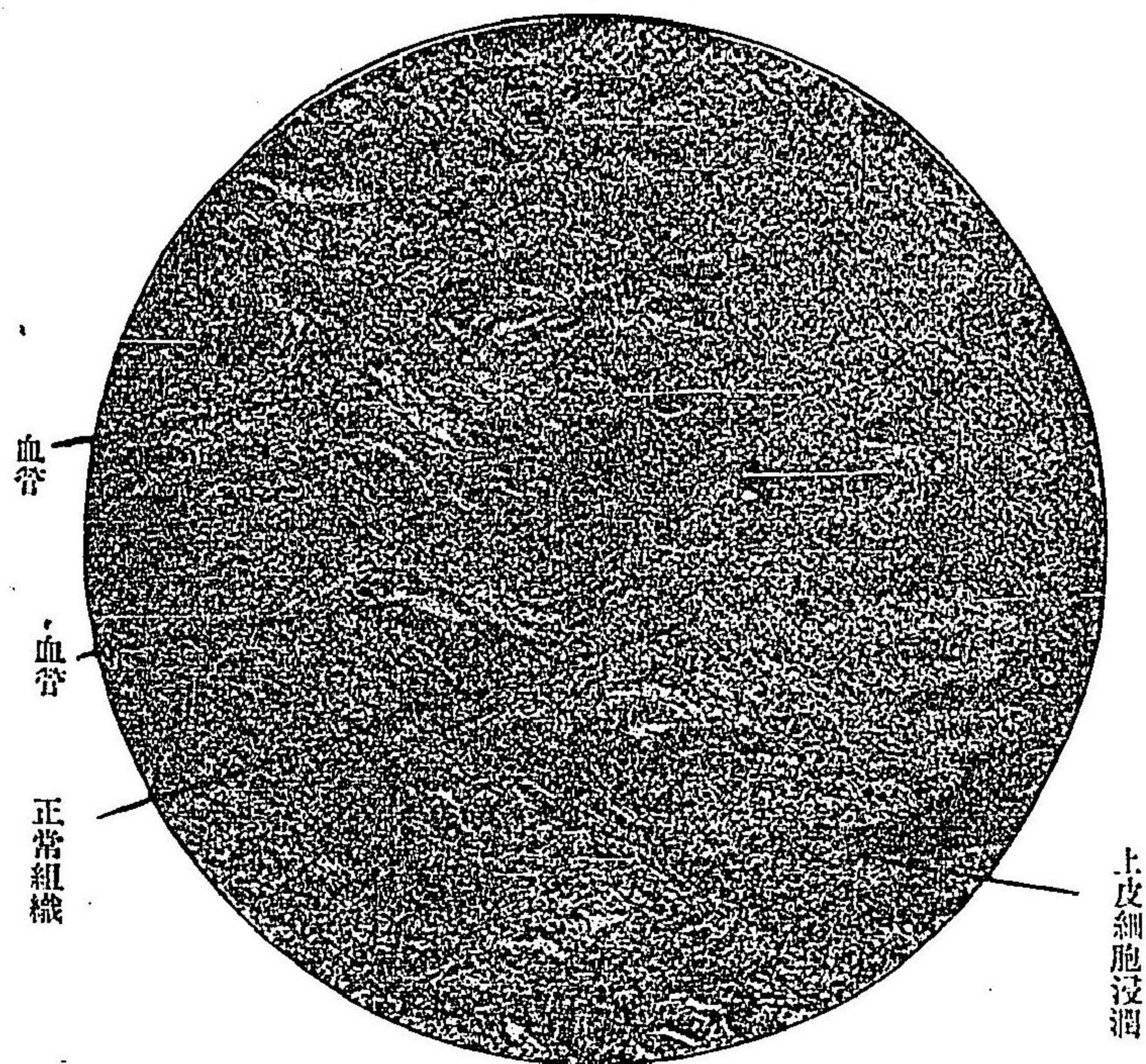
其漸ク時日ヲ經過スルヤ明白ナル癌性潰瘍ヲ呈ス潰瘍ハ其邊緣頗ル増厚シテ不規則強靱ニシテ數々鋸齒狀ヲナス底面ハ不同ニシテ極メテ出血シ易ク數々顆粒狀ヲ呈シ所々ニ黃色微細ノ斑點ヲ散在ス之レヲ絞レバ乾酪様物質ヲ出シ鏡檢スレバ其ノ扁平上皮細胞ノ塊ヨリナルヲ見ルベシ癌汁即之レナリ  
此時期ニ達スレバ癌腫ノ本性充分發揮セラル、ヲ以テ又々疑ヒヲ容ル、處ナシ加之通常此レヨリ前キ漸ク疼痛ヲ覺エ局處ヨリ出血ノ起ルヲ認ムル、少カラズ疼痛ハ頗ル劇烈ニシテ耳後ニ放散スル、多シ出血ハ或ハ自然ニ來リ或ハ咀嚼其他之レニ他物ノ觸ル、キニ生シ患者ヲ惱マス、少ナカラザルベシ

淋巴腺ハ早期ヨリ硬結ヲ生ズルモノニシテ口底ニ存在スルモノ最早ク之レヲ顯ハシ顎骨後方ニ存スルモノ之レニ次グ頸部ニ於ケルモノハ最遲シ

舌癌ノ成長漸ク進歩シテ口底ニ波及スルヤ茲ニ一大増悪ヲ起ス即チ舌ハ顎骨及ヒ口底ニ向テ固定セラル、ニ至ルヲ以テ之レヲ自由ニ運動セシムル、能ハズ咀嚼嚥下共ニ障害ヲ蒙ムリ談話ハ不明ニシテ困難トナル其他口腔ニハ自淨作用ノ行ハレザル結果トシテ食片堆積シ口内不潔トナリ腐敗作用旺盛トナリ口氣惡臭ヲ放チ粘膜全體ニ發炎潮紅ヲ呈スルニ至ル此時期ニアリテハ顎下腺ノ腫脹ヲ呈セザル、殆ンド全ク之レナク顎骨後部ノ淋巴腺又々時々侵サルベシ

患者ノ體力ハ腫瘍ノ生長ニ從ヒテ漸ク沈衰ス即チ疼痛ハ漸ク増劇シテ遂ニ持續性トナルヲ以テ食物ノ攝取殆ト全ク不能トナリ咀嚼嚥下困難トナルヲ以テ患者ハ僅ニ流動物或ハ柔軟物質ノミヲ攝取スルガ故ニ營養著シク阻碍セラレ加フルニ出血漸ク其數ヲ増スヲ以テ體力急劇ニ沈衰スベシ  
其他前口蓋弓附近迄腫瘍ノ蔓延スルハ嚥下ノ阻碍セラル、ト更ニ著シク又其顎間皺襞ニ及ブヤ常ニ牙關緊急ヲ起ス、アアルベシ又時トシテ變性唾液ガ

第百二十五圖  
舌癌



氣道ニ吸入セラレテ肺炎ヲ起シ患者ヲ致死セシムルコアリ

舌癌ノ晚期ニ至レバ患者ハ饑餓或ハ稀ニ癌腫ノ内臓轉歸ニヨリ致死ス或ハ併發症ノ結果タルコアリ

手術ヲ加エザルモノニアリテハ初發以來一二年ヲ以テ定數トナス

○診斷

舌癌ハ早期ニ之レヲ確診シテ手術スレ

バ患者ノ生命ヲ救フヲ得ルコト少ナカラザルモ然ラザレバ殆ト其凡テハ死ニ至ラシムルモノナリ實ニ舌癌患者ノ生死ハ一ニ早期ニ診斷ヲ下スヤ否ヤニアリト謂ツベシ

(一) 舌癌ト梅毒腫トハ鑑別

- 一、年齢 舌癌ハ四十五—六十五歳ニ多ク梅毒ハ年齢ニ關係少ナシ
- 二、遺傳 舌癌ハ遺傳ヲ多シトス遺傳梅毒ハ少時ニ顯ハレ他ニ特徴アリ
- 三、既往症 舌癌ハ白斑挫創性潰瘍ヨリ發生シ梅毒腫ハ第一期第二期ヲ經過シタル既往症ヲ有ス
- 四、舌癌ハ舌ノ下面口底ニ向テ蔓延シ梅毒ハ殆ト常ニ舌背ニ向テノミ生長ス
- 五、舌癌ハ一ケノ病竈ヲ以テ始マリ梅毒腫ハ多發スルコアリ
- 六、疼痛 舌癌ニハ殆ト常ニ烈シ梅毒腫ハ殆ト常ニ之レヲ缺ク
- 七、出血 舌癌ニハ顯著ニシテ梅毒腫ニハ少ナシ
- 八、浸潤及固定 舌癌ニアリテハ周圍ノ浸潤著シク舌ハ早晚固定セラル梅毒腫ニハ此事ナシ
- 九、淋巴腺腫脹 舌癌ニハ早期ヨリアリ梅毒腫ニハナシ

十、驅療梅毒法 梅毒ノミ反應ス

但シ梅毒患者ニ舌癌ノ發スルコトナキニアラズ故ニ驅療法ト組織的検査トハ必ラズ之レヲ併用セサルベカラズ

(二)舌結核トハ鑑別

舌結核ハ他部ニ原發竈ヲ有スルモノニ於テ來ルモノニシテ 一、潰瘍ノ周圍ニ殆ト常ニ發炎組織ノ一帯ヲ繞ラシ 二、潰瘍ノ邊緣ハ柔軟ニシテ數々暗紫紅色ノ一層ヲ示シ 三、邊緣或ハ其周圍ニ粟粒結核ヲ散布シ 四、數々多發シテ舌面ニ數多ノ輝裂潰瘍ヲ目撃シ 五、附近淋巴腺ヲ侵スコト殆ト之レナク 六、疑ハシキ場合ニハ潰瘍面ヨリ細菌ヲ檢出シ或ハ組織的検査ヲナスヲ要ス (三)舌良性腫瘍トハ鑑別 凡テ良性腫瘍ハ 一、生長緩徐ニシテ 二、年齢及ヒ遺傳ニ關係少ナク 三、限界明確ニシテ 四、破壊性少ナク 五、淋巴腺ヲ侵スコトナシ 六、本態ハ鏡檢ニヨリテ確ムルヲ得

豫後

舌癌ハ之レヲ放置スルキハ一乃至二年ニシテ致命的轉歸ヲ取ル

根本的治療ヲ施コスルハ手術ノ時期ト方法トニ應ジテ比較的佳良ナル豫後ヲ得患者ヲシテ數年或ハ永久ニ治癒ヲ受ケシムベシ

舌癌手術後治癒シタル統計ハ人ニヨリテ同シカラズビュートランハ十%、バーカーモ十%コツヘルハ三四三%、ピルロートハ二二四%、クローラインハ二四二%ヲ舉ケタリ

療法

可及的速ニ手術的療法ヲ施コスヲ要ス但シ腫瘍ノ蔓延著シクシテ之レヲ全然摘出シ能ハサルモノ附近頸部ニ至ルマデ多發的ニ淋巴腺腫脹ヲ有スルモノ及ヒ全身健康状態不良ナルモノハ之レガ禁忌トナス

手術ヲ施コス能ハサルモノニハ單ニ對症的處置ヲ施コスコト左ノ如シ

一、疼痛ニ對シテハ「オルトフォルム」古加乙涅莫爾必涅ノ塗布或ハ注射ヲ用ユ莫爾必涅ハ早期ニ可及的用ヒサルヲヨシトス

其劇烈ナルモノニハ神經切除術ヲ施コサ、ルベカラサルコトアリ

二、潰瘍面ハ燒灼シテ防腐的處置ヲ施コシ口内ハ含嗽料ニヨリ常ニ清潔ニ保持スルヲ要ス

三、出血ニ對シテハ燒灼壓迫等ヲ試ミ時トシテ其之レヲ制止シ難キモノニアリテハ舌動脈ヲ結紮セサルベカラサルコアリ

四、食餌ハ主トシテ流動滋養食ニシテ長キ食匙ヲ以テスルカ或ハ鼻腔ヨリ消息子ヲ挿入シテ之レヨリ流下シテ取ラシム

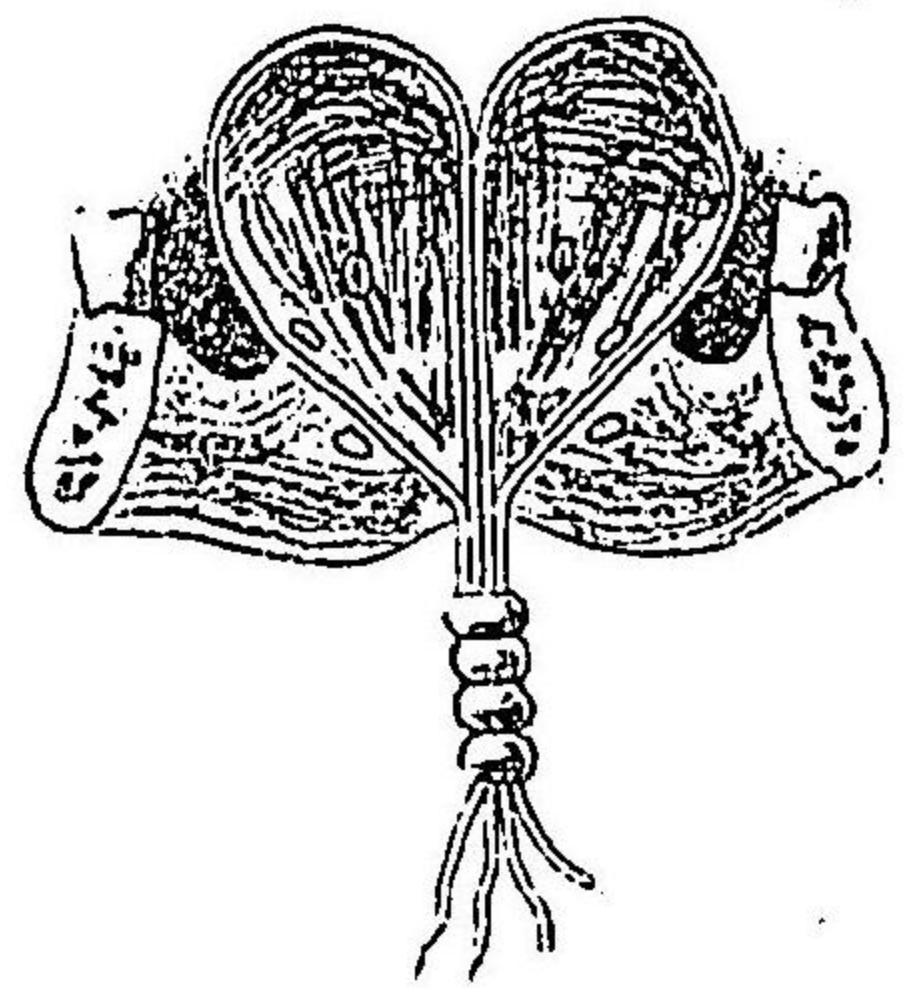
舌癌摘出術

舌癌ヲ摘出スルニハ少クトモ之レヲ隔ツルコト一仙迷以上ノ健康組織ニ於テ施コスヲ通則トナス然ラサレバ再發ノ疑大ナリ而シテ舌ニ於ケル腫瘍ヲ除去スルト同様ニ緊要ナルハ顎下部或ハ顎骨後部ニアリテ已ニ癌性侵蝕ヲ蒙ムリタル淋巴腺ヲ摘出スルニアリ

古來舌癌摘出術ニ就テ最モ恐怖ヲ懷カシメタルハ出血ト傳染ナリシガ現時ノ外科學ニアリテハ決シテ之レヲ患フルニ足ラズ從テ直接ニ手術ノ結果トシテ死ヲ致サシムルハ極メテ稀有ナリトス

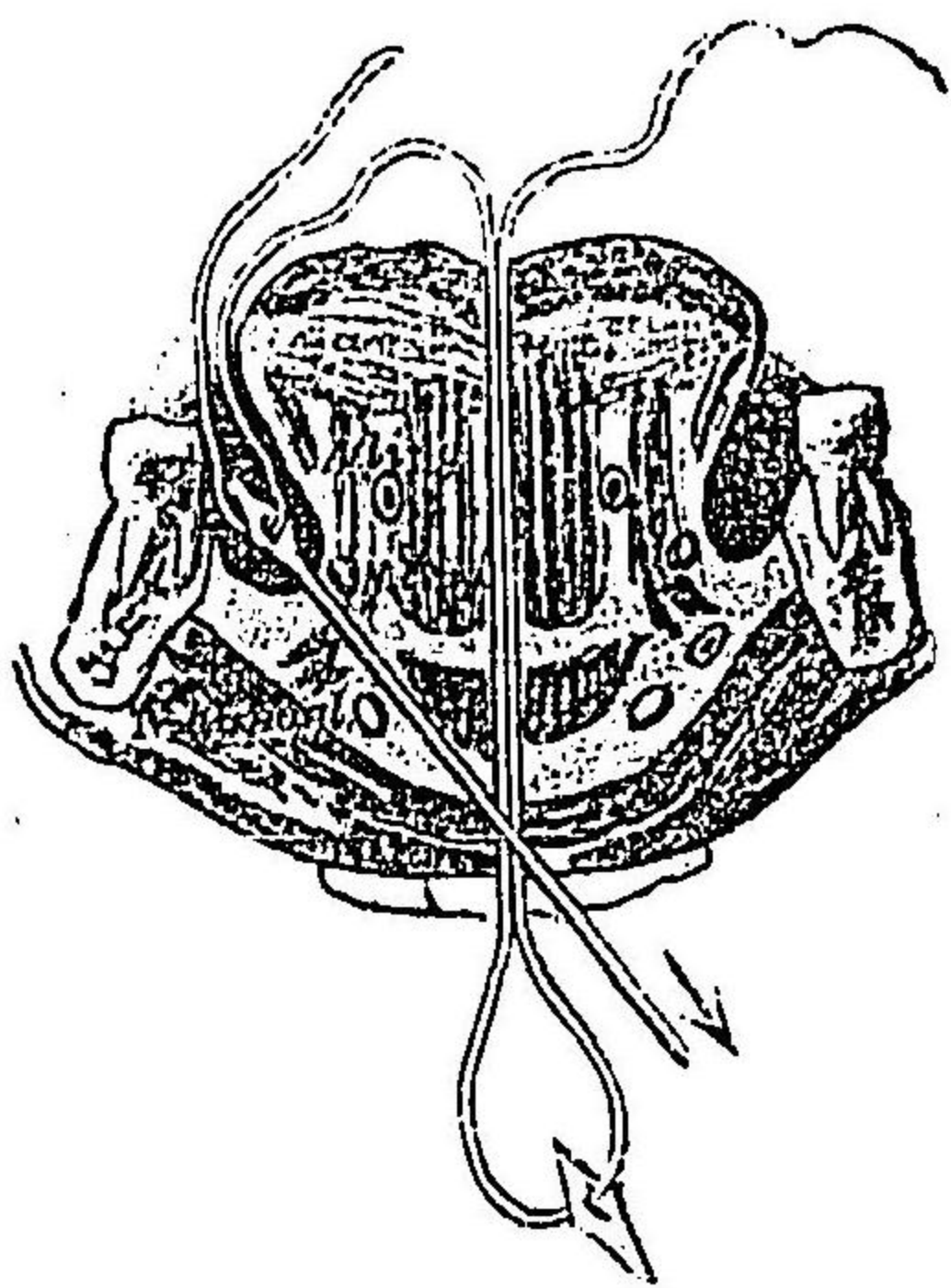
- (一)準備法 本術ヲ施コスニ就テハ左ノ準備ヲ施コスヲ必要トス
- 一、齒石、殘根等ヲ豫メ掃去シ口腔全體ヲ反覆消毒水ニテ洗滌ス
  - 二、腐爛甚シキ潰瘍ノ存スル所ハ兼テ之レヲ腐蝕又ハ燒灼シ置クヲヨシトス

第百二十六圖



(氏ヒチルワコ)

第百二十七圖



(氏ヒチルワコ)

三、劇甚ナル出血ノ患アリタルハ一側或ハ兩側ノ舌動脈ヲ結紮シ置クベシ(舌外傷ノ條下ヲ見ヨ)

或ハ舌ノ周圍括約法ヲ施コスモ佳ナリ即其法ハ舌底面ノ中央ヨリ強大ナル絹糸ヲ附シタル針ヲ直上ニ穿通シテ上面ヨリ出シ之ヲ針ノ處ニ於テ切斷シ兩端ヲ以テ結紮スルニアリ或ハ一側ニ於テノミ結紮シ或ハ兩側ニ於テ結紮ス(第百二十六圖及百二十七圖)

四、氣道内ニ血液ノ吸入ヲ防クタメ莫爾必涅嚙囉仿謨併用麻醉法ヲ施ス(顎骨

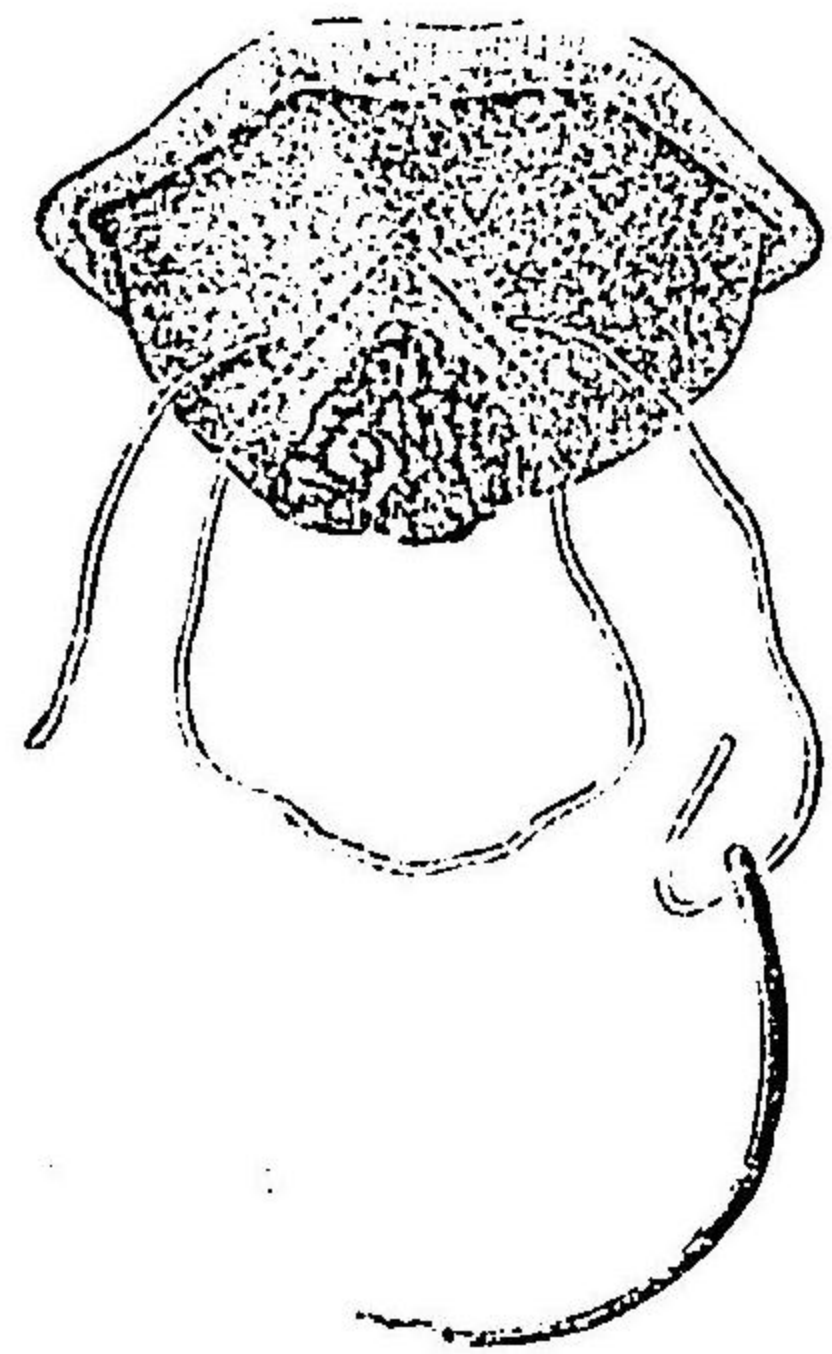
切除術ヲ見ヨ

五、舌全摘出時ニハ豫防的氣管切開術及ヒ喉頭ノ栓塞ヲ要スベシ

(二) 摘出法、先ツ腫瘍ニ直達スルノ方法ヲ講シ之レヲ楔狀ニ切除シ或ハ白金燒灼器或ハパツケリン燒灼器ヲ用ヒテ切除ス

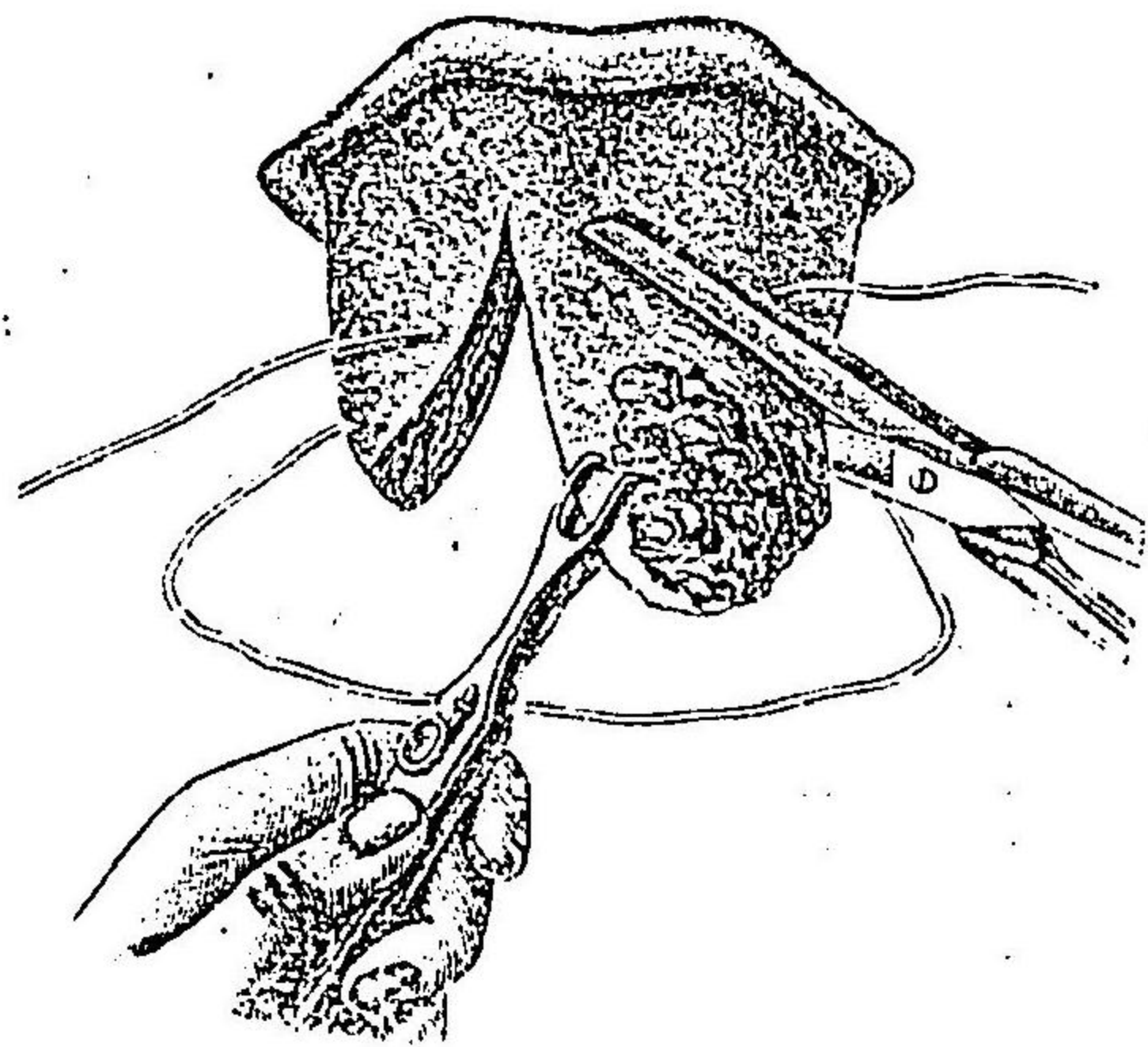
腫瘍ニ直達スル方法ハ其部位ト大サトニヨリテ相同シカラズ左ノ數種アリ

圖 八 十 二 百 第



(氏 ヒ ル マ ス エ)

圖 九 十 二 百 第



(氏 ヒ ル マ ス エ)

一口裂ヨリ直達スルノ法

(1) 若シ癌腫ガ小ニシテ且舌ノ前三分一ノ部分ニ在ルキハ先ツ強大ナル結紮糸或ハ銀線ヲ舌實質ノ中央ニ穿通シテ舌ヲ強ク口裂ヨリ牽出シ次テ剪ヲ以テ楔狀片ヲ切除シ直ニ創面ヲ互ニ合一縫合スベシ以テ出血ヲ制止シ得ベシ古加乙涅注射ニヨリ之レヲ施コスヲ難カラズ(第百二十八及百二十九圖)

(2) イーゲル式 Jäger (一八三一年) 腫瘍稍大ナルカ或ハ少シク後方ニ占位シテ口裂ヨリ充分直達シ得ザルキハ一側或ハ兩側ノ口角ヨリ側方ニ頰ヲ切開シテ此レヨリ舌ヲ牽出シ得ベシ

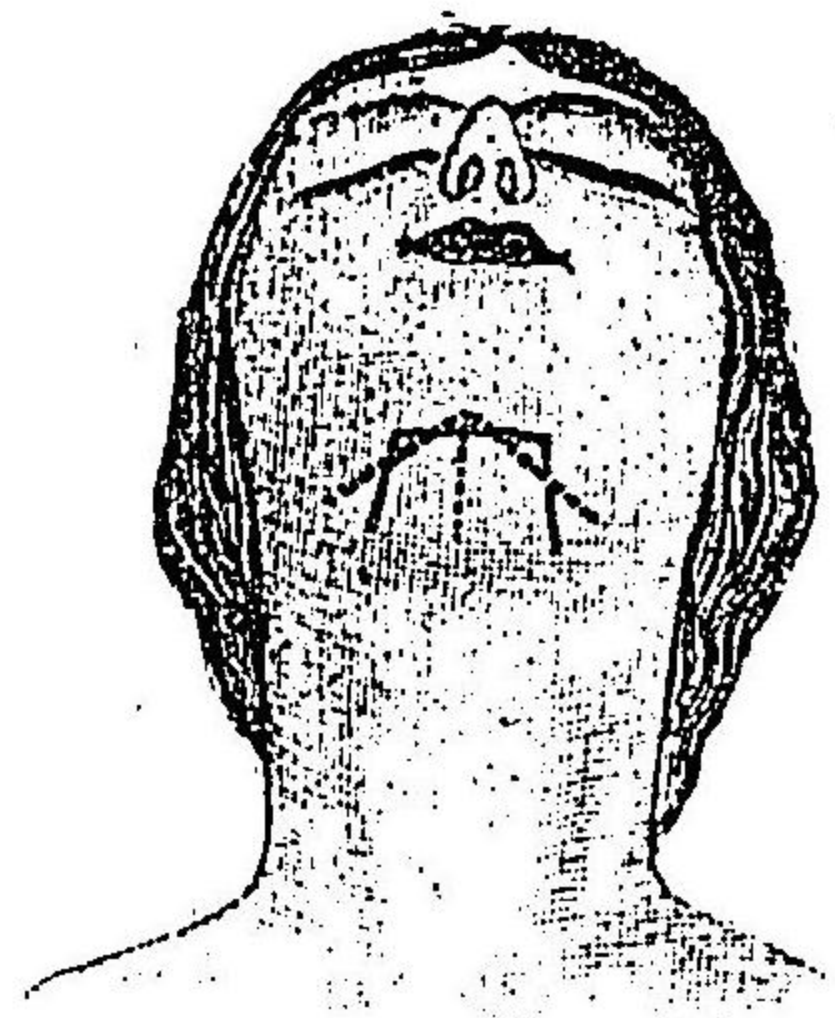
切開ハ普通口角ヨリ咬筋前縁ニ達システノン氏管及横顔面動脈ノ下方ニシ

テ外顎動脈ノ上方ニ走ルモノトス時トシテ舌動脈ノ豫防的結紮ヲ要スベシ

二頰下切開口ヨリ到達スルノ法

(1) レグナリー式 Regnault (一八三八年) 頰部ノ正中線ヨリ舌骨中央ニ達スル切開ヲ施コシ次テ其頰部端ヨリ兩側ニ下顎骨

圖 十 三 百 第

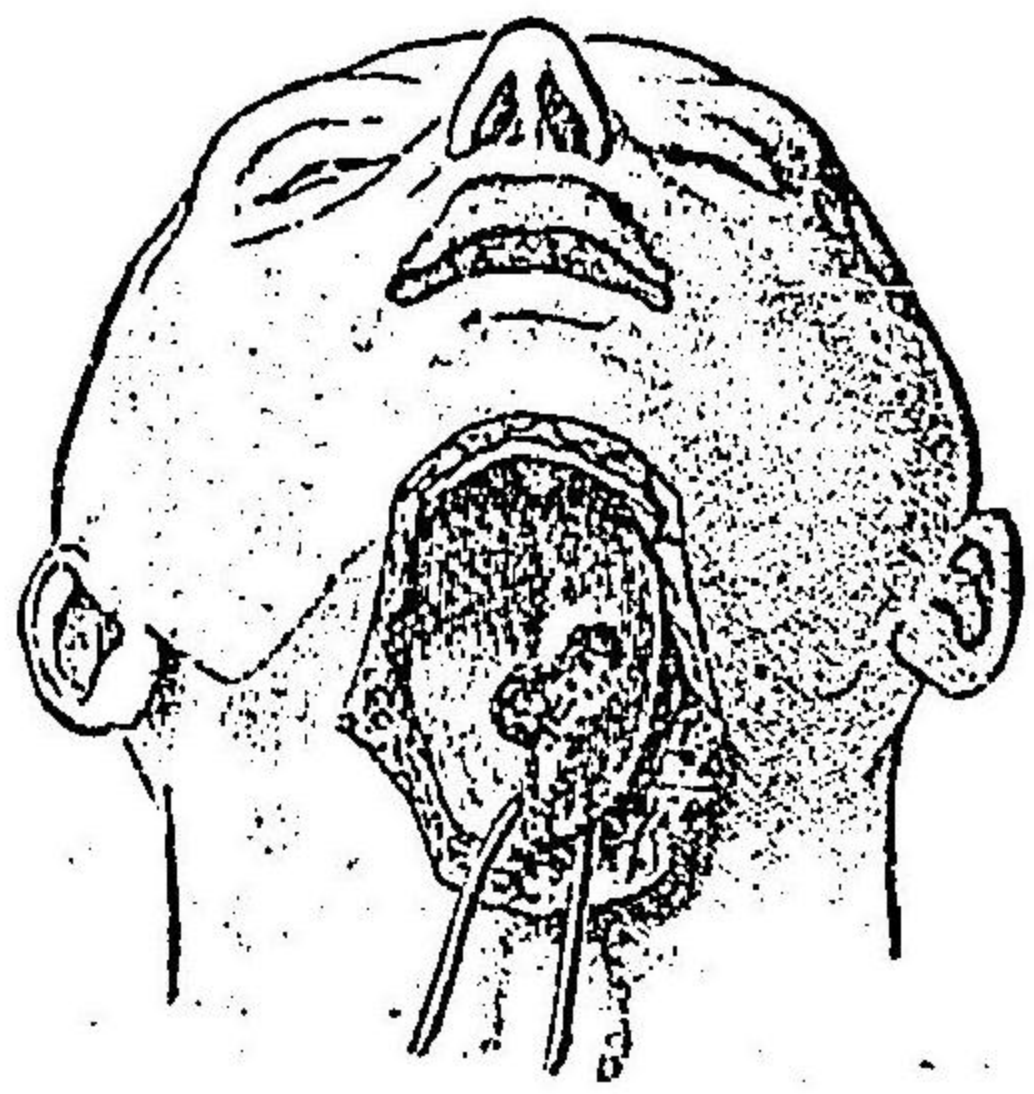


(氏 ス ン マ ル チ)

下縁ニ沿フテ咀嚼筋前縁ニ達スル迄ノ切開ヲ加エ各切開ヲ深部ニ進ミテ頤部ニ附着セル頤舌骨筋顎舌骨筋頤舌筋等ヲ截斷シ遂ニ口腔ニ進入シ舌ヲ其實質中ニ穿入シタル絹糸線ニヨリ切開創ヨリ牽出シ任意大ノ組織ヲ摘出ス舌體ノ癌腫ニシテ口底ノ侵サレタルモノニ最適ス(第百三十圖)

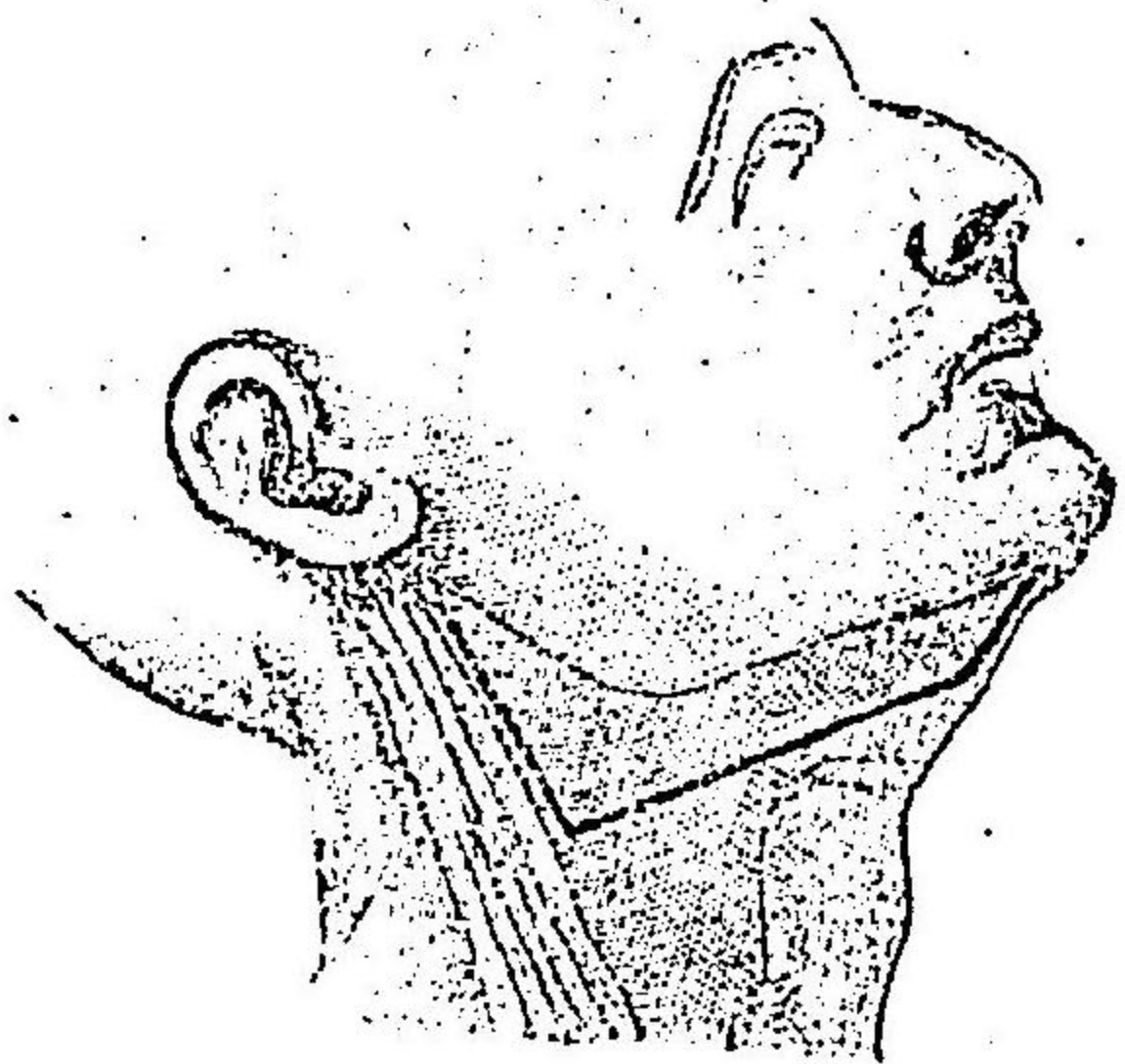
(2) ビルロート式 *Bilroth* (一八七三年) 先ツ頤部ニ於テ約五仙迷ノ弓狀切開ヲ施コシ其兩端ヨリ各側ニ於テ舌骨大角ニ達スルノ切開ヲ附加ス次テ弓狀切開ノ部ニ於テ深部ニ進ミ刀及起子ニテ骨膜及筋ヲ顎骨内面ヨリ剝離シ粘膜炎ヲ切離シ

第百三十一圖



(氏 セ)

第百三十二圖



而シテ口腔ニ達シ瓣ヲ下方ニ開ヒテ創口ヨリ舌ヲ牽出シ之レヲ任意切除又ハ摘出ス前者ト同様ノ適應ヲ有ス(第百三十一圖)

(3) コツヘル式 *Kocher* 頤部ヨリ垂直ニ舌骨ト頤部トノ中央ニ達スルノ切開ヲ加エ之レヨリ直ニ地平ノ方向ヲ取リテ側方ニ切開ヲ持續シテ胸鎖乳嚢筋ノ前縁ニ達シ更ニ之レヨリ其前縁ニ沿フテ耳垂ノ下部ニ至ルノ不正U字形切開ヲナシ皮膚ヲ上方ニ翻轉シテ顔面靜脈外頸動脈舌動脈ヲ結紮シ顎下腺及其附近ノ淋巴腺ヲ悉ク摘出シ漸ク深部ニ進ミテ口腔ニ達シ軟組織ヲ瓣狀ニ上方ニ遠サケ此創口ヨリ舌ヲ自由ニ牽出スルヲ得ベシ舌ノ後方ニ廣汎シタル癌腫摘出ニ最適ナル方法ナリトス(第百三十二圖)

三 下顎骨ノ一時性切除ヲナス方法

(1) セディロー式 *Sedillot*

(2) ランゲンベック式 *Langenbeck* 共ニ下顎骨一時性切除術ノ項ニ詳述シタリ

(三) 後療法 創腔ヲ沃度防護「ガーゼ」ニテ填塞シ口内ノ清拭ニ留意スベシ  
食餌ハ流動物ヲ長キ匙子或ハ鼻腔ヨリ挿入シタル食道消息子ニテ送入ス  
摘出後ハ其ノ大小ニ應シテ咀嚼嚥下及ヒ發音障害ヲ生ズ味覺ハ極メテ大ナ

ル影響ヲ蒙ムラザルモノトス

ボンセ *Ponsel* ハ一種ノ義舌ヲ創爲シテ摘出後ノ機能恢復ヲ企テタリ即チ護膜囊中ニ赤キ液體ヲ滿シ之レヲ調節性小桿ニヨリ義舌體ニ連續シ其全體ヲ下齒ニ維持セシムルニアリ

### 第六節 舌神經痛 *Neuralgia of Tongue*

舌神經痛ハ主トシテ三叉神經痛ノ一部症候トシテ顯ハル從テ同一原因ニ歸ス極メテ稀ニ純然舌神經ニ限局シテ發生スルコアリ寒胃、粗糙齒牙ノ刺戟舌瘡、舌或ハ其附近ノ手術等ニ因ルコ多シ

疼痛發作ハ或ハ自然ニ來リ或ハ刺戟ニヨリテ起ル談話飲食等ハヨク之レカ動機トナル安靜時間ニハ舌ハ毫モ異常ナク機能ヲ營ミ得ルモノナレモ時トシテ牽引様不快感乃至疼痛ヲ訴フルモノアリ多クハ精神作用ニ基ク壓痛ハ普通之ヲ缺ク

療法、三叉神經痛ノ一部症候トシテ來レルキハ其一般療法ヲ行フノミニテ足レリ若シ單純ニ舌神經ニノミ限局セルキハ其原因ヲ除キ其他局處ニ平流電

氣ヲ通シ又ハ舌神經ノ截斷、切除等ヲ行ハザルベカラザルコアリ其術式ハ三叉神經痛ノ條下ニ述ベタリ

### 第七節 舌運動障害

#### (一) 舌痙攣 *Spasm of Tongue*

舌下神經ノ痙攣ハ主トシテ全身性神經障害ノ一部症候トシテ來ル腦外傷、歇斯的里、舞蹈病、癲癇、子痲、進行性筋消耗、延髓球麻痺等ノ如シ極メテ稀ニ末梢原因ノタメニ來ル齒牙、齒齦、並ニ其附近疾患ノ反射ノ如シ

舌痙攣ハ舌ノ發作性且不隨意的伸長トシテ顯ハル其伸長ノ度ニ應シ或ハ單ニ齒牙ノ口蓋面ヲ壓迫スルニ止マリ或ハ齒間ヨリ口外ニ長ク突出スルニ至ル其發作ハ或ハ多少正シキ間歇ヲ以テ起リ(バトリン、サイン、ゲラード *Bullin, Wingard*) 或ハ談話飲食時ニ起ル從テ其狀態ニ應ジ舌ノ機能ノ一部或ハ全部廢絶ヲ伴フモノトス即咀嚼嚥下ハ困難又ハ不能トナリ發音談話ハ吃様又ハ失聲ヲ生ズ豫○後○

佳良ニシテ原因ノ除カル、キハ通例恢復ス

療法

原因ヲ精査シテ之レニ相當ノ處置ヲ加フ

局處的ニハ平流電氣ヲ通ジ又其ノ咀嚼談話ニ必要ナル運動ヲ練習セシム

(二)舌麻痺 Paralysis of Tongue

舌麻痺モ亦多クハ中樞性原因ニ基キテ發シ他ノ全身性麻痺ノ一部症候トシテ顯ハル腦外傷、球麻痺、全身性麻痺、進行性筋麻痺等ハ其原因ヲナスコト多シ稀ニ局處的原因ニヨリ單發ス舌下神經ノ損傷、腫瘍ニヨル壓迫、質扶的里麻痺等ノ如キ之レナリ

或ハ偏側ニ來リ或ハ兩側ニ起ル偏側舌麻痺ニアリテハ舌尖麻痺側ニ傾ク麻痺ノ度ハ輕微ノ運動不隨ヨリ其全廢ニ至ルノ差アリ其度ニ應ジテ飲食談話ノ障害セラレ、コト前者ニ同ジ

療法

原因ヲ除キ平流電氣ヲ通ジ受働的運動ニヨリ練習ヲナサシム

### 第八節 舌味覺障害

(一)味覺脫失 Agcuisis

或ハ終未裝置ノ障害ニヨルコトアリ舌粘膜面ノ炎症ヲ生ズルモノハ何レモ之レガ原因トナル口内炎、發熱、消化障害等ニ於テ最多ク見ル處ナリ其他煙草、酒精、辛辣物ノ常用亦然リ

或ハ味覺神經ノ發炎、損傷、壓迫等ニヨリテ味覺ノ全脫失ヲ生ズルコトアリ殊ニ其前方三分二ニ於ケル脫失ハ三又神經麻痺ニ基キ後方ニ於ケルモノハ舌咽神經ノ障害ニヨルモノトス

中樞神經ノ疾患ハ味覺ノ全脫失ヲ生ズベシ

(二)味覺異常 Parageusis

味覺失調ハ歇斯的里精神病者等ノ外之レヲ生ズルコト少ナシ鑛劑其他藥劑中毒ニヨリ藥劑ガ口内ニ分泌セラレテ異常味ヲ生ズルハ此レト趣ヲ異ニスルコト勿論ナリ

味覺亢進モ亦極メテ稀ナリ只歇斯的里或ハ精神病者ノ錯覺ヲ生ズルモノニ之レヲ目撃スルノミ

療法ハ脫失及異常共ニ同一ニシテ單ニ原因的ノミ



### 第九節 口底蜂巢織炎 Cellulitis of Floor of Mouth

ルドウィヒ氏安魏那 Angina Ludwigii  
頸圍蜂窩織炎 Sublingual Phlegmone

頤舌骨舌筋ノ一側或ハ兩側ニ於テ頤部ヨリ下顎隅角ニ亘ル組織ノ蜂巢織炎ナリ單ニ蜂巢織ノミナラズ其中ニ存スル舌下唾液腺、ワルトン氏管及淋巴腺モ亦一樣ニ發炎スルモノトス千八百三十六年ニルドウッヒ氏ノ初メテ記載シタル處ナリ

#### 原因

- 一、主トシテ成人ニ見ル處ニシテ小兒ニハ極メテ少ナシ
- 二、口底粘膜面或ハ其附近ヨリ化膿菌ノ侵入ニヨリテ生ズルコアリ下顎骨折或ハ切開創ハヨク其侵入ノ門戸ヲナス
- 三、附近組織ノ化膿ガ波及スルニヨリテ生ズルコアリ下顎大白齒ノ齒槽膿瘍扁桃腺炎等ハヨク此ノ例ヲナス
- 四、他部ニ於ケル化膿竈ヨリ轉移ニヨリテ生ズルコアリ

五、本症ニ於テ見出サル、細菌ハ連鎖狀膿菌、丹毒菌ニシテ或ハ其一ト葡萄狀膿菌トノ混合傳染ナルコアリ

#### 症候

發病極メテ急劇ニシテ患者ノ初メテ認識シテヨリ數時間ニシテ惡寒戰慄ヲ覺エ次デ下顎下縁ヨリ舌骨ニ至ル間ニ於テ先ヅ強直ノ感ヲ覺エ次デ忽チニシテ腫脹硬結ヲ起シ疼痛漸ク増劇ス同時ニ體温漸ク上昇スルヲ見ルベシ  
此部ニ於ケル炎症ハ急劇ニ周圍ニ蔓延シテ頤頸附近ニ浮腫様腫脹ヲ生ジ皮膚ハ潮紅緊張スベク後方ハ漸ク舌下ニ波及シテ舌ノ運動漸ク抑制セラレ運動毎ニ疼痛ヲ増惡スルヲ以テ遂ニ舌ヲ後上方硬口蓋ニ壓着シテ保持スルニ至ルベシ

凡テ發炎部ニ緊張ヲ生ズベキ運動ハ劇痛ヲ生ズルヲ以テ顎骨ノ開閉、談話、咀嚼、嚥下等ノ機能著シク阻碍セラレベシ炎症ノ漸ク頸圍蜂巢織ノ深部或ハ喉頭附近マデ波及スルキハ呼吸亦障害セラレ

病機ノ増劇スルヤ發熱機能障害ハ漸ク甚シクシテ患者ノ衰弱漸ク増進シ加之黃疸、蛋白尿、心臟障害等ヲ併發シ遂ニ完全ナル膿毒症ニ陥ルコアリ體質不良

ナルモノニ於テヨク見ル處ナリ

之レニ反シ體力旺盛ナルモノニアリテハ膿瘍漸ク限局シ初發ヨリ二乃至四日ニシテ膿瘍ヲ形成シ口内或ハ顎下部ニ明瞭ナル波動ヲ呈スルニ至ルベシ  
診○斷○

發病ノ状態ト現症トヲヨク觀察シ且双合診ニヨリテ口底組織ノ硬度、壓痛ノ存否ヲ診査スレバ鑑別ニ苦シムコト少ナシ

舌炎ハ舌實質ノ腫脹ヲ呈スルト口底ニ於ケル變化顯著ナラザルニヨリ容易ニ之レト鑑別スルヲ得ベク

顎下腺炎ハ主トシテ偏側性ニシテ其炎症症候ノ限局性ナルニヨリ本症ノ廣汎性變化ヲ起セルモノト鑑別スルコト難カラズ

豫○後○

疑ハシレテリール *Lactonics* ハ三十一例中十八ノ致命的轉歸ヲ取りタルモノアルヲ報告セリ今日ニアリテハ其預後此ノ如ク不良ナラザルベキモ速ニ適當ナル處置ヲ施コスニアラザレバ膿毒症或ハ窒息ニヨリテ斃ル

但シ生活力旺盛ナルモノニアリテハ數日ニシテ化膿限局シテ膿瘍ヲ形成シ

自ラ破裂排膿スルニ至ルコトアルベシ

療○法○

可及的速ニ切開ヲ施コスヲ緊要トス、膿瘍ノ形成セラレタルキハ勿論ナリ膿ノ形成疑ハシキ場合ニ於テモ之レヲ施コスベシ緊張ヲ緩解シ滲出物ヲ排除スルノ効アリ切開ノ部位ハ波動ノ觸知スベキモノ存シタルキハ其口内タルト外皮タルトヲ問ハズ其部位ニ於テ之レヲ施コシ波動ノ存セザルキハ豫メ探膿針ヲ用ヒテ膿或ハ滲出物ノ存在スル部位ヲ探究シ之レニ向ツテ便宜口内或ハ外部ヨリ切開ス口内ニアリテハ顎骨内面ニ沿フテ之レヲ施コシ外部ニアリテハ顎骨背筋ノ方向ニ沿フテ之レヲ行フ切開後ハ堅ク沃度防護「ガーゼ」ヲ挿入シ外部ヨリ濕布綑帶ヲ施コスベシ

施術ヲ行フ能ハザル事情アリタルキハ器法ト氷嚢ヲ間斷ナク外部ヨリ適用シ膿毒症ト呼吸困難ノ發起ニ對シ特別ナル注意ヲ要ス呼吸困難ノ發顯ヲ認メバ猶豫ナク氣管切開術ヲ施コサルベカラズ體力ヲ沈衰セシメザル様流動滋養食ヲ多量ニ取ラシメ強壯劑ヲ與エ酒精劑ヲ投ジテ亢奮セシムルコト常ニ緊要ナリ

### 第十節 口底腫瘍

#### (一) 癌腫

口底ノ癌腫ハ概スルニ稀有ナリ舌癌ニ繼發スルヲ最多シウエルフレルハ原發性舌癌四十四例ニ對シテ僅ニ四例ノ原發性口底癌腫ヲ見タリ

其發生スルヤ或ハ表層上皮ヨリシ或ハ深在腺ヨリシ或ハ舌下腺ヨリス多クハ唾液腺及中線殊ニ舌繫帶ノ部ニ顯出ス

初メ先ヅ上皮ノ剝脫シタル小結節トシテ顯ハレ或ハ又純然タル潰瘍ノ形態ヲ以テ來ル忽チニシテ四圍ニ硬結ヲ生ジ他部ニ於ケルガ如キ癌性潰瘍ノ本性ヲ發揮ス口底全部或ハ附近組織迄之レヲ侵蝕ス

自覺的障害ハ初期ヨリ劇甚ニシテ舌ヲ運動スルヤ著シキ疼痛ヲ生ジ談話咀嚼ノ障害セラル、一大ナリ淋巴腺ハ疾ク已ニ硬結ヲ呈ス

豫後多クハ不良ニシテ永久治癒稀レナリ

手術ハ大ナルモノニ向テハ舌癌手術ト同様ニ之レヲ行ハザルベカラザルモ小ナルニ方リテハ顎下部ノ中線ニ切開ヲ施コシテ摘出スルヲ得ベシ

#### (二) 良性腫瘍

良性腫瘍中口底ニ來ルコトアルハ脂肪腫纖維腫及ヒ皮様囊腫ナリト雖モ其ニ極メテ稀ナリ主トシテ願舌骨筋ト舌骨舌筋トノ中間ニ發生シ舌下ニ増大シテ舌ヲ舉上シ食物攝取ヲ困難ナラシムルコトアリ

口内或ハ顎下部ヨリ其近キ部位ヲ撰ンデ摘出スルコト容易ナルベシ

### 第六章 唾液系ノ疾患

#### 第一節 唾液瘻 Salivary fistula

唾液腺或ハ其排泄管ガ毀傷セラレテ癒合スルニ方リ其内腔ヲ裏装スル處ノ細胞ガ外皮ト癒着シテ外部ニ長ク唾液ヲ漏出スル處ノ小瘻孔ヲ殘スキ之レヲ唾液瘻ト稱ス頰内面即口腔内ニ開口スル亦唾液瘻ニ外ナラスト雖モ此場合ニアリテハ其機能上毫モ異常ヲ生スルコトナキヲ以テ之レヲ完全治癒ノ一形態ト見做シ特ニ唾液瘻トシテ論セザルモノトス

唾液瘻ニ二種ヲ區別シ其瘻孔ノ生スル部位ニヨリ唾液腺瘻ト唾液管瘻トナス殊ニ後者ヲ外科的興味アルモノトス

唾液瘻ノ生スルハ耳下腺系ニ最多ク顎下腺及ビ舌下腺ニアリテハ殆ト全ク稀有ナリ殊ニステノン氏管瘻ヲ頻發スルモノトナス

原因。

顔面ニ於ケル切創銃創ヲ最トシ或ハ不注意ナル手術創モ亦之レヲ生スルコト

アリ

其他上顎大白齒部ニ於ケル齒槽膿瘍其他凡テノ化膿作用或ハ壞疽作用ノ結果トシテ頰質ヲ穿通シ外頰部ニ破裂開口スルコトアリ

其起ルヤ初メヨリ瘻管ノ形成ヲ以テスルコトアリ或ハ初メ先皮下ニ唾液ノ蓄積ニヨリ蓄積囊腫様ノ腫脹ヲ形成シ其自然或ハ手術的ニ破開セララル、ニヨリテ之レヲ生スルコトアリ

症候。

唾液瘻ハ著明ナル症候ヲ呈スルコトナシ只當該側口腔ノ乾燥並ニ多少ノ消化障害ニ止マル外皮開口部ヨリ時々唾液ヲ分泌シ殊ニ咀嚼時或ハ耳下腺分泌機ノ亢奮セララルベキ状態ニ遭遇スル毎ニ滴下スルヲ見ルベシ其周圍ノ皮膚ハ常ニ濕潤セルヲ以テ濕疹ヲ生ズルコト多シ

療法。

一頰部外傷ニアリテハ常ニ耳下腺或ハ其排泄管ノ毀傷如何ヲ精査シ其毀傷セラレタルキニハ必ズ之レニ向テ適當ノ方法ヲ講シテ以テ唾液瘻ノ形成ヲ豫防セザルベカラズ其法頰部ノ穿通創ナルキハ外皮ノミヲ縫合シテ唾液ノ口内

ニ流入スルノ機會ヲ得セシメ非穿通創ナルキハ斷裂シタル排泄管ノ兩端ヲ可及的密接セシメ其周圍ニ一二ノ腸線埋沒縫合ヲ施コシ其上ヨリ皮創ヲ縫合スベシ

二 頰部外傷一部或ハ全部治癒シテ皮下ニ蓄積囊腫ヲ生成シタルキハ先ツ外頰ノ腫脹部ニ壓迫綑帶ヲ施コシテ其經過ヲ試ムベシ或ハ同時ニ粘膜面ヨリ囊腫ニ向ツテ穿孔スルモヨシ

三 完全ニ形成セラレタル唾液瘻ニ對シテハ硝酸銀棒、パッケリン、燒灼針、白金燒灼針等ヲ以テ反覆瘻管ヲ深ク燒灼シテ其癒合ヲ試ムベシ

然ラサレバ瘻痕ヲ切除シ同時ニ外皮ニ達スル排泄管ノ一部ヲ切除シ創口ヲ精密ニ縫合シ且外部ヨリ壓迫綑帶ヲ施コシテ良果ヲ收ムルコトアリ

四 生成後多數ノ時日ヲ經過シタルモノニハ特別ノ方法ヲ施コサ、ルベカラズ

a 排泄管ノ中樞端ヲ遊離シテ頰粘膜面ニ縫合スルモヨシ

b 或ハ瘻痕ヲ切除作創シテ排泄管中樞端ノ部ヨリ頰粘膜面ニ至ルマデ細小ナル護謨管ヲ頰實質中ニ通過シ外皮ヲ縫合スルモヨシ

c 或ハ更ニ佳ナルハデギースニヨリ二ケノ弓狀切開ニヨリ頰部厚徑ノ半ハニ達スル迄瘻管ヲ切除シタルノ後創底ニ半仙迷相隔リテ二ケ所ニ小套管針ヲ穿通シテ二ケノ小孔ヲ作り一孔ヨリ他孔ニ線或ハ腸線ヲ通過シ兩端ヲ頰粘膜面上ニ於テ結紮シ外皮創ヲ縫合スベシ然ルキハ唾液ハ線或ハ線ヲ傳リテ口内ニ排泄スベク適當ノ時期ニ此線ヲ除去スレバ茲ニ永存スル一或二ケノ排泄管ヲ殘スベシ

### 第二節 耳下腺炎 Parotitis

耳下腺ハ唾液腺中最緊要ナル炎症性疾患ヲ發ス他ノ唾液腺ニハ原發スルコト稀ニシテ耳下腺炎ト同時ニ來リ且頗ル無意味ナルモノナリ  
耳下腺炎ニ三種ヲ區別ス流行性耳下腺炎、化膿性耳下腺炎及慢性耳下腺炎之レナリ

#### 第一項 流行性耳下腺炎 Parotitis epidemica

小兒及幼若者ヲ襲フ處ノ流行性傳染病ノ一種ニシテ春秋二期ニ多ク都市或

ハ學校寄宿舎等ニ頻發ス女兒ヨリモ男兒ニ多シ

本症ノ病原菌ハ未タ確證セラレズ

症候

二乃至三週間ノ潜伏期ヲ有シ發熱ヲ以テ初マル體温ハ極メテ大ナル高昇ヲ呈スルコトナシト雖モ又三十九度乃至四十度ニ達スルコト少ナカラズ

小兒ハ先ツ一側ノ耳下腺部ニ疼痛ヲ訴フ初メ此部ニ少許ノ腫脹ヲ見ルト雖モ漸ク増大シテ四十八時間内ニハ頰部及頸部ノ大部ニ波及シ耳前ヨリ胸鎖乳嚙筋ニ亘テ一大腫脹ヲ呈スルニ至ルベシ一二日ニシテ他側ニモ亦同様ナル顯象ヲ生ス稀ニ顎下腺及舌下腺ヲモ犯カス

此時期ニ至レバ顎ノ開閉容易ナラズ從テ飲食談話ノ障害セララル、コト少ナカラズ唾液分泌ハ増多スルアリト雖モ又減少スルコトナキニアラズ疼痛ハ普通緊張ノ不快感ニ過ギズ劇痛ヲ生スルコト頗ル少ナシ稀ニ中耳炎ヲ生シ或ハ聽力障害ヲ來ス

本症ハ七乃至十日ニシテ漸ク輕減シ腫脹縮小シテ小兒ハ體力健康恢復スルコト常ナリト雖モ稀ニ高熱譫語失神ヲ起スコトナキニアラズ

本症ノ三十%ニアリテハ一側或ハ兩側ノ睪丸炎ヲ生スルヲ見ル其腫脹ハ數日ニシテ漸ク吸收消失セラルモノナリト雖モ稀ニ其萎縮ヲ生スルコトアリ女兒ニアリテハ卵巢又ハ乳房ノ犯サレタルコトアリ

其他本症ニ關節炎蛋白尿、心内膜炎、顔面麻痺、耳下腺化膿等ノ繼發シタル例ニ乏シカラズ

診斷

小兒ニアリテ耳下腺部ニ腫脹ヲ發シ殊ニ其兩側性ニシテ齒槽膿瘍其他ト關係ナキキハ診斷ヲ誤マルコトナシ

療法

患兒ヲ臥床セシメテ安靜ヲ與エ流動食ヲ取ラシム便秘ニ注目シテ下劑ヲ與フ耳下腺部ニ氷嚢或ハ溫卷法ヲ命シ防腐性含嗽料ヲ用ヒテ口内ヲ常ニ清掃セシム高熱アルキハ安知必林、アスピリン等ヲ與ヘ頭部ニ氷嚢ヲ貼ス  
睪丸炎ニ對シテハ之レヲ高舉シ氷嚢ヲ適用スレバ足ルベシ

第二項 化膿性耳下腺炎 Parotitis suppurativa

原因

一 傳染性疾患殊ニ腸室扶斯肺炎膿毒症等ノ經過中ニ本症ヲ起スコトアリ或ハ血流ヲ通シテ傳染スルニヨルコトアリ或ハ口腔ヨリ排泄管ヲ通シテ侵入スルコトアリ

二 腹腔骨盤内ノ外傷或ハ疾患ニ繼發スルコトアリバグーノ蒐集シタル此種ノ耳下腺炎一〇一例中泌尿道ノ疾患ニヨルモノ十 消化管ノ疾患ニヨルモノ十八 腹壁腹膜及骨盤内蜂窠織ノ疾患ニヨルモノ二十三 生殖器ノ疾患ニヨルモノ五十例ナリシト云フ

三 大臼齒殊ニ智齒附近ヨリ無髓齒根管或ハ拔齒創ヲ經テ化膿菌ノ耳下腺ニ侵入スルコトアリ齒槽膿瘍智齒難生顎骨々膜炎ノ如キ場合ニ然リ

症候

一側或ハ兩側ノ耳下腺部ニ發赤腫脹ヲ呈シ表面緊張シ甚シク壓痛アリ晚期ニ波動ヲ呈ス疼痛ハ當初ヨリ存在シ耳内ニ放散シ耳鳴聽力障害ヲ生スルコト稀ナラズ

腫脹ノ増大ト共ニ惡寒發熱アリ重症ニアリテハ譫語ヲ發ス

炎症ハ長ク腺組織ニノミ限局セズ或ハ周圍組織ニ波及シテ蜂窠織炎ヲ起シ或ハ咀嚼筋ニ波及シテ高度ノ牙關緊急ヲ生シ或ハ其膿汁筋膜ヲ破リテ外皮ニ破開シ或ハ稀ニ頭蓋底ニ膿性浸潤ヲ起シ又ハ血中ニ吸收セシメテ膿毒症ヲ起シ又ハ頭蓋腔底ニ血栓ヲ起シ致命的轉歸ヲ生スルコトアルベシ

豫後

原因ノ除去シ得ベキモノニアリテハ佳良ナリ殊ニ早期ニ療法ヲ適用シタル時ニ於テ然リトナス血流性原因ヲ有スルモノハ概シテ不佳ナリ致命的轉歸ヲ取ルコト少ナカラズ

療法

極メテ早期ニアリテハ氷嚢ヲ貼シ或ハ醋酸礬土冷罨法ヲ施コシ原因ニ對シテハ相當ノ處置ヲ施コスベシ水蛭ヲ試ムルコト亦佳ナリ

波動ノ顯出スルヤ其最柔軟ナル部ニ小切開ヲ加ヘ麥粒鉗子或ハ動脈鉗子ヲ以テ徐々ニ鈍性開擴ヲナシテ充分排膿セシメ沃度仿謨ガーゼヲ填塞シテ綳帶ヲ施シテ數日毎ニ之レヲ交換スベシ多クハ數日乃至數週ニシテ第二期癒合ヲナスベシ

體力維持ニ對シテ特ニ意ヲ用ユルヲ要ス強壯劑興奮劑ノ投與間々必要ナルヲアリ

### 第三項 慢性耳下腺炎 Parotitis chronica

頗ル稀有ナリト雖モ耳下腺ガ慢性炎ニ罹リテ肥大ヲ呈スルコアリ疼痛ハ殆ト全ク之ヲ缺如シ僅ニ流唾ヲ生ズ  
流行性耳下腺炎ノ轉歸ナルコアリ或ハ鉛、水銀、沃剝等ノ中毒ニ基因スルコアリ或ハ慢性ブライト氏病又ハ第二期梅毒ニヨル  
數年間其持續シテ特別ナル變化ヲ呈セサルコアリ  
療法 原因療法ヲ專一トシ其肥大劇甚ニシテ機能障害アルキニアラザレバ之レヲ摘出スルノ要ナシ

### 第三節 唾石 Salivary Concrements.

唾液排泄管中ニ結石ヲ形成スルアリ唾液中ノ磷酸石灰及碳酸石灰ノ沈降ニ基クモノニシテ顎下腺排泄管ニ最頻發ス女子ヨリモ男子ニ多シ

結石ハ唾液分泌ノ遲滯シ或ハ妨碍セラレタルキニ形成セラレタルモノニシテ從テ外部ヨリ排泄管中ニ異物ノ侵入シテ器械的ニ閉塞セラレタルキ或ハ排泄管ガ炎症ニヨリ腫脹シテ自カラ閉塞シタルキ或ハ癥痕形成ニヨリ其閉塞シタルキニ生ズルモノトス

唾石ハ碳酸石灰及磷酸石灰ヨリ主成シ細長紡錘形又ハ圓形ニシテ豌豆大蠶豆大乃至胡桃大ヲナシ表面滑澤ニシテ帶黃灰白色乃至汚穢暗綠色ヲナス  
症候

排泄管ヲ一部或ハ全部閉塞シテ管ノ内部ニ唾液蓄積ニヨリ波動性腫脹ヲ呈シ或ハ膿樣分泌物ヲ漏出ス(唾管膿瀰)長時日ヲ經過スルヤ腺ノ萎縮ヲ由來ス時トシテ開口部附近ニ潰瘍或ハ化膿性炎ヲ生ス

結石ノ漸ク増大スルヤ緊張ノ感ヲ覺エ舌ノ運動自由ナラズ咀嚼談話嚥下ニ際シ多少ノ異常ヲ覺ユベシ

口底組織ニ双合診ヲ試ムルキハ結石ヲ觸知スルヲ得ベク又タ排泄管中ニ細小ナル消息子ヲ挿入スルキハ硬固粗糙ナル物質ヲ觸知スルヲ得ベシ  
療法



排泄管開口部ヨリ有溝消息子ヲ入レ結石ニ達シ之レヲ切開シテ麥粒釘子ヲ以テ鉗取シ或ハ銳匙ヲ以テ搔出シテ除去シ後ニ防腐的處置ヲ施コシ含嗽水ヲ與フレハ容易ニ癒合シ唾液ハ自然開口部或ハ切開口ニ殘リシ小瘻口ヨリ排泄セラルベシ

腺組織内ニ結石ノ形成セラレタルキ或ハ已ニ腺ノ萎縮セルキハ結石ト共ニ之レヲ摘出スベシ

#### 第四節 蝦蟇腫 Ranula

顎下線及舌下腺ノ排泄管ニ於テ顯ハル、蓄積囊腫ニシテ蝦蟇ノ會厭胞ニ似タルヲ以テ此名アリ其本態ニ關シ古來數多ノ學說アリシヲ見ル

パウリハ之レヲ以テ唾液管ノ擴張シタルモノ或ハ唾液管ノ破裂シテ周圍ノ組織ニ唾液ノ溢出シタルモノナリトナシ甲ヲ唾液管擴張 Pyalactosis 乙ヲ唾液管囊腫 Pyaloccele ト名ケタリ

ウイルヒヨウハ乙者ノ存在ヲ否定シテ溢出シタル唾液忽チニシテ吸收セラレ、ヲ證明シタリ

フライシユマンハ曰ク唾液管ハ決シテ大ナル度迄擴張シ得ルモノニアラズ蝦蟇腫ハ顎舌骨筋ノ下方ニ生シタル水瘤ニ過キスト

グルト及ベルナルトハ顎下腺ハ蝦蟇腫ノ内容物ニ同シキ粘液様物質ヲ分泌スレト後者ハ唾液素及「ロダンカリウム」ヲ含有スル「ナキ」ヲ認メタリ然レト或ハ當初存在シタルモノガ後分解消失シタルモノナラスト云フベカラズ

ウエーベルハワルトン氏管ノ蓄積囊腫ニ就テ其表面ニ管口ヲ見出シ之レヨリ微細ナル探針ヲ挿入シタルニ石灰様塊ヲ觸知シタリト云ヘリ

レックリングハウゼンハ舌ノ實質中ニ存在スル「ブランダン」ヌーン氏腺ヨリ生スルモノナリト云ヘリ

症○候○

舌繫帶ニ沿フテ其一側ニ現ハル、波動性强靱ノ腫脹ニシテ僅ニ透映ノ性ヲ有シ豌豆大乃至鳩卵大ナリト雖モ時トシテ増大シ舌ヲ他側ニ壓迫シテ談話嚥下ノ機能ヲ障害スル「ナキ」ニアラズ生長極メテ緩慢ニシテ炎症性症候ヲ呈セズ穿刺スレハ淡黃清澄ニシテ粘稠ナル液體ヲ得ベシ

各年齢ニ發顯シ時トシテ先天性ニ發生セルモノアリ稀ニ炎症刺戟ノ結果急

劇ニ増大ヲ來スモノアリ急性蝦蟇腫ト稱ス  
診○斷○

發生緩徐ニシテ透映強靱ナルヲ炎症候ヲ有セサルヲ及ヒ内容物ノ検査ニ  
ヨリ容易ニ腫瘍ト鑑別スルヲ得  
豫○後○

佳良ナリト雖モ囊腫壁ヲ全ク摘出スルニアラサレハ殆ント常ニ再發ス  
療○法○

一、套管針ヲ用ヒテ内容物ヲ除去シタルノ後沃度丁幾ノ注入ヲ施コスモノア  
レモ効果確實ナラズ

二、前壁ヲ切開シテ囊内ヲ焼灼スル方法亦然リ

三、其囊腫壁ヲ全ク摘出スルヲ最有効ナリ

其法粘膜ヲ切離シ囊腫ノ前壁ヨリ後壁ニ至ルマテ徐々ニ剝離シ手術後創縁  
ヲ互ニ接着シテ縫合ヲナスモヨシ

或ハ先ツ前壁ノ全部ヲクーパーニテ切除シ其邊緣ヲ口腔粘膜炎ニ腸線ヲ  
以テ縫合シ其内面ヲ少シク焼灼シ沃度仿護ガ―ゼノ填塞ヲナスヲ更ニ便利ナ

リトス

### 第五節 唾液腺ノ腫瘍

唾液腺ノ腫瘍ハ概スルニ稀有ナリ耳下腺ニハ比較的頻發スルモノトス小兒  
ニハ少ナシ良性腫瘍中ニアリテ頻發スルハ内軟骨腫粘液腫纖維腫及内皮腫ニ  
シテ悪性腫瘍トシテハ癌腫多ク肉腫ハ比較的少ナシ

混合腫瘍ハ最多ク見ル處ニシテ軟骨粘液肉腫組織ノ混雜シタル造構ヲ有ス  
症○候○

良性腫瘍ハ成長緩徐ニシテ破壊性少ナク機能障害ヲ生ズルヲナク外皮ト癒  
着ヲ生ズルヲナシ只僅ニ局在セル腫大ト硬度ノ異常ヲ見ルノミ混合腫瘍ニア  
リテハ種々ナル粗糙點ヲ認ムベシ

悪性腫瘍ハ成長急速ニシテ忽チニシテ皮膚及周圍組織ト共ニ癒着ヲ生ジ之  
レヲ移動スルヲ能ハズ或ハ外方ニ破開シテ潰瘍ヲ形成シ或ハ顔面神經ヲ侵シ  
テ其麻痺ヲ生ズ其他衰弱敗血症出血等ニヨリテ死スルヲナキニアラズ  
療○法○

一、細小ニシテ自覺的障害ナキモノハ之レヲ放置スルモ佳ナリト雖モ惡性轉化ヲ生ズルコトナキニアラザルヲ記憶セザルベカラズ

二、筋膜内ニ限局セル良性腫瘍ハ皮膚切開ヲ施コシ腺ヲ露出シ其筋膜ヲ去リテ其内部ニ於テ摘出ヲ試ムベシ

三、腺摘出ハ腺ノ大部ヲ侵カセル良性腫瘍及ビ尙筋膜内ニ限局セル惡性腫瘍ニ對シテ行ハル、方法ナリ

耳下腺摘出術、腫瘍ノ長徑ニ沿フテ鉛直ニ皮切ヲ施コシテ筋膜ニ達シ其下緣ニ向ツテ周圍組織ヲ剝離シ銳鉤ヲ以テ之レヲ上方ニ遠ザクルノ後外頸動脈及前顔面靜脈ヲ遊離シ用ニ臨ミテハ結紮截斷ス

此ニ於テ更ニ腺ノ前緣及上緣ヲ剝離シ血管ヲ結紮截斷シ顔面神經ヲ可及的多ク保存シツ、腺ヲ摘出シ消毒「ガーゼ」ヲ填塞シ排膿管ヲ挿入シ創口ヲ二三縫合シテ手術ヲ終ル

顔面神經截斷ノ結果顔面麻痺ヲ生ズルコトナキニアラズト雖モ其數週乃至數日ニシテ恢復スルコト之レアリ

顎下腺摘出術、顎下部ニ於テ下顎下緣ニ併行シテ皮切ヲ施コシ潤顎筋及顎

筋膜ヲ切離シテ腺被膜ニ達シ總顔面靜脈ヲ遠ザケテ外頸動脈ヲ結紮截斷シ舌下神經及舌神經ヲ毀傷セザル様注意シツ、腺ヲ周圍ヨリ解離シテ摘出ス摘出ニ際シ指ヲ口底ニ挿入シ腺ヲ壓下スルキハ一層容易ナリ

### 第七章 扁桃腺ノ疾患

#### 第一節 急性扁桃腺炎 *Tonsillitis acuta*

(扁桃腺安魏那 *Angina tonsillaris*)

扁桃腺ハ其一側ニノミ限局セラル、コナキニアラズト雖モ一定ノ時期ヲ經過スルヤ多クハ兩側ニ於テ病的變化ヲ顯ハスモノタリ

其發炎スルヤ扁桃腺ヲ被フ處ノ粘膜前後ノ口蓋弓及咽喉ノ一部或ハ大部ハ發赤腫脹シ懸壅垂ハ腫大延長シテ數々患側ノ扁桃腺ト癒着ヲ呈ス

其炎症粘膜面ニ限局スルコアリ加答兒性扁桃腺炎ト稱ス  
又ハ其炎症濾胞ニ限局セラル、コアリ濾胞性扁桃腺炎ト云フ  
或ハ其腺組織ノ全部或ハ大部ニ蔓延スルコアリ基質性扁桃腺炎ト云フ

#### 原因

瘰癧質腺病質ノモノハ本症ニ對シ大ナル素因ヲ有ス消化不良新陳代謝不調等ヲ患フルモノ亦然リ

本症ノ誘因ヲナス處ノモノハ寒胃、痲質斯發疹熱過度ノ喫煙飲酒等ヲ最トナス肥大セル扁桃腺ハ刺戟ニ對スル抵抗殊ニ微弱ナリ其他本症ノ鼻腔其他附近組織疾患ノ波及ニヨリテ生ズルコアリ

#### 症候

初メ倦怠違和ヲ覺エ惡寒戰慄ヲ感ジ次デ漸ク咽喉ニ異常アリ嚙下談話ニ際シ不快感乃至疼痛ヲ覺エ其増劇ニ從ヒ體力沈衰冷汗不安不眠等ヲ生ジ夜間殊ニ其劇惡ヲ認ム

疼痛ハ下顎ノ隅角附近ヨリ耳部ニ向テ放散スル深在性鈍痛ニシテ多クハ頭痛ヲ伴ヒ顎ノ開閉嚙下談話等ハ著シク之レヲ増惡ス時トシテ口腔ニ蓄積シタル唾液ヲ嚙下スルコ亦多大ノ疼痛ヲ生ズルコアリ之レガタメ患者ノ衰弱急劇ニ其度ヲ増スベシ加之又之レガタメニ牙關緊急ヲ起シ味覺及嗅覺ノ障害ヲ起スコアリ

發熱ハ當初ヨリ多少其發顯ヲ見ルモノニシテ症候ノ劇惡スルニ從ヒ漸ク上昇スルモノニシテ三十九度乃至四十度ニ達スルコ稀ナラズ小兒及ビ初發ノモノニ於テ殊ニ顯著ナリトス之レニ伴ヒテ食思不振消化不良便秘ヲ生ジ舌ハ厚

苔ヲ蒙ムリ皮膚ハ乾燥シ脈搏頻數トナル

咳嗽ハ極メテ通例ナラズト雖モ咽喉ニ滯留スル粘稠分泌物ヲ清掃シテ其不快ヲ去ランガタメ患者ハ頻々輕咳様運動ヲ試ム

炎症ノ歐氏管開口部ニ達スルヤ聽力失調ヲ來シ更ニ下降シテ聲帶ニ及ブヤ失聲窒息症等ヲ呈スルコトアルベシ

扁桃腺ヲ檢スルニ組織ハ發赤腫脹シ小窩ニハ分泌物及上皮細胞蓄積シテ數密迷直徑ノ黃白色圓形乃至橢圓形ノ小斑ヲ處々ニ形成シ或ハ汚穢暗色ノ義膜ヲ形成シ或ハ淺在性小潰瘍ヲ形成ス

本症ノ重劇ナルモノニアリテハ殆ド常ニ扁桃腺周圍膿瘍ノ形成ニ終ル即症候漸ク増惡シ疼痛モ亦稍々鈍性ヲ失ヒテ銳痛ニ近邇シ膿瘍形成セラレテ局部ニ波動性腫瘍ノ發顯スルニ至ルヤ再ビ漸ク減少シ更ニ其自ラ破裂排膿スルニ至ルヤ急劇ニ緩解ヲ覺ユベシ波動性腫脹ハ多クハ軟口蓋ノ一側ニ現ハレ懸壜垂ヲ對側ニ向ケテ壓迫シ特異ナル外觀ヲ呈セシム

診斷

猩紅熱及ビ實扶的里ト鑑別スルヲ要ス

一、猩紅熱ハ咽喉ノ粘膜炎廣汎性ニ發赤シ扁桃腺ノ腫大セルコト少ナク疼痛ハ咽喉ニ限局シ牙關緊急ヲ生ズルコト殆ド之レナク所謂莓子舌ヲ有シ皮膚ニ特有ナル發疹ヲ見ルベシ

二、實扶的里ニアリテハ扁桃腺ノ腫大スルコトナク常ニ廣汎性義膜ヲ有シ體溫平熱以下ナルコトアリ牙關緊急殆ド之レナク微菌學的検査ニヨリ其本態ヲ知ルヲ得ベシ

豫○後○  
數日乃至二週日ニシテ經過シ生命ニ危險ヲ生ズルコト極メテ稀ナリ或ハ渙散シ或ハ慢性炎ニ轉ジテ肥大ヲ生ズ一度之レニ罹リタルモノハ再ビ本病ニ侵サルコト容易ナリ

療法

解熱鎮靜ノ目的ヲ以テ先ヅ安知必林、水楊酸曹達、アスピリン、規尼涅、阿片、丁幾、托氏散、グアヤコール、アコニット、丁幾等ヲ投與ス

局處ハ硝酸銀溶液、粘礬水、アドリナリン等ノ塗布ヲナシ、單寧酸水、石炭酸水、古加乙涅水等ノ霧散ヲ施コシ且粘礬水、硼酸水、鹽剝水、石炭酸水等ノ含嗽ヲナサシ

メ絶エズ水塊ヲ含マシメ頸圍ニ濕布綿帶ヲ施コシ置クキハ極メテ利アリ  
炎症消散ノ希望ナクシテ症候劇烈ナルキハ亂刺ヲ施コシ膿瘍ノ形成明瞭ト  
ナレルキハ充分ナル切開ヲ施コスベシ

### 第二節 慢性扁桃腺炎 *Tonsillitis chronica*

扁桃腺肥大 *Hypertrophie tonsillae*

扁桃腺ノ肥大ハ或ハ小窩内ニ分泌物ノ蓄積ニヨリ或ハ基質ノ肥大ニヨリ或  
ハ其兩者ノ合併ニ基因ス其肥大スルヤ扁桃大乃至大胡桃大ニ達シ帶黃紅色乃  
至暗紅色ニシテ柔軟ナルコトアリ又強靱ナルコトアリ小窩ノ或モノハ黃色乾酪樣  
硬度ノ物質ヲ以テ充滿セラル、ヲ見ルベシ

#### 原因

幼少及若年ノモノニ多ク女子ヨリモ男兒ニ殊ニ多キヲ見ル  
急性炎ノ反覆襲來スルニヨリテ生スルコト最多ク其儂麻質斯性或ハ腺病性ノ  
モノニ來ル時ニ於テ殊ニ然リ或ハ其實扶的里猩紅熱麻疹等ノ結果トシテ生ズ  
ルコトアリ或ハ其慢性咽喉加答兒ニヨルコトアリ或ハ梅毒性基原ヲ有スルモノア

リ或ハ遺傳性ノモノアリ  
症候

自覺的障害ハ極メテ少ナク只口峽ニ存スル腫大ニヨリテ多少ノ症候ヲ呈ス  
患兒ハ習慣性ニ警咳乾嘔ニヨリ咽喉ニ蓄積セル分泌物ヲ去ラントシ睡眠シテ  
ハ鼾聲ヲ發シ且口腔ヲ開放セルヲ以テ口角ヨリ唾液流逸ス  
聽器ノ發育不良ニシテ殆ト常ニ一側或ハ兩側ノ聽力異常アリ嗅味視覺又完  
全ニ發達セサルモノ多シ發音ハ鈍重ニシテ數々鼻聲ヲ帶ビ又ハ不明瞭ナリ  
呼吸ハ肥大ノ程度ニ應ジテ障害セラレ殊ニ睡眠中ヨク之レヲ認識スルヲ得  
ベシ窒息症候ヲ生ズルコト殆ト之レナシト雖モ其幼少ノ頃ヨリ長ク持續スルニ  
ヨリ呼吸器ノ發育不良ニシテ胸廓モ亦細長鳩胸ヲ見ルコト極メテ多シ  
咳嗽ハ多クハ缺如スト雖モ時トシテ發作性劇烈ナルコトアリ咽喉ニ腫大アル  
ニヨリ嚥下時ニ不快ノ感ヲ覺ユルコト少ナカラズ  
口腔ヲ開ケバ一側或ハ兩側ニ於テ肥大セル扁桃腺ヲ見ル時トシテ下顎隅角  
部ニ之レヲ觸知シ得ベシ

#### 診斷

視診ニヨリ殆ト確實ナル診断ヲ誤マルコトナシ前口蓋弓ノ癒着ニヨリ直視シ難キハ指尖ヲ以テ容易ニ之レヲ觸診シ得ベシ豫○後○

頗ル緩慢ナル経過ヲ有ス然レモ幼少者ニ來ルヤ壯年ニ至リテ自然治癒ヲナスコトナキニアラズ

生命其他ニ危険ヲ生スルコトナシト雖モ五官器及ビ中樞神經ノ發達ヲ障害シ或ハ頸部淋巴腺炎ヲ起シ肺結核ノ素因ヲナシ易シ其他急性扁桃腺炎ニ罹リ易ク猩紅熱及實扶的里ニ罹ルヤ咽喉ニ重大ナル症候ヲ發顯シ易シ療○法○

- 一、少壯者ニ於ケル肥大ニシテ尙其柔軟ナルモノナルハ枯礬水、硝酸銀水等ヲ反覆塗布シ、下顎隅角部ニ反對刺戟ヲ施コシ、沃鐵舍利別其他沃度劑又ハ鐵劑ヲ持續内服セシムルハ其涣散ヲ致スコアルベシ
- 二、沃度、麥角、石炭酸等ノ稀薄溶液ヲ基質内ニ注射スルノ利アルヲ説クモノアレモ廣ク用ヒラル、ニ至ラズ
- 三、電氣燒灼法ハ慢性濾胞性炎ニ對シテ殊ニ有効ナリ

第三百三十三圖

マチュイ氏扁桃腺切除刀



四扁桃腺切除術 Tonsillotomy 扁桃腺ノ全摘出ヲナスコトハ頗ル困難ニシテ危險多キヲ以テ其肥大突出セル部分ノミヲ切除スレバ足レリトナス切除スルニハ切開刀ヲ用ユ電氣燒灼ヲ用ユル又佳ナリト雖モ特別ニ此目的ニ

作為セラレタル扁桃腺刀ヲ佳適ナリトス就中マチュイ氏意匠ノモノヲ殊ニ然リトス(第三百三十三圖)

マチュイ扁桃腺刀ヲ用ヒテ之レヲ切除スルニハ先ツ手術面ヲ清掃消毒シタルノ後五%古加乙澀溶液ヲ塗布シテ數分間之ヲ放置シ次テ助手ヲシテ頭部ヲ支持セシメ術者ハマチュイ刀ヲ靜ニ挿入シ其環ヲ肥大扁桃腺ニ適合シ又鎗ヲ先ツ前進シテ腺ヲ串シ次テ及環ヲ前進セシメテ急速ニ切除ヲ致スニアリ舌ハ之レ

ヲ壓下スルノ要ナシ器械ノ挿入ニヨリ患者ハ反射的ニ乾嘔運動ヲナシ咽頭ヲ廣ク哆開スレバナリ

後療法ハ普通頗ル簡單ナリ即術後直ニ數分間氷片ヲ含マシメテ出血ヲ制止シ一日間氷襟ヲ施コシ安靜ノ位置ヲ保タシメ流動食ヲ與ヘ且絶エズ防腐性含嗽ヲナサシムレバ足レリトナス

出血ノ甚ダシキハ枯礬末ノ表面塗抹創面ノ持續性指壓電氣燒灼單寧酸液ノ注射温湯ノ灌注等ヲ試ム若シ血管ノ把取スベキモノアリタルハ長柄ノ動脈鑷子ヲ以テ之ヲ鑷取シ結紮スルヲヨシトス

### 第三節 扁桃腺ノ腫瘍

扁桃腺ニ生ズル良性腫瘍ハ極メテ稀有ニシテ且無意味ナリ多クハ其表面ニ成長増大スルモノナルヲ以テ容易ニ摘出或ハマチュール氏刀ヲ以テ切除シ得ベシ  
癌腫及ビ色素性肉腫ハ時々目撃セラルル局處的ニハ大ナル破壊性ヲ發揮シ忽チニシテ潰瘍ヲ形成シ全身的ニハ惡液質ヲ生ジ忽チニシテ體力沈衰シ一年以內ニ不良ノ轉歸ヲ取ルコト多シ

### 診斷

此ニ生ズル惡性腫瘍ハ之レヲ單純ナル肥大及ビ梅毒性潰瘍ト鑑別スルコト多シ

#### 一、扁桃腺肥大トノ鑑別

- a. 肥大ハ幼若少壯ノモノニ多ク發赤少ク多クハ兩側性ナレモ惡性腫瘍ハ中年以上ニ多ク周圍ニ硬結充血アリ多クハ偏側性ナリ
- b. 肥大ハ潰瘍ヲ形成スルコト少ク僅ニ小窩内ニ汚穢白色ノ堆積物ヲ容ル、モ惡性腫瘍ハ早晚潰爛シ汚穢灰白色腐敗性分泌物ト不良ナル肉芽塊トヲ有ス
- c. 肥大ハ疼痛ナク小兒多クハ口裂ヲ緊閉セズ迂愚ノ外觀ヲ呈ス惡性腫瘍ニアリテハ疼痛ナク早晚惡液質ヲ生ズ

#### 二、梅毒性潰瘍トノ鑑別

梅毒性潰瘍ハ梅毒ノ歴史ヲ有シ他部ニモ梅毒ノ病竈ヲ有シ疼痛ナク兩側性ニ來リ潰瘍ハ淺在性ニシテ穿掘狀ヲナシ腫脹硬結極メテ顯著ナラズ  
豫後  
惡性腫瘍ハ豫後常ニ不良ニシテ四乃至八ヶ月ニシテ致命的轉歸ヲ取ル



療法

極メテ早期ニアリテハ口裂ヨリ切除、焼灼ヲ試ムベシト雖モ其効果確實ナラズ故ニフロンランゲンベックニヨリ下顎骨ヲ側方ニ於テ一時性ニ切除シ充分扁桃腺ニ直達シ得ル様ニナシ之レヲ摘出スルノ外ナシ

### 第八章 下顎關節ノ疾患

#### 第一節 下顎關節脱臼 Luxation of the Inferior Maxilla

夫レ下顎關節ハ關節間靭帶アリ囊狀靭帶アリ側靭帶アリテ以テヨク之レヲ保護シ加フルニ關節ヲ裏装スル處ノ滑液膜ハ關節靭帶ト相連続スルヲ以テ關節頭ハ開口ノ最大限ニ達スルモ結節上ヲ超ユルコトナシ然ルニ關節頭ガ結節上ニ進メルニ方リ或原因ノ來リテ此ニ作用スルキハ外翼狀筋急劇ニ收縮シテ關節頭ヲ前方ニ牽引シ或ハ顎骨窩ニ至ラシムルコトアリ下顎ノ前方脱臼即之レナリ此際間軟骨ハ關節窩内ニ遺留セララル周圍ノ囊狀靭帶及ヒ側靭帶ハ極メテ稀有ナル場合ニアラサレバ破裂ヲ生スルコトナシ極メテ稀ニ關節頭ノ後退シテ後方脱臼ヲ生スルコトナキニアラズ關節頭或ハ窩ノ附近ニ骨折ヲ併發シタル場合ニアラザレバ之レヲ生ズルコトナシ

#### 第一項 下顎關節前方脱臼

原因

概スルニ下顎脱臼ハ頻發スルモノニアラズ僅ニ全身脱臼ノ一五布仙ヲ占ムト云フ就中偏側脱臼ハ稀有ニシテ普通逢會スルハ單純ナル兩側脱臼ナリトスギラルデ Giraldes ノ二十八例中十五例ハ兩側脱臼ニシテマルゲーン Maligne ノ七十六例中五十四例ハ兩側脱臼ナリ

下顎脱臼ハ高年者ニハ比較的少ナクシテ壯年者ニ最多シ殊ニ男子ニ比シテ女子ニ多ク其纖弱ニシテ筋肉ノ發育不全ナルモノニ於テ然リトス

僂麻質斯性關節炎ハ本症ノ素因ヲナスガ如シ蓋シ其關節靱帶ヲ弛緩セシメ且關節組織中ニ病變ヲ起サシムルヲ以テナリ

開口ト同時ニ下顎關節附近ノ筋肉ニ攣縮ヲ生スル状態ハ本症ノ誘因トナルコアリ欠伸嘔吐號叫哄笑等ノ如シ癲癇發作モ亦之レヲ生ズルコトナキニアラズ

外來ノ暴力ハ其口腔内ニ於テ生ズルト其外部ヨリ加ハルトヲ問ハズ本症ノ誘因ヲナスコアルベシ印象探得臼齒充填開口器ノ亂用拔齒術等ハ前者ニ屬シ頤部ニ加ハル暴力殊ニ顛倒又ハ打撲ニ歸因スルモノハ後者ニ屬ス

習慣性脱臼ヲ患フルモノアリヘンケロート Henke'sch 二從ヘバ下顎骨ノ發育不全ニシテ上顎骨ニ比シ其前方ニ占位スルニ歸因スルモノニシテ之レ乳臼齒ヲ拔去スルコト早キニ過キタルモノニ見ル處ナリト云フ

症候

兩側性ト偏側性トニヨリテ同シカラズ又單純ナルト複雑ナルトニヨリテ大ナル相違アリト雖モ普通ノ前方脱臼ニアリテハ次ノ如キ症候ヲ呈ス

單純ナル、兩側性、脱臼、ニアリテハ其症候頗ル明瞭ナリ即チ口ハ半ハ開ヒテ頤部ハ異常ニ前方ニ占位シ下顎齒牙ハ全體上顎ヨリ前進セリ顎ハ之レヲ閉合スルコト能ハズ唾液口角ヨリ溢流シ嚙下發音共ニ障害ヲ蒙ムリ頰部ハ兩側共ニ扁平ニシテ前後ニ延長シタルノ感アリ

注意シテ耳前ニ於テ關節ノ位置ヲ觸診スルニ窩ニ相當シテ陷凹アリ其前方ニ球狀ノ顆狀關節頭ヲ觸知スベシ頰骨部ハ顛顛筋ノ攣縮ト關節頭ノ脱出トニヨリテ豐隆スルコアリ

單純ナル、偏側脱臼、ニアリテハ前者ノ如ク症候顯著ナラズ開口シタル顎ハ之レヲ充分閉合スルコト能ハズ頤部ハ前方ニ突出シ且健側ニ傾斜セリ患側ノ關節

部ニハ上記ノ變化ヲ觸知スルヲ得ベシ  
 複雑脱臼ニシテ同時ニ顎狀突起ノ骨折ヲ併發セルモノハ骨折ノ條下ニ述ベ  
 タル症候ヲ呈出スベシ  
 療法

整復 ハ新生脱臼ニアリテハ敢テ困難ヲ感ズルコトナシ只隅角部ヲ下掣シテ  
 關節頭ヲ結節上ニ持來シ同時ニ少シク顎部ヲ上方ニ壓シテ關節頭ヲ内翼狀筋  
 ノ收縮ニヨリ後上方ニ向テ窩内ニ滑入セシムレバ足レリ  
 整復ノ術式ニ種々アリ左ノ如シ

- 一 普通行ハル、方法ハ患者ヲ先ツ低キ椅子ニ坐セシメ助手ヲシテ頭部ヲ固  
 定セシム術者ハ其直前ニ立テ咬傷ヲ豫防スルガタメ兩拇指ヲ布帛ヲ以テ數回  
 纏絡保護シタルノ後各側最後ノ齒牙上ニ當テ他ノ四指ヲ以テ下顎骨ノ下縁ヲ  
 抑エ徐々ニ下顎骨ヲ下後方ニ牽引シテ關節頭ヲ遊離セシメ同時ニ便宜ノ一二  
 指ヲ以テ輕ク顎部ヲ舉上セシムレバ急劇ニ關節頭ノ窩内ニ滑入スルヲ見ルベ  
 シ但シ此際敏捷ニ拇指ヲ取出シテ咬傷ヲ蒙ムラザル様ナスベシ
- 二 コート式 Koch 此方法ハ少シク前者ト趣ヲ異ニスル點アリ即通法ノ如ク

患者ヲ椅子ニ倚ラシメ術者ハ其直前ニ立ツベシ是ニ於テ術者ハ少シク腰ヲ屈  
 カメ患者ハ少シク體ヲ前方ニ傾斜シテ其前額ヲ術者ノ胸部ニ當テ術者ハ更ニ  
 其顎部ヲ患者ノ後頭部ニ當テ斯クシテ術者ハ己レノ胸ト顎トヲ以テ患者ノ頭  
 部ヲ固定スルニアリ而シテ後前法ノ如ク拇指ヲ下臼齒上ニ他指ヲ顎骨下縁ニ  
 當テ顎骨ヲ牽引スルコト前法ノ如クナルベシ

三 アンブローズ・パレー式 Ambrose Pare 第一種槓杆ノ理ヲ應用シテ整復  
 フ企テタタリ其法術者ハ先ツ患者ノ直後ニ立テ患者ノ頭部ヲ胸部ニ當テ、固  
 定シタル後木栓、木片或ハ軟護謨ヨリナル楔ヲ上下ノ臼齒間ニ挿入シ而シテ強  
 ク且急劇ニ顎部ヲ上顎ニ向ツテ舉上スルニアリ此方法ハ術者ガ安全ニ患者ノ  
 頭部ヲ固定シ得ルノ利アリ

四 チラトン式 Nelaton 術者ハ患者ノ前方ニ立テ兩拇指ヲ口内ヨリ或ハ口外  
 ニ於テ鳥啄突起上ニ加ヘ他指ヲ以テ乳嘴突起ヲ抑ヘ徐々ニ關節頭ヲ正位ニ至  
 ラシムルニアリ或ハ患者ノ後方ニ立テ拇指ヲ後頸背ニ當テ他指ヲ顎ノ上行枝  
 上ニ加エテ顎ノ主體ヲ後方ニ牽引スルモヨシ

五 新生脱臼ハ前記ノ方法ヲ試ムレバ大概整復ノ目的ヲ達スルヲ得ルモノナ

リト雖モ稀ニ然ラザルコアリ之レ恐ラクハ囊狀靭帶ニ破綻ヲ生シタルカ或ハ關節頭ノ骨折ヲ併發シタルカニ歸因スベシ此ノ如キ場合ニハ先ツ全身麻醉ヲ施コシテ筋肉ノ弛緩シタルニ乘シ再ビ整復法ヲ試ミ尙奏効セザルハ關節部ヲ切開露出シテ完全ニ整復ヲナスベシ時トシテ切除術ヲ行ハザルベカラザルコアリ

六、脱臼後多少ノ時日ヲ經過シタルモノハ其整復亦容易ナラズ炎症癒着其他ノ病的變化ヲ生スルコト常ナリ此ノ如キモノニアリテモ亦前法ノ如ク麻醉ノ下ニ整復ヲ試ミ然ラザレバ切開シテ血性整復法ヲ施コサ、ルベカラズ

七、習慣性脱臼ヲ有スルモノハ患者自身容易ニ整復シ得ルヲ以テ多大ノ煩勞ヲ生スルコトナシゲンツメル *Genzner* ハ沃度丁幾ノ注射ニヨリテ此種ノモノヲ治癒セシメタリ

後、處置 トシテ整復後一週乃至十日間可及的安靜ヲ得セシムレバ足レリ即顎骨ヲ固定シテ大ナル開口ヲナサシメザルニアリ四頭綱帶或ハ提顎綱帶ハ之レニ適スグッドウイリー *Goodwillie* ハ頭蓋ヲ被フ處ノ帽ト顎部ニ適合セル頭蓋ヲ彈性帶ニヨリテ連絡シ多少下顎骨ノ運動ヲ許スモ過度ニ之ヲ開口セシメザル

一種ノ装置ヲ按出シタリ

### 第二項 下顎關節後方脱臼 Luxation Retroglenoidalis

後方脱臼ハ下顎關節ニ於テ極メテ稀ニ起ル處ニシテ主トシテ顎骨ノ閉合シタル際顎部ニ直達シタル暴力ニ原因ス  
症候

本症ハ主トシテ複雑脱臼ノ形態ヲナスモノ多ク殊ニ聽道前壁ノ骨折ヲ併發シタルキト然ラザルトニヨリテ症候ニ大ナル差異アリ  
聽道前壁ノ骨折ヲ併發シタル症ニアリテハ口ハ半バ開キテ下顎齒穹ハ全體上顎齒穹ノ後方ニ占位シ加フルニ聽道ハ狹窄或ハ閉塞シ外耳ヨリ多少ノ出血アリ且時トシテ鼓室ヨリ漿液粘性分泌液ノ溢出スルコトアリ以テ頭蓋底骨折ニ於ケル腦脊髄液ノ逸出ト混同セラレ、コトナキニアラズ  
單純ナル下顎ハ後方脱臼或ハ不全脱臼ハ前者ニ比シ其起ルコト稀ナリ其起ルヤ欠伸上下齒列ノ壓搾顎顫筋ノ攣縮及ヒ下顎骨ノ打撲顛倒等ニ原因スルコト常

ナリ  
 此種ノ脱臼ニアリテハ顎ノ閉合不全、下顎全體ノ後退ニ加フルニ關節頭ノ後退ヲ以テス。關節頭ハ乳嘴突起ノ前方莖狀突起ノ外方ニ於テ之レヲ觸知スルコトヲ得ベシ  
 處置

整復ヲナスニハ下顎骨ヲ前下方ニ牽引シ同時ニ關節頭ヲ同方向ニ壓迫スルニアリ。聽道壁ノ骨折アルキハ麥粒鉗子其他便宜ノ器械ヲ以テ小骨片ヲ正位ニ壓迫復歸セシメ聽道ヲ消毒「ガーゼ」ニテ填塞スレバヨシ  
 時トシテ關節強直ヲ生スルコトナキニアラズ關節切除術ヲ施コサ、ルベカラズ

### 第二節 下顎關節炎 Arthritis of Maxillary Joint

急性ト慢性トヲ問ハズ下顎關節炎ハ比較的稀ナリ

#### 第一項 急性下顎關節炎

急性下顎關節炎ニ左ノ種類ヲ區別ス

##### (一) 儂麻質性下顎關節炎 Rheumatic arthritis

多發性關節儂麻質斯ヲ患フルモノニ於テ一側或ハ兩側ニ來ル  
 患部ノ症候ハ一般ノ關節ト同ジク運動ニ伴ヒテ疼痛ヲ覺エ從テ咀嚼談話ノ障害ヲ蒙ムルコト常ナリ。壓痛又存ス其他患部ニ多少腫脹ヲ呈スルコトアリ之レ關節内或ハ其周圍ニ漿液性乃至漿液纖維性滲出物ノ存在スルニヨル  
 本症ハ急性儂麻質斯ノ退行ト共ニ漸ク消退スルモノナリト雖モ稀ニ長ク關節強直ヲ遺スコトナキニアラズ

療法トシテハ一般儂麻質斯ノ處置ニ加フルニ局部ニ安靜ヲ與ヘ聲法其他ノ

消炎療法ヲ施コセバ足レリトス

##### (三) 淋毒性下顎關節炎 Gonorrhoeal arthritis

泌尿器ヨリ進入シタル全身性淋毒傳染ノ經過中ニ來ルモノニシテ多クハ急性ニシテ偏側性ナリ顯著ナル疼痛腫脹其他急性炎ノ症候ヲ有シ咀嚼談話等ノ阻碍セラル、コト甚シト雖モ化膿其他破壞的傾向ヲ示スコト少ナク一般淋毒症候ノ減退ト共ニ後害ヲ遺スコトナクシテ鎮靜スルモノニシテ四週間以上ニ亘ルコト

極メテ稀ナリ

泌尿器淋毒ノ處置ニ兼スルニ局部ニ沃度丁幾塗布或ハ灰白軟膏ノ塗擦ヲ以テシ固定安靜ヲ得セシムレバ足レリ

(三) 單純急性下顎關節炎 Simple acute arthritis

主トシテ附近組織炎症ノ波及ニヨリテ生ズルモノニシテ難生智齒齒槽膿瘍等ニヨリ生ジタル顎骨膜炎ノ波及スルコトアリ耳下腺或ハ耳疾患ノ波及スルコトアリ

炎症ノ程度ニヨリ顎骨ノ開閉自由ナラズ完全ナル牙關緊急ヲ生ズルコトアリ局處ハ腫脹發赤シテ壓痛アリ關節頭ヲ運動セシムレバ大ナル苦痛ヲ與フベシ原發病竈ノ鎮靜ト共ニ漸ク渙散シテ後害ヲ遺スコト少ナシ原因療法ニ加フルニ醋酸礬土等ノ冷罌法沃度丁幾ノ塗布等ヲ以テスベシ

(四) 化膿性急性下顎關節炎 Suppurative acute arthritis

前者ノ如ク附近組織ヨリ化膿炎ノ波及スルニヨリテ來ルコトアリ或ハ急性發疹病殊ニ麻疹猩紅熱痘疹等ノ經過中ニ來ルコトアリ或ハ轉移ニヨリ他部ノ化膿竈ヨリ由來スルコトアリ

症候顯著ニシテ殆ド常ニ關節内ニ少ナカラザル蓄膿ヲ生ズ之レヲ早期ニ切開排泄スレバ忽チニシテ治癒スルモノナリト雖モ多少ノ牙關緊急ヲ殘シ按摩法運動法ヲ反覆セザレバ機能ヲ恢復スルコト難シ

第二項 慢性下顎關節炎 Chronic arthritis

概スルニ慢性關節炎ハ更ニ稀有ナリ左ノ種類アリ

(一) 結核性下顎關節炎 Tuberculous arthritis

關節内ニ特發スルコト稀ニシテ或ハ頤顚骨ノ結核ノ波及ニヨルコトアリ關節ノ結核性骨瘍ノ波及ニヨルコトアリ  
症候極メテ不明ニシテ顎骨ノ運動自由ナラズ關節部ニ腫脹或ハ波動ヲ呈シ之レヲ穿刺スレバ乾酪様物質ヲ得ベシ  
早晚關節内ニ結核性膿瘍ヲ形成スルモノニシテ之レヲ切開抓把スルコト早ク且完全ナレバ常ニ必ラズシモ關節強直ヲ遺スコトナシ但シ晩期ニアリテハ關節切除ヲ要スルコトアルベシ

(二) 畸形性下顎關節炎 Arthritis deformans

多關節性炎ノ一部トシテ起ルモノニシテ他關節ニ於ケルト同ジク關節軟骨及ビ間軟骨ノ收縮破壊ニ加フルニ他方ニ於テ軟骨質及骨質ノ新生セラル、モスニシテ其病機ノ状態ニヨリ關節部ニ種々ナル變形ヲ呈ス

或ハ動搖關節ニ變ゼシムルコアリ之レ破壊ノ顯著ニ進行シタルモノニ見ル處ニシテ下顎骨ハ異常ニ廣ク運動ヲナスヲ得ベク動モスレバ習慣性脱臼ヲ生ジ且關節ノ運動ニ方リテハ粗糙トナレル關節面ノ摩擦ニヨリ軋鳴ヲ聴取スルヲ得ベシ

或ハ運動障礙ヲ生スルコアリ之レ關節面ノ變形シテ適合完全ナラザルニ基因スルモノニシテ更ニ進歩スルキハ關節ハ纖維性或ハ骨性癒着ヲ生シテ完全ナル牙關緊急ヲ生スルニ至ルベシ

療法トシテハ沃度劑砒劑等ノ内服ニ兼ヌルニ初期ニ於テハ按摩法並ニ運動法ヲ試ムベシト雖モ其已ニ完全ナル強直ヲ起シタルモノニアリテハ關節切除術ヲ施コサ、ルベカラザルベシ

(三) 痛風性下顎關節炎 Gouty arthritis (arthritis urica) 極メテ稀有ニ之レヲ見ル

### 第三節 下顎關節強直 Ankylosis of the Jaw.

下顎關節ノ運動廢絶シテ顎ノ開閉一部或ハ全部不能トナリ從テ咀嚼談話ニ故障ヲ生ジ口腔ノ機能凡テ其累ヲ蒙ムルコト決シテ稀有ナリトセズ即チ牙關緊急ノ一形態ナリ或ハ一側ニ來リ或ハ兩側ニ來ル  
下顎關節強直モ亦タ別ツテ二種トナス假性及眞性之レナリ而シテ眞性ノモノハ更ニ之レヲ結締織性ト骨性トニ分類ス

#### 第一項 下顎關節假性强直 False ankylosis.

Ankylosis spuria

下顎關節ガ外觀的不動性ヲ呈スルモノニシテ一朝之レヲ麻痺セシムレバ可動性ヲ表ハスベキ種類ノ關節強直ヲ指稱スルモノナリ原因タル事項ノ除去ト共ニ容易ニ消退スベシ

原因

下顎關節炎ハ其急性タルト慢性タルト將又歇斯的里性タルトニ論ナク本症

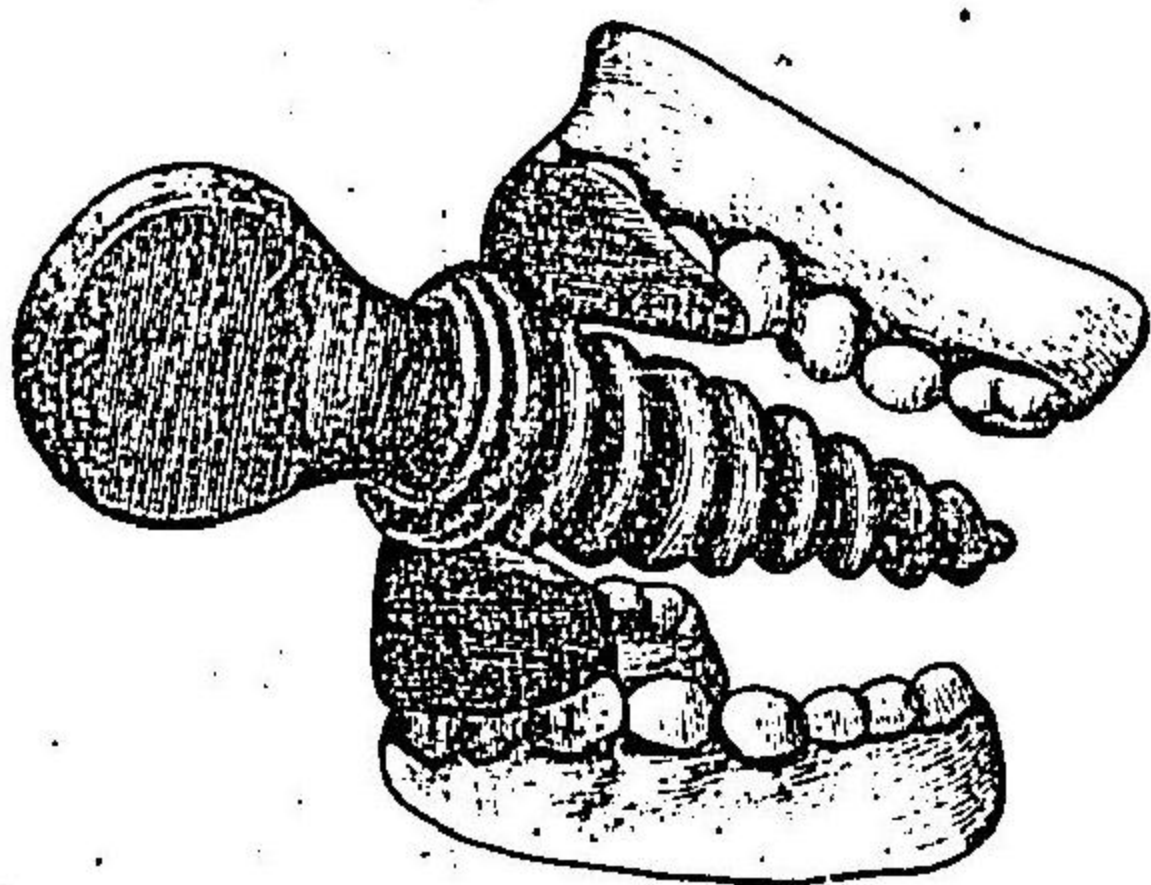
ノ原因ヲナス之レ其部ノ神經ニ加ハル持続性刺戟ノ存スルニヨル  
 關節附近ノ筋肉殊ニ咬筋及ビ内翼狀筋ノ攣縮ハ又本症ノ原因ヲナス之レ主  
 トシテ附近組織ヨリ炎症ノ波及ニヨリ筋肉ガ強直性攣縮ヲ起スガタメニシテ  
 次ノ如キモノハ其最多ク顯ル、處ノモノナリ 一、大白齒殊ニ第三大白齒ノ難  
 生 二、白齒部ノ齒槽膿瘍 三、耳下腺顎下腺其他淋巴腺ノ炎症 四、化膿性扁桃  
 腺炎 五、顎骨々膜炎 六、口底蜂窠織炎等ノ如シ

療法

原因ニヨリテ同シカラズ

關節炎ニヨリテ生シタルモノハ局處ニ消炎  
 療法ヲ施コシ、其大畧鎮靜シタル後尙強直ノ存  
 スルアレバ受働的運動、及ビ按摩ヲ施コスベシ  
 智齒難生ニ原因スルモノハ可及的早ク之レ  
 ヲ拔去セザルベカラズ若シ拔齒鉗子ノ挿入ヲ  
 許サ、ルキハ數日間消炎療法ヲ施シ螺旋開口  
 器ヲ用ヒテ之レヲ壓開シテ拔齒鉗子ノ挿入ヲ

第三百四十四圖



許スニ至リテ拔去スベシ(第三百三十四圖)但シ炎症劇烈ニシテ一日ヲ猶豫シ難キ  
 キハ全身麻酔ヲ施コシテ筋肉ヲ麻痺弛緩セシメ直ニ拔去ス智齒ノ位置ニヨリ  
 第二大臼齒ヲ犧牲ニ供セザルベカラザルコトアリ、  
 其他齒槽膿瘍、顎骨膜炎、蜂窩織炎等ニアリテハ切開或ハ拔齒ニヨリ排膿セシ  
 ムレバ忽チニシテ強直消退スルモノトス  
 耳下腺炎扁桃腺炎等ニヨリテ生シタルモノハ通例暫間的ニシテ其炎機ノ鎮  
 靜スルト共ニ消散スベシ

第二項 下顎關節眞性結締織性強直 Ankylosis fibrosa

原因

一、關節ノ疾患ニシテ關節内ニ滲出シタル物質ガ成形性變化ヲ享受シテ相對  
 向セル關節面ヲ纖維性物質ニヨリテ癒着ヲ生セシメ或ハ窩内ヲ癥痕組織ニヨ  
 リテ多少充盈セシムルキハ本症ヲ生スベシ凡テノ關節炎ノ轉歸トシテ來ルベ  
 ク殊ニ化膿性炎及結核性炎ヲ其最ナルモノトス  
 二、關節囊關節靭帶及ヒ其附近ニ於ケル癥痕收縮モ亦之レヲ生スベシ外傷火



第 百 三 十 五 圖

眞 正 關 節 強 直



(マ シ ャ ル 氏)

傷、水瘡、癌腫梅毒等ニヨリ組織ガ破壊セラレテ癥痕ノ形成ニ終レルキ之レナリ  
 療○法○  
 本症ヲ未發ニ防止スルガタメ關節ノ疾患ニアリテハ早期ヨリ受働的及ビ自

働的運動ヲ行ハシムルヲ必要トス

已ニ顯出シタル強直ニアリテハ左法ヲ試ムベシ

一 伸展法、緩徐法ト即時法トノ二アリ

緩徐伸展法ハ發生後多數ノ時日ヲ經過シタルモノ、輕微ナルモノ等ニ適當ニ  
 シテ毎日數回上下兩齒列間ニ木楔、硬護謨製楔或ハ螺旋開口器ヲ挿入シテ堪エ  
 得ル限リ之レヲ深ク挿入シ彎縮シタル筋肉或ハ癒着ヲ徐々ニ伸展スルノ方法  
 ナリ或ハ患者自身之ヲナスヲ得ベシ

グトウイリー Goodenillieノ開口器(第三百三十六圖)

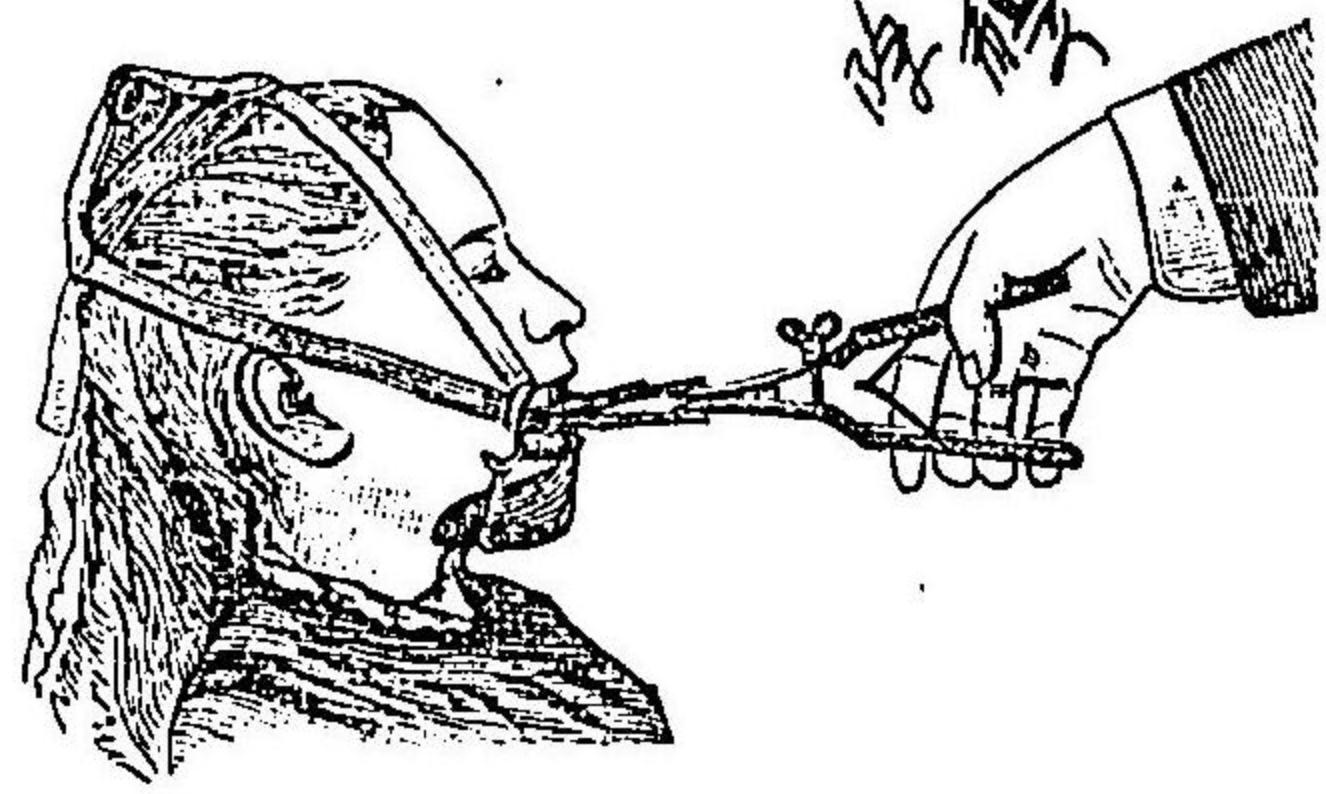
ハ之レヲ行フニ最便利ナリ

即時伸展法ハ全身麻醉ヲ施コシテ筋肉ヲ弛緩  
 セシメタル後強ク上下ノ顎骨ヲ壓開シテ強制的  
 ニ癒着ヲ分離セシムル方法ナリ普通開口器或ハ  
 楔ヲ齒間ニ挿入シテ之レヲ行フ

單ニ一回ノ手術ニテハ不充分ナルベシ術後毎  
 日緩徐法ヲ反覆スルヲ數回ナルヲ要ス

第 百 三 十 六 圖

時 即 伸 展 法



グ ト ウ イ リ ー 氏

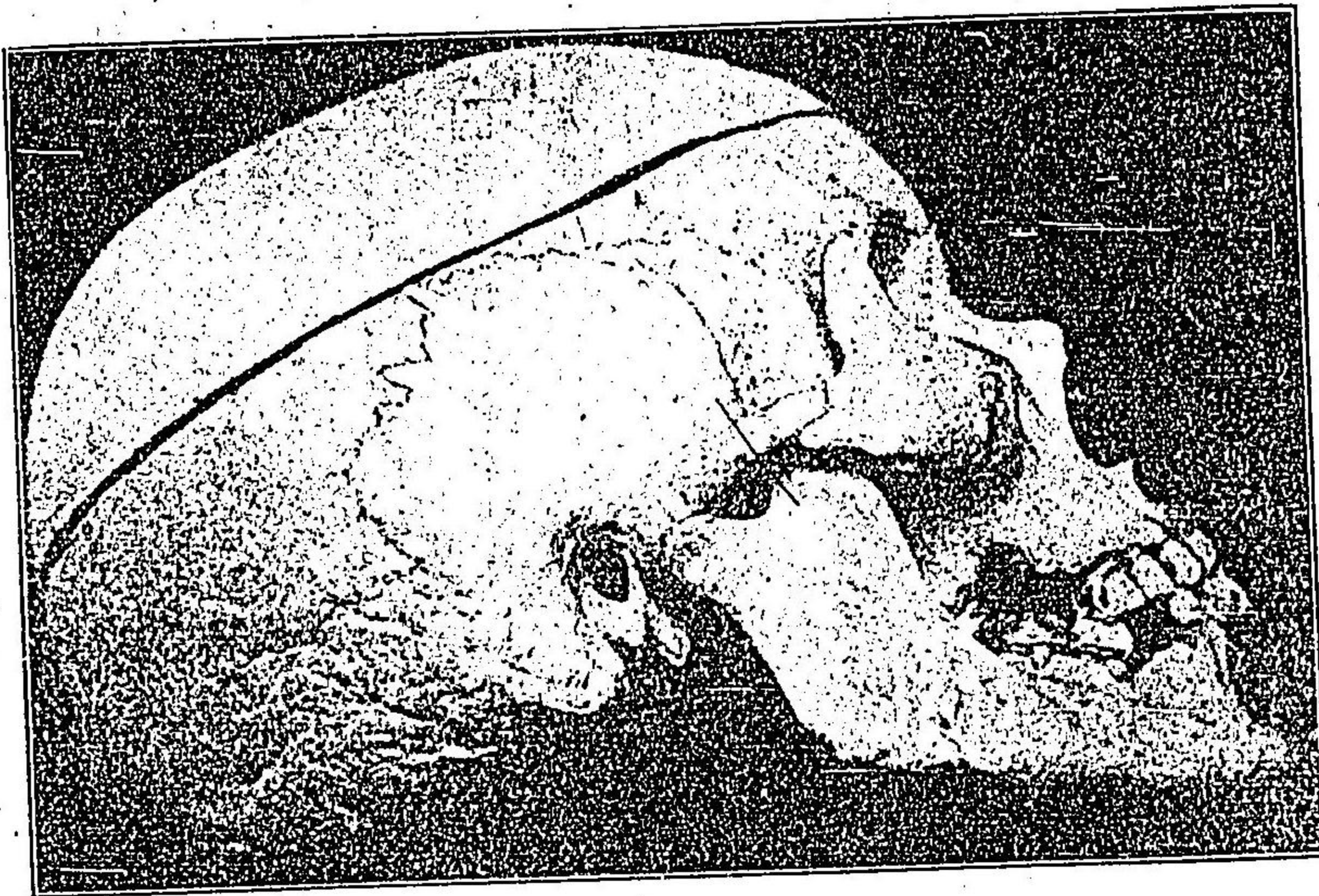
二按摩術及ビ受働的運動、ハ更ニ輕微ナル程度ノ強直ニ適當ナリ關節炎ノ  
 渙散治療ヲ初ムルヤ直ニ之レヲ行ハシムルヲ要ス其法毎日數回關節部ニ按摩  
 ヲ施コシ且自カラ下顎骨ヲ擱シテ之レヲ上下シ且勉メテ咀嚼運動ヲ試マシム  
 ルニアリ

三植皮術 關節ノ外部ニ癩痕收縮ヲ強直ヲ伸展シ難キハ他部ノ手術ノ  
 如ク悉ク之レヲ剝離除去シテ新創面ヲ作りチールシ植皮術ヲ施コスニアリ伸  
 展法ト併用スレバ有効ナルベシ

第三項 下顎關節骨性強直 Ankylosis ossea

關節面方骨或ハ軟骨組織ヲ以テ相對向セル部分ト癒着ヲ生ジタル状態ヲ稱  
 スルモノニシテ或ハ當初ヨリ骨質ヲ沈着スルニヨリテ生ジ或ハ先ヅ纖維性癒  
 着ヲ生ジ其組織中ニ石灰鹽ガ沈着シテ之レヲ生ズ從テ強直ノ最不良難治ノ形  
 態ナリ完全骨性強直ニテリテハ顎ハ少許タリトモ開閉シ能ハザルベキ理ナレ  
 凡實際ニテリテハ二分一乃至四分二仙迷位ノ運動ハ之レヲ營ミ得ルモノトス  
 (第百三十七圖)

第 百 三 十 七 圖



下顎關節ノ疾患

原因

下顎關節頭或ハ其附近ノ骨折  
 ハヨク之ガ原因トナル殊ニ脱臼  
 ヲ兼タルモノニ於テ然リ  
 纖維性強直ハ多數ノ時日ヲ經  
 過スレバ化骨シテ本症ニ轉化ス  
 ルヲ多シ

慢性關節炎ハ當初ヨリ本症ヲ  
 生ズルヲ多シ癩麻質斯性結核性  
 及ビ畸形性何レモ之レナリ

療法

單ニ外科的手段アルノミ  
 凡テノ骨性強直ニ向テ手術ス  
 ベキヤ否ヤハ疑問ニ屬ス要ハ周  
 圍ノ状態ニアリ之レニ向テ行フ

ベキ方法三アリ切骨術關節切除術及ヒ顎骨一部切除術之レナリ  
(一)切骨術

關節ノ前方或ハ癩痕收縮ノ存ズル前方ニ於テ切骨術ヲ行ヒ假性關節ヲ作為シ機能障礙ノ程度ヲ少ナカラシメントスルニアリ

チツフェンバッハ Dieffenbach. ハ癩痕ノ存スル部ヨリ後方ニ於テ顎骨上行枝ヲ切斷シテ假關節ヲ作為シタリト雖モ奏効セザリキ之レ癩痕ノ後方ニ於テ切斷シタルニヨル

リザリー Rizali. ハ癩痕ノ前方ニ於テ切骨術ヲ行ヒ且顔面ニ癩痕ヲ遺スヲ避ケテ口腔内ニ於テ手術シタリ其法軟組織ヲ切開シテ骨枝ヲ露出シ之レヲ強堅ナル骨剪子ニテ剪切スルニアリ

エスマルヒ Esmarch. ハ外部ニ於テ下顎骨下縁ニ沿フテ切開シ單ニ癩痕ノ前方ニ於テ骨質ヲ切斷シタルノミナラズ同時ニ楔狀片ヲ切除シテ假關節ヲ形成シタリ此法ハ効果確實ナルヲ以テ廣ク行ハル但シ施術後毎日數回受働的運動ヲ施コシテ假關節ノ強直セザル様注意ヲ要ス

(二)關節切除術

一般ニ行ハル、方法ハ先ヅ耳翼ノ前方一指横徑ノ所ニ於テ顎骨弓ト直角ノ方向ニ二乃至四仙迷ノ皮膚切開ヲ施コシ横顔面動脈、顳顬動脈並ニ顔面神經ヲ毀損セザル様注意シツ、深入シテ關節骨膜ニ達シ之レヲ切開剝離シ關節頭ヲ遊離シ骨鑿ヲ用ヒテ横徑ニ便宜切除スルニアリ但シ其後方ニ内顎動脈ノ存スルヲ記憶セサルヘカラズ切除後ハ内部ヲ清掃シ消毒「ガーゼ」ヲ挿入シテ普通ノ創傷ノ處置ヲ施コシ早クヨリ受働的運動ヲ練習セシム此法ニヨリ普通ノ機能ヲ頗ルヨク恢復シ得ルモノトス

キユステル E. Kusler. ハ骨性強直ニ對シテ兩側切除法ヲ採用シタリ即チ顎骨縁ニ沿フテ隅角ヨリ上方ニ切開ヲ施コシ枝ノ兩側ヨリ骨膜ヲ全然剝離シテ半月狀截痕ノ方向ニ於テ之レヲ鑿斷スルニアリ但シ顳狀突起ト關節窩ト骨性癒着ヲナシタルキハ同時ニ小頭ヲモ鑿斷シ小片ヲ挺起シテ除去スベシ此法ニシテ充分ナル効果ヲ收得スル能ハサルキハ更ニ顳顬筋ノ硬ク緊張セル一側ニ於テ鳥啄突起ヲモ除去セサルヘカラズ

ロシエー Rochet. ハ關節頭ヲ切除セズ上行枝ヨリ斜菱形小片ヲ切除シ其間ニ咬筋ヲ内外ノ兩半ニ分ツテ其一半ヲ挿入シ内翼狀筋ト縫合シテ治癒セシメタリ

(三) 顎骨切除術

上記ノ方法ニヨリ尙充分ナル開口ヲナスヲ得サルキハ宜シク下顎骨偏側切除術ヲ施コシ或ハ更ニ上行枝上半ノ切除ヲ要スルヲアリ(顎骨切除術参照)

第四節 牙關緊急 Trismus.

下顎骨ノ運動ガ一部或ハ全部阻碍セラレテ上下ノ兩齒列ヲ相遠サケ能ハサル状態ヲ稱ス從テ下顎骨ノ運動ニ關與スル組織ニ於ケル病變ノ結果トシテ來ル關節筋肉神經及ヒ其周圍組織等之レニ屬ス

牙關緊急ハ其原因ニヨリ種々ナル形態ヲ區別ス

- 一、先天性牙關緊急 先天性ニ下顎關節ノ形成不全ニシテ其運動充分ナラサルモノアリランゲンベツクハ下顎短小畸形ニ於テ鳥啄突起ガ比較的長大ナリシタメ顎ノ運動ニ方リ顎骨後面ニ衝突シテ牙關緊急ヲ生シタルヲ見タリ
- 二、強直性牙關緊急 下顎關節ノ強直ハ其假性タルト眞性タルトヲ問ハズ牙關緊急ヲ起ス就中骨性强直ハ其最頑固ナル症ヲナス其條下ヲ見ヨ
- 三、炎症性牙關緊急 咀嚼筋及其附近ニ於ケル急性及ビ慢性ノ炎症ハ一ハ疼

痛ノタメ一ハ筋ノ炎症強直ノタメ牙關緊急ヲ起スベシ

智齒難生、大白齒部ノ齒槽膿瘍、顎骨膜炎、扁桃腺炎、耳下腺炎、顎下腺炎、淋巴腺炎、蜂窠織炎等ニ於テ牙關緊急ヲ見ルハ其急性炎ノ咀嚼筋ニ波及セルニヨルモノニシテ外傷、寒胃、偃麻質斯梅毒等ニアリテハ咀嚼筋ガ慢性間質性炎ヲ發起セルニヨリテ之レヲ生ズ

四、攣縮性牙關緊急 咀嚼筋ガ其運動神經ニ刺戟ヲ受クルガ爲メ攣縮スルニヨリテ發スル牙關緊急ニシテ其刺戟或ハ末梢性ニ來リ或ハ中樞性ニ來ルテタヌス、ストリキニーネ中毒、腸寄生蟲ノ反射刺戟等之レニ屬ス

五、癩痕性牙關緊急 顎骨附近ニ於テ軟組織ガ缺損ヲ生スルヤ其ノ治癒後顯著ナル癩痕形成ヲ遺スヲアリ例之水瘡、實扶的里、火傷等ノ如シ

六、化骨性牙關緊急 炎症或ハ外傷ノ結果トシテ顎骨附近ニ骨性組織ヲ新生シテ生シタル鞏剛ナル索條ハヨク下顎骨ノ運動ヲ抑制スルニ足ルベシ  
顎ノ運動ヲ不全ナラシムル者ナリ例之鳥啄突起ト顎骨トヲ連絡スル骨性癒合ヲ生シ或ハ前記癩痕索條ガ漸ク化骨シテ兩顎ヲ連絡スル骨橋ヲ生成スルガ如シ  
療法 原因ニヨリテ全ク相異ナル

一 先天性牙關緊急ニアリテハ其本性ヲ明カニシ關節成形術ヲ施コスベシ過長ナル烏啄突起ハ之レヲ切除スベシ

二 關節強直ニ原因スルモノハ其條下ニ述タル處置ヲ施コス

三 炎性牙關緊急ニアリテハ其原因ヲ除キ消炎法(外部ヨリ冷電法口内ヨリ防腐性含嗽料)ヲ行ヒ早クヨリ受働的運動ヲ施コスヲヨシトス

四 痙攣性牙關緊急ノモノニアリテハ電氣及按摩法ヲ行ヒ又々受働的運動ヲ營マシム稀ニ筋切離ヲ要スルコトアリ原因ヲ研究スルヲ最必要トス

五 癥痕性牙關緊急ハ其部位ニヨリテ同シカラズ咀嚼筋ノ癥痕收縮ニアリテハ之レヲ切離シ或ハ骨質ヨリ剝離スルモノアリ

表在性ノ大ナル癥痕ニハチールス氏植皮術ヲ施コシテ効アリ

六 化骨性牙關緊急ハ骨質ヲ刺鋸ニテ鋸斷シ或ハ之レヲ鑿斷スルコト常ナリト雖モ或難治ノモノニアリテハ寧ロ下顎骨ノ一部ニ假關節ヲ作為スルヲ以テ勝レリトス

### 齒科學通論後編終

明治四十年十月三日印刷  
 明治四十年十月六日發行

正價金貳圓九拾錢

著者

佐藤運雄

本郷區彌生町二番地口の三十三號

印刷者

中村政雄

麴町區有樂町二丁目一番地

印刷所

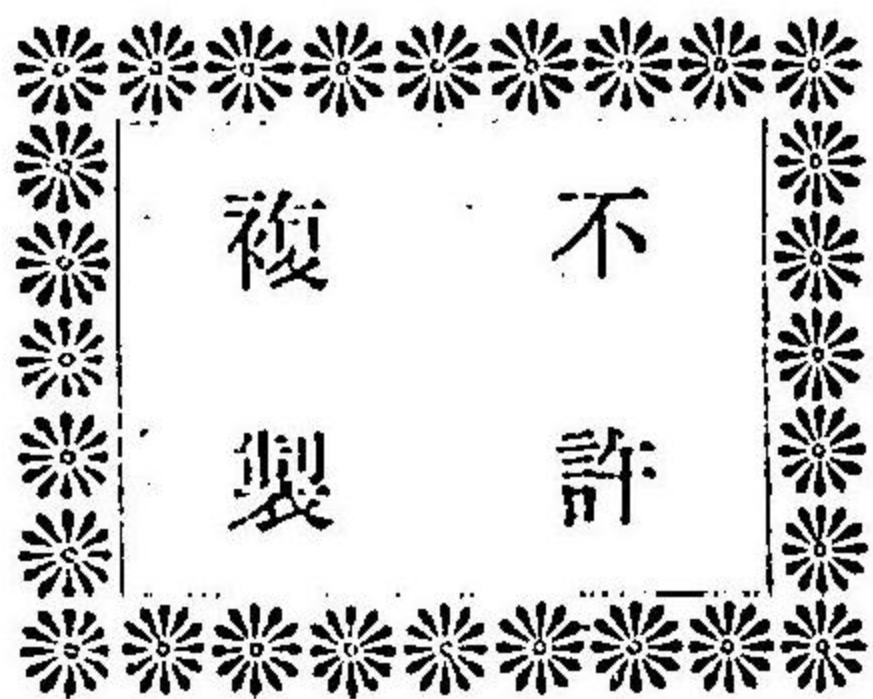
報文社

神田區三崎町二丁目九番地

發行所

齒科學報社

神田區三崎町二丁目九番地



不許複製

賣捌所

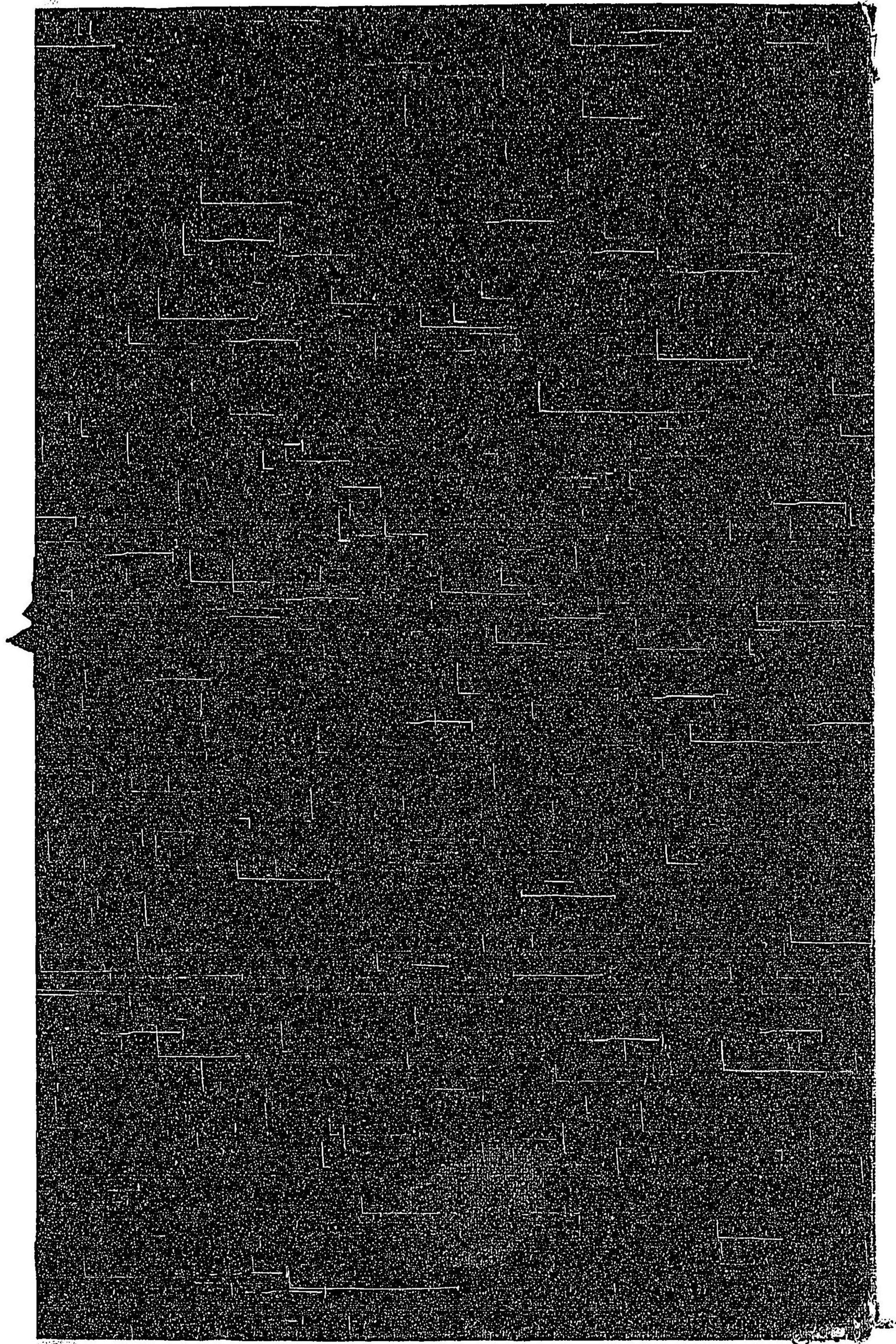
神田區三崎町二丁目九番地  
 本郷區湯嶋切通坂町八番地  
 日本橋區本町三丁目二十番地

齒南 瑞  
 學江 德  
 報社 屋

8.12.15

~~8.12.15~~

58  
24





58  
24

